

Sugiyama

梶山女学園大学

外国語学部

履修の手引

..... 2024

卒業まで
使用します

— 椋山女学園大学憲章 —

地域に根ざした伝統ある女子教育で
豊かな知性と情操を育み
凛として輝く人となる

椋山女学園大学は、1905年に創始された学園の伝統と教育理念「人間になろう」の下、女子教育の先駆者として、多彩な人材を育成してきました。わたしたちの教育は、ここで学ぶ女性が時代の変化とともに自身の役割を見据え、創造し獲得した知を活かし、人を大切に、人と支えあい、自らがなれる人となることをめざします。本学は、このような女子教育を使命とし、ここに大学憲章を宣言します。

○わたしたちの教育

1. 明るくのびやかな人間的魅力に溢れる女性を育成します
2. 実学と教養を身につけ、豊かな人間関係の中で自立し、人々と協同する力を育みます
3. 一人ひとりを大切にしたい教育を実践するための体制や環境を整備します

○わたしたちの研究

1. 学生の興味と関心を育む魅力ある教育につながる研究に努めます
2. 最新の理論や技術を求め、それを活かした研究を推進し、身近な生活課題にも応えます
3. 学術研究の倫理を遵守し、高い誇りをもって研究を遂行します

○わたしたちの社会貢献

1. すぐれた卒業生を輩出し、地元の発展や持続可能な社会の形成に寄与します
2. 教育研究活動の成果を通して、社会的課題の解決に貢献します
3. 学びの門戸を卒業生や社会人にも拓けます

平成28年9月30日制定

学生支援に関する方針

教育理念「人間になろう」の下、椋山女学園大学憲章の「わたしたちの教育」を実現するため、修学支援、生活支援及び進路支援に関する方針を定め、その方針に沿って学生支援を行っていきます。

修学支援方針

- ・学生の豊かな人間性を育成できるよう支援します。
- ・学生の学修に係る支援、相談体制を整備し、教職員が一体となって支援します。
- ・学生の修学環境を整備します。
- ・学生の各種免許・資格課程取得の支援を行います。

目 次

第1部 履修要項

1. 授業 1-2
2. 単位 1-6
3. 履修登録 1-8
4. 試験及び成績評価 1-12
5. GPA 制度 1-17
6. 教養教育科目の履修 1-19
7. 他学部・他学科開放科目の履修 1-22
8. 他大学科目の履修(愛知学長懇話会単位互換事業) 1-23
9. 研究倫理 1-25

第2部 履修ガイド

1. 教育理念と教育目的 2-2
2. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) 2-4
3. 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー) 2-5
4. 育成する4つの能力とカリキュラム・マップ / 科目ナンバリング 2-7
5. カリキュラムの特色・構成・趣旨 2-17
6. 履修のためのガイドライン 2-19
7. 卒業資格について 2-28
8. 授業科目学年配当表 2-30
9. 留学に伴う単位認定制度 2-38
10. 外国語検定試験による単位認定制度 2-39
11. 履修プログラム制度 2-42

【資格関係】

12. 教職課程(英語英米学科のみ) 2-44
13. 学芸員 2-56
14. 日本語教員 2-58
15. 司書 2-60
16. 司書教諭(英語英米学科のみ) 2-62

【専任教員(紹介)】

- 専任教員 2-66

第1部

履修要項

1. 授業時間

学期は前期・後期の2期とし、各期は15週とします。各週は月曜日から土曜日までを授業日とし、授業時間は次のとおりです。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:10 } 10:40	10:50 } 12:20	13:20 } 14:50	15:00 } 16:30	16:40 } 18:10

2. 授業の出欠席

1) 授業は原則としてすべて出席することが求められます。欠席が授業回数の3分の1以上のときは、その授業科目の単位が与えられません。

2) 授業の出欠確認は、①氏名点呼による確認、②受講票・出席カード等の提出による確認、③指定座席表の着席による確認、④小テストやレポート等課題物の提出による確認等、各教科の担当教員の判断により行います。

出欠確認の不正が確認できたときは、依頼者、実行者とも、厳正に対処します。

3) 本学では「公欠制度」はありません。欠席の扱いは各教科の担当教員に一任されているので、欠席理由のある場合は、直接担当教員に申し出てください。

※数週間にわたる入院など、教員と連絡を取ることが不可能な場合は、教務課（係）がこれに代わることがあるため、早期の連絡を心がけるようにしてください。

※裁判員の参加する刑事裁判に関する法律（平成16年法律第63号）に基づき、裁判員選任手続期日及び審理・公判のため、授業を欠席する場合は、教務課（係）に申し出てください。所定様式を提出することにより、成績評価「失格」の要件となる欠席扱いとはなりません。

4) 学校保健安全法に定める学校感染症に罹患した場合は、集団感染予防のため、所定期間は出席停止とします。詳細は、S*map キャンペット一覧にある「学校感染症（学生用）」を確認してください。

3. 授業の種類

1) 必修科目と選択科目

必修科目 卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目

選択必修科目 複数科目の中から所定の単位を修得しなければならない科目

選択科目 適宜自由に選択して単位を修得する科目

2) 授業の形態

半期授業 前期又は後期に開講され、半期で受講が完了する授業

通年授業 1年を通じて開講される授業

隔週授業 1週間おきに開講される授業

隔年授業 1年おきに開講される授業

集中授業 半期又は通年で開講される科目であるが、一定期間にまとめて開講される授業

4. 休 講

学内行事や教員の公務、学会参加、病気等により、授業が休講となる場合、担当教員からの連絡があり次第、S*map 授業情報又は掲示にて通知します。

休講の通知がなく、始業時間から 30 分以上経過しても担当教員の教室への出講がない場合には、教務課（係）の指示に従ってください。

大学の行事又は担当教員の都合により、授業が休講となった場合には、原則として補講を行います。

災害など緊急時における授業及び試験等の休講措置

台風

愛知県尾張東部地域又は、同地域内のいずれかの市町村において暴風警報が発令された場合	午前7時前（7時を含まない）に解除された場合	通常どおり
	午前7時現在で発令されている場合	1・2 限休講
	午前11時現在で発令されている場合	すべて休講
在校中、上記地域に暴風警報が発令された場合	授業や試験又は大学行事は、大学の指示により、休講又は中止となります。	

■注意事項

1. 暴風警報が通学範囲内に発令されている場合、学生は登校を控えてください。
2. 暴風警報以外の警報発令時において交通機関が運休した場合、又は身体の危険を感じた場合も、学生は無理な登校をしないでください。
3. 以上の場合には後日、遅滞なく担当教員に申し出てください。

- 尾張東部地域：名古屋市、瀬戸市、春日井市、犬山市、小牧市、尾張旭市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町



地震		
南海トラフ地震臨時情報（調査中）が発令された場合	災害対策本部からの指示があるまで待機してください。 授業や試験又は大学行事がある場合は指示があるまで中断となります。	
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒 / 巨大地震注意）が発令された場合	在校中の場合	授業や試験又は大学行事は直ちに打ち切られます。 避難については教職員の指示に従ってください。
	在校中でない場合	授業や試験又は大学行事を中止あるいは延期します。 登下校中の場合は直ちに帰宅してください。ただし、状況に応じて大学又は最寄りの避難場所に避難してください。
		授業再開など、その後の対応はホームページ、S*map、災害伝言ダイヤルなどで案内します。

交通機関のストライキ		
名鉄（電車・バス）、名古屋市営交通（地下鉄・バス）のいずれかが、ストライキを実施した場合	午前7時前（7時を含まない）に解除された場合	通常どおり
	午前7時現在でストライキが継続している場合	1・2 限休講
	午前11時現在でストライキが継続している場合	すべて休講

交通機関の運休等の場合	
何らかの事情により交通機関が運休となる場合	授業や試験又は大学行事は、大学の指示により、休講又は中止とする場合があります。

※授業や試験又は大学行事中に休講又は中止となった場合は、各授業担当者又は大学行事の担当教員に出席を報告した後に帰宅してください。

2 単 位

1. 単位制

大学における教育課程は、単位制を採用しています。
 単位制とは、各科目について一定の基準で定められている単位を修得する制度のことです。単位は、授業科目を履修し、筆記試験やレポートその他の方法で試験に合格することにより与えられます。

2. 単位数

1) 単位の計算は以下のとおりです。

科目の種類	単位計算基準	単位数	
		半期	通年
講義	毎週2時間（時間割における1コマ）の授業×15週 （通年で完了する科目は30週）	2	4
演習		1又は2	2又は4
実験・実習・実技等	毎週3時間（時間割における1.5コマ）の授業×15週 （通年で完了する科目は30週）	1	2

※一部上記と異なる計算をする科目もあります。単位の詳細は学則をご覧ください。

2) 1年間の授業は前期・後期の2期にわかれ、各期15週で完了します。各授業科目の所定の単位は、前期（15週）又は後期（15週）で与えられます。

ただし、通年（2期）で完了する授業科目の単位は、その年度末に与えられます。

3) 各授業科目の単位数は、学則第21条に規定するように、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とすることを標準とし、次の基準により計算します。つまり、授業の時間とは別に、授業時間外の自学自修が前提とされていますので、単位修得のためにはしっかり学修に励んでください。

授業形態	単位数	必要な学修時間の計	授業時間数	授業時間外学修（事前・事後学修等）
講義	2単位	90時間	週2時間×15週=30時間	90-30=60時間
演習	1単位	45時間	週2時間×15週=30時間	45-30=15時間
	2単位	90時間	週2時間×15週=30時間	90-30=60時間
実験・実習・実技等	1単位	45時間	週3時間×15週=45時間	（教員の設定する時間）
実習*	1単位	45時間	30時間	45-30=15時間
体育実技	1単位	45時間	週2時間×15週=30時間	45-30=15時間

※※印の実習＝教育実習、学校体験活動、心理実習、ソーシャルワーク実習、保育実習、ふれあい実習、福祉ボランティア

※卒業論文、卒業研究等については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切であると認められる場合は、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めます。

3. 単位の認定 履修した科目の単位認定は、原則として、前期末・後期末に行われる試験に平素の学修状況を加味して行います。
試験は、その学期又は学年中に履修した授業科目について、筆記、口述、実技、論文提出等により行いますが、平常の成績をもって試験に代えることもあります。
また、単位の認定に際し、出席回数が不足していたり、あるいは途中で受講を放棄したような場合は、その科目は「失格」となり、単位の認定はされません。
4. 卒業に必要な単位数 卒業資格を得るためには、4年以上在学し、所定の単位を修得する必要があります。
5. 学位 4年以上在学し、所定の単位を修得した者に対して卒業証書を授与し、次の学位を授与します。

学 部	学 科	学位名称
生活科学部	管理栄養学科 生活環境デザイン学科	学士（生活科学）
外国語学部	英語英米学科	学士（英語英米）
	国際教養学科	学士（国際教養）
人間関係学部	人間共生学科	学士（人間共生学）
	心理学科	学士（心理学）
情報社会学部	情報デザイン学科	学士（情報学）
	現代社会学科	学士（社会学）
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	学士（マネジメント）
教育学部	子ども発達学科	学士（教育学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）

1. 履修登録

履修登録とは、みなさんが授業を受けて単位を修得するために、所属する学部で定められたカリキュラムと時間割及びシラバス（授業内容一覧）に基づき、その年度の履修計画を立て、履修する科目を登録する手続きのことです。登録は、年度始めの所定期間内に終了しなければなりません。この登録を怠ると、授業科目の履修はできず、単位も認定されません。

なお、履修登録前に仮登録を必要とする科目があります。詳しくは教務関係ガイダンスで説明します。

- 1) 新入生オリエンテーション又は在学生ガイダンスに必ず出席し、説明を受けなくてはなりません。
- 2) 各学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー及びカリキュラム・マップ）に従って履修計画をたててください。
- 3) 履修科目選択の参考となるように科目ナンバリングを実施しています。科目ナンバリングについては、「第2部 履修ガイド 育成する4つの能力とカリキュラム・マップ/科目ナンバリング」を確認してください。
- 4) 単位が認定されるのは、履修登録した科目のみとなります。
- 5) 履修登録は、所定の期間内に限り、変更・追加・削除することができます。
- 6) 一度単位を修得した科目を、再び履修登録することはできません。

2. 年次配当

授業科目には、配当年次が指定されているので、その年次に履修してください。ただし、やむを得ずその年次に履修することができなかつた場合は、指定されている年次が在学年次よりも下のものであれば、履修することができます。

なお、授業科目は、それぞれの学年の前期・後期又は通年にわたって開講されますので、履修計画をたてる際には注意してください。

3. 履修登録制限

- 履修規制単位数（その年度に履修できる単位数）を超えて履修登録はできません。
- 履修規制単位数には、卒業要件に関わらない「資格取得に関する科目」の単位数は含みません。また、留学を伴う演習科目、インターンシップに関する科目、愛知学長懇話会単位互換事業として履修する科目についても含みません。（詳細は、教務課（係）に確認してください。）
- 前期に不合格又は失格となった科目の単位数も「履修規制単位数」に含まれます。したがって、後期にその分の履修科目を履修規制単位数を超えて追加することはできません。

4. 履修登録の時期

その年度に履修をする科目の履修登録は、「通年科目（1年間を通じて開講される授業）」「前期科目（前期に開講される授業）」「後期科目（後期に開講される授業）」のすべてを3月から4月の履修登録期間内に行います。

なお、後期授業開始前後に後期科目のみ追加登録、登録削除を行うことができます。

●履修規制単位数一覧（2024年度入学生）

学 科	1年次	2年次	3年次	4年次	備 考
管理栄養学科	49単位	49単位	49単位	49単位	
生活環境デザイン学科	49単位	49単位	49単位	49単位	
英語英米学科	44単位	44単位	44単位	44単位	年間の GPA が 3.3 以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を 4 単位まで上限緩和する。
国際教養学科	44単位	44単位	44単位	44単位	
人間共生学科	48単位	48単位	48単位	48単位	年間の GPA が 3.2 以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を 4 単位まで上限緩和する。
心理学科	48単位	48単位	48単位	48単位	
情報デザイン学科	48単位	48単位	48単位	48単位	年間の GPA が 3.0 以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を 4 単位まで上限緩和する。
現代社会学科	48単位	48単位	48単位	48単位	
現代マネジメント学科	44単位	44単位	44単位	44単位	年間の GPA が 3.2 以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を 8 単位まで上限緩和する。
子ども発達学科	49単位	49単位	49単位	49単位	
看護学科	49単位	48単位	48単位	48単位	

正当な理由がなく、無断で履修登録の手続を怠った学生については、一切登録を受け付けません。

したがって、この場合は、その年次の履修ができず、単位も修得できません。

履修登録の流れ

新入生オリエンテーション・在学生ガイダンス

- 履修登録の説明を行います。

履修計画をたてる

- 「成績表（1年次はありません）」「時間割表」「履修の手引」「シラバス（授業内容一覧）」「Student Handbook」を参照し、1年間の履修計画をたてます。
- 履修登録期間は、受講科目を検討する期間でもあります。授業には初回から必ず出席してください。クラス分けを行う場合もあります。

「履修登録控」の作成

- 履修計画を立案し、「履修登録控」に記入してください。

S*mapから履修登録を行う

- 別冊の操作マニュアル(1年次に配付)を参照
- 完成した「履修登録控」をもとにS*mapから履修登録を行ってください。登録はパソコン・タブレット・スマートフォンを使用してください。
(注)S*mapのスマートフォンアプリからは履修登録できません。
- 登録後「履修登録確認票」を印刷又はPDF保存し、「履修登録控」と照合してください。

教員へ「受講票」の提出

- 「受講票」は、履修するすべての科目について作成し、履修科目の最初の授業（前期及び後期）で直接担当教員に提出してください。

履修登録科目の確定

- 「履修登録確認票」を再度印刷又はPDF保存し、記載内容を確認した上で履修登録の最終的な控えとして必ず保管してください。
- 「履修登録確認票」は、履修登録の根拠資料となります。これをもとに受講者名簿が作成され、単位及び評価の認定が行われます。
- 訂正の有無にかかわらず、履修登録が確定した科目・単位数を確認してください。

履修登録控

学号	学年	学期	履修科目	単位数	履修期間	履修
1	1	A	ATENASO1	1		
2	1	B				
3	1	A				
4	1	B				
5	1	A				
6	1	B				
7	1	A				
8	1	B				
9	1	A				
10	1	B				
11	1	A				
12	1	B				
13	1	A				
14	1	B				
15	1	A				
16	1	B				
17	1	A				
18	1	B				
19	1	A				
20	1	B				
21	1	A				
22	1	B				
23	1	A				
24	1	B				
25	1	A				
26	1	B				
27	1	A				
28	1	B				
29	1	A				
30	1	B				

履修登録確認票

学号	学年	学期	履修科目	単位数	履修期間	履修
1	1	A				
2	1	B				
3	1	A				
4	1	B				
5	1	A				
6	1	B				
7	1	A				
8	1	B				
9	1	A				
10	1	B				
11	1	A				
12	1	B				
13	1	A				
14	1	B				
15	1	A				
16	1	B				
17	1	A				
18	1	B				
19	1	A				
20	1	B				
21	1	A				
22	1	B				
23	1	A				
24	1	B				
25	1	A				
26	1	B				
27	1	A				
28	1	B				
29	1	A				
30	1	B				

受講票

期日(○を囲む)	前期	後期	その他
履修科目			
学 校 名			
学 部 名			
学 期 名			
学 期 番 号			
学 号			
姓			
名			

出欠欄(教員記入欄)

/	/	/	/	/	/
---	---	---	---	---	---

シラバスの活用

履修要項

シラバスとは、授業を担当する教員が、その授業科目の達成目標や概要、成績評価方法、授業計画について記載した文書です。みなさんが履修する科目を選択したり、学修計画を立てる拠り所となるものです。大学での学びを有意義にするためにシラバスに記載されている授業内容をよく理解し、各回の授業内容の確認や予習復習など事前準備をして授業に臨みましょう。

Syllabus SUIYAMA JORDAN UNIVERSITY Syllabus System S*map

シラバス内容 ※育成する能力は、2016年度以降のシラバスから表示項目です。 ※授業のキーワードは、2017年度以降のシラバスから表示項目です。 ※記入項目の変更により、2019年度以前のシラバスについては一部空欄の項目があります。

授業テーマ

授業の到達目標 / 育成する能力
この授業を受けることのような能力が身につくか、何ができるようになるかが確認できます。専門教育科目では、「第2部 履修ガイド」のカリキュラム・マップに記載の育成する4つの能力を確認できます。

授業内容
何を学ぶかが説明されています。

評価方法と成績基準
試験や評価の方法、成績基準が示されています。

担当教員メッセージ
受講生に望むことや事前に留意しておくことなどが書かれています。

履修上の注意
この授業を受けるにあたっての事務連絡などが書かれています。

授業科目名 [Course]	食品学実験 I
担当教員 [Lecturer]	保田 倫子
授業科目区分 [Classification]	専門教育科目
単位数 [Credits]	1単位
授業区分 [Lecture Classification]	実験・実習
所属学科 [Department]	管理
学年 [Year]	1年生
開講期 [Semester]	後期
曜日・時限 [Day・Period]	後期 月曜日 3時限
科目ナンバ [Number]	LN21-FH-021
授業テーマ [Title]	食品分析に必要な基礎知識、分析機器の操作、試薬の取扱い、実験の進め方を考えて実践し、得た実験結果を解析・考察し、実験ノートを作成することを通して実験ノートを作成する手法を会得する。
授業の到達目標 [Objectives]	前期「食品分析学」で習得した基礎知識をベースに、食品分析の手法と実験機種の操作技術を習得する。指定濃度の試薬、試料調製を行い、実験結果を解析、実験ノートとして完成させる。2年生から始まる各種実験の授業の基礎となる知識・技術を身に付ける。
育成する能力 [Capacity to Improve]	知識・理解 [factual knowledge and understanding] 思考・判断 [thinking faculty and discernment] 態度・志向性 [perspective and intentionality]
授業内容 [Course Contents]	必要な知識と技術の基礎を講義形式で復習後、各実験室に解説・説明・実演を行い、グループで同様の実験を実施する。目的、実験操作と結果を実験ノートに記録し、実験レポートを作成する手法を会得する。
授業計画 [Class Plan]	1 実験授業の意義・教養・注意事項などを、食品分析学講義を振り返りながら解説する。(食品分析学授業を復習しておくこと) 2 実験に必要な基礎知識(知識)を習得する。(ピペット・操作、デンプンの扱いなど、種別別の実験、授業後の確認(注意事項)) 3 基礎操作として、ピペット、天秤操作の精確(ピペット・天秤などの正しい使いなど)種別別の実験、授業後の確認(注意事項)など 4 中和滴定実験を通じて、中和反応の理解(食品分析学を復習し、酸・アルカリ濃度決定方法を理解しておくこと) 5 食品中の糖類の検出(糖類)の検出(食品分析学を復習し、そのための検出法)の理解(食品分析学を復習しておくこと) 6 測定に利用される反応の検出(食品分析学を復習し、そのための検出法)の理解(食品分析学を復習しておくこと) 7 食品中の糖類の検出(糖類)の検出(食品分析学を復習し、そのための検出法)の理解(食品分析学を復習しておくこと) 8 比色分析の原理と検出(糖類)の検出(食品分析学を復習し、そのための検出法)の理解(食品分析学を復習しておくこと) 9 濃度飲料水中の還元糖及びグルコースの比色法を測定し、比色分析での検出の原理を学ぶ。(手続の復習しておくこと) 10 測定した比色分析結果をグラフ化し、定量的に検出する。(検出結果をグラフ化し、検出率を算出しておくこと) 11 これまでの知識と技術を用い、シラバスの指定濃度の試薬、事前に準備した食品を用いて、実験を進め、理解不足の箇所を補正するなど 12 20°C前後の基礎知識を講義形式で解説する。(講義及び学習進度に集中すること。また復習しておくこと) 13 TLによる食品中の糖類の検出(糖類)の検出(食品分析学を復習し、そのための検出法)の理解(食品分析学を復習しておくこと) 14 TLによる食品中の糖類の検出(糖類)の検出(食品分析学を復習し、そのための検出法)の理解(食品分析学を復習しておくこと) 15 実験授業のまとめと確認し、演習を適切に行う。(演習できなかったところを復習しておくこと)
授業の進め方 [Method]	毎回の授業開始時(総合的)に解説を行い、最後に総合的・解説・今後必要なことを講義する。前期の「食品分析学」で学んだことが、各実験のベースの知識として、講義授業の意義・目的・原理・注意事項などを事前に見学を通じ、理解の上グループで実験を行う。全員の安全の確保に特別に留意し、必要に応じて指導員による指導を受ける。
課題(試験レポート等)に対するフィードバック [Instructor Feedback on Coursework]	実験ノートを作成・提出し、返却されたノートから実験の復習・改善点およびレポートの作成方法を学ぶ。
アクティブラーニング [Active-learning]	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> デベート・討論 <input type="checkbox"/> フォーラムワーク <input type="checkbox"/> ブレインストーミング <input type="checkbox"/> 野外授業 <input type="checkbox"/> 制作 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> 書籍・雑誌 <input type="checkbox"/> 情報収集 <input type="checkbox"/> 図書館・インターネットによる情報収集 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 課題研究 <input type="checkbox"/> その他()
評価方法と成績基準 [Evaluation & Grading Criteria]	以下を元に総合的に評価する 授業参加(10%) 実験ノート(40%) 実験レポート(50%) 実験ノートは、グループでの実験結果と個人の結果、他グループの結果、実験前後の比較考察、原理・操作・結果に関する考察(特に結果に留意して)を記入し、内容を習得する。(2時間)
授業時間外学修 [Preparation/Review]	事前:記名する実験資料冊子より読み、復習する。実験ノートに実験ノートシートを作成し、結果を記入する。実験ノートを作成してから実験に臨む(2時間) 実験後:1日は、グループでの実験結果と個人の結果、他グループの結果、実験前後の比較考察、原理・操作・結果に関する考察(特に結果に留意して)を記入し、内容を習得する。(2時間)
担当教員メッセージ(受講生に宛てた) [Message to Students]	これから学習するまで、様々な実験の検出に取組みますが、それらの一番最初の最も基礎的な実験です。しかし習得することで、今後の実験の検出で下積みのような操作、理解も少なくなります。これらの実験授業を乗り切らねばならないため、コツコツ練習しましょう。実験ノートの作成は「ためごころ」に留意し、授業の進め方だけでなく必ず予習復習をしっかりと行い、授業に臨んでください。
履修上の注意 [Notes]	実験は、主にグループで行われ、欠席は厳禁です。また、実験操作に積極的に参加することが重要です。他を指導する場合は、必ず指導員に連絡すること。化学実験を行う場合は、各種試薬の取り扱い、また、器具・機種の取り扱いに十分注意すること。また、実験室には、安全な環境を整えています。毎回の実験結果を習得するためには、その実験の目的、方法、原理などについて事前に授業に臨んでおくことが重要です。知識、技術確保と安全のために必ず予習復習をしっかりと行い、授業に臨んでください。
キーワード [Keyword]	実験器具、実験機種、検出法、実験ノート、食品化学、食品学、食品分析学、化学
教科書 [Textbook]	資料集 他者「シラバス実験シリーズ 食品学実験」建策社・前期「食品分析学」で使用。
参考書 [Supplementary Materials]	事前配布の「食品学実験」資料 保田 倫子 等 共著「イラストで見る食品分析学」 化学同人編集部編「実験と安全な化学」 化学同人編集部編「食品分析学」 化学同人編集部編「食品分析学」
担当教員の業務経験と当該授業との関連 [Relationship between practical experience of the teacher and the class]	

基本情報
授業科目名、担当教員、単位数、学年、開講曜日時限など。

授業計画
各回の授業内容が書かれています。また、予習・復習についても示されている場合があります。

授業の進め方
どのように授業を進めるかが書かれています。

授業時間外学修(事前・事後学修等)
全体を通しての予習・復習や授業に臨むに当たっての心構えなどが書かれています。

キーワード

教科書：授業で使用するテキストです。
参考書：参考書は必要に応じて購入したり図書館で借りるようにしましょう。

1. 試験について

試験には定期試験、追試験、再試験があり、筆記試験・レポート提出・実技試験などの方法で行われます。試験の結果は、S*mapの「履修科目合否表」で確認することができます。必ず自分で確かめてください。

《単位認定及び追試験・再試験に関する内規》

試験（筆記、レポート、提出物、実技、実験、実習等をいう。以下同じ。）

- 定期試験 → 授業が完結した学期の終わりに実施する試験で、単位認定・成績評価の基準とする。
- 追試験 → 定期試験を病気その他正当と認められる事由で欠席した者に対して行われる試験である。追試験を受けようとする者は、「追試験願」に診断書又は欠席事由を証明できるものを添えて、当該試験期間終了後5日以内（休日は含まない。）に教務課（係）に提出しなければならない。上記の手続後、教務委員会の許可を得て、追試験時間割に従って受験することができる。追試験を欠席した者、追試験で不合格となった者には再試験は実施されない。

*追試験の理由となる例とその提出書類

欠席事由	必要書類
病気又はけが※ ¹	医師の診断書※ ² ※ ³ 、入院証明書、その他各学部教務委員会が適当と認める書類
公共交通機関の遅延	駅等で発行する証明書（遅延証明書等）
不慮の事故（交通事故等）、災害（火災等）	警察署の事故証明書、被災証明書、その他事実を明らかにする書類等
2親等以内の親族の不幸 ※適用期間は死亡日又は葬儀の日から起算して次のとおりとする。 ・配偶者及び1親等 連続7日以内（休日を含む。） ・2親等 連続3日以内（休日を含む。）	通夜、会葬を証明できるもの又は死亡に関する公的証明書（会葬礼状等）
裁判員制度に係る事項	裁判所が発行する証明書
資格に係る実習等	各種委員会委員長又は学科主任が発行する証明書
公務員試験及び教員採用試験	受験証明書又は受験票（写し）
就職試験	受験を証明する書類※ ⁴
教務委員会で許可された研修等	審議願、参加証明書等
本学が認定するインターンシップ	大学と実習先との覚書（写し）

※¹ 病気には、学校保健安全法施行規則に定める、第一種感染症患者が発生した家に居住する場合及び同感染症発生地域に居住地域的外出禁止となった場合を含む。

※² 診断書には、欠席をした日付・期間が明記してあること。

※³ 学校感染症に罹患した場合の必要書類については、学校感染症罹患証明書（本学所定様式）の提出でも可能とする。

※⁴ 郵送等による通知書面、メール案内文書、web予約画面、受験証明書等、欠席をした日付が明記してあること。

○再試験 → 成績評価判定が不合格（評価D）となった者に対して実施されることがある（再試験実施の有無は、別途通知）。再試験の結果は、C（合格）またはD（不合格）・欠（欠席）とする。

再試験を欠席した者、再試験で不合格となった者には再度の試験は実施されない。

再試験の受験には、再試験願を定期試験の可否発表開始日及びその翌日（休日を除く）に教務課（係）へ提出しなければならない。

2. 試験時間帯

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:10	10:50	13:20	15:00	16:40
∪	∪	∪	∪	∪
10:40	12:20	14:50	16:30	18:10

3. 試験時間割

試験に関する時間割は、平常授業と曜日・時間帯・教室が異なることもありますので、特に注意が必要です。

- 1) 定期試験 試験期間の1週間前までに通知します。
- 2) 追試験 定期試験可否発表日に通知します。
- 3) 再試験 定期試験可否発表日に通知します。

4. 受験資格

次のいずれかに該当する者は、受験資格がありません。

- 1) 履修登録をしていない者
- 2) 学生証（仮学生証）を所持していない者
- 3) 受験する科目の授業を3分の1以上欠席している者
- 4) 休学中の者
- 5) 追試験において受験許可を得ていない者
- 6) 再試験において再試験手続を行っていない者
- 7) その他受験資格に欠格があると認められた者

5. 受験注意

受験に際しては、以下のことに注意し、試験室の掲示等指示に従ってください。

- 1) 試験開始後30分以上遅刻した場合は受験できません。
- 2) 試験開始後35分を経過するまでは退出できません。
- 3) 試験中は、学生証を監督者が確認しやすい位置に置いてください。
- 4) 試験中机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及び授業担当者が許可したものに限りです。
- 5) 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等、通信機能を持つ機器の使用は認められませんので、電源は切って、かばんの中に入れてください。
- 6) 試験中は監督者の指示に従ってください。

（注）以上の事項に関して監督者（代理も含む。）から別の指示があった場合は、その指示が優先されます。

6. レポート

科目によって、レポートの提出により成績評価を行う場合があります。

<提出方法>

- ・担当教員が提出方法、日時を指示し回収する場合はそれに従ってください。
- ・レポートの用紙、形式については指示に従ってください。
- ・レポートには必ず所定の表紙（S*map のキャビネットからダウンロードできます）をつけ、原則として左上1個所で綴じます。

7. 不正行為

定期試験、追試験又は再試験において不正行為等（以下のものをいう。）を行った場合は、「試験中の不正行為に関する懲戒規準」によって処分されます。（諸規程を参照）

【筆記試験の場合】

- 1) 当該試験科目に関係するカンニング用の紙片、授業に関連した情報が入力されている情報機器等の不正行為に使用できる物を使用可能な状態で所持する行為
- 2) 隠し持ったカンニング用の紙片若しくは他人の答案を見て、又は情報機器等を使用して解答する行為
- 3) 他人に代わり受験し、又はこれを依頼する行為
- 4) 試験監督の指示に従わない行為
- 5) その他試験に関し不正行為と見なし得る行為

【レポート、作品等の場合】

- 1) 他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに流用する剽窃行為
- 2) 他人が作成したレポート等を、自己の名前又は前後関係や語句等を書き換えて提出する行為
- 3) レポート等の作成を代行する企業又は個人等の他者に作成を請け負わせ、納品物を自己が作成したものとして提出する行為
- 4) データの捏造、改ざん等を行う行為
- 5) その他公正な成績評価を妨げると認められる行為

試験において不正行為を行い、訓告、停学又は退学の懲戒を受けた者は、その試験期間内に実施した全科目（訓告の場合は当該科目のみ）の成績が「失格」評価となり、追試験、再試験を受験することもできません。また、懲戒処分の対象とならない場合においても、授業担当教員により成績評価に反映されます（減点又は「失格」評価として取り扱う）。

授業中・試験期間外に実施される（小）筆記試験や（小）レポートに不正行為があった場合においても授業担当教員により成績評価に反映されます（減点又は「失格」評価として取り扱う）。

8. 成績評価基準

成績評価基準は、次のとおりとします。

判定	評語	評価の基準	
合格	S又は㉔	100点～90点	当該事項の到達目標の内容をほぼ完全に理解し、説明できるものと認められる。
	A又は㉕	89点～80点	当該事項の到達目標の内容を十分に理解し、説明できるものと認められる。
	B又は㉖	79点～70点	当該事項の到達目標の基幹部分は理解し、説明できるものと認められる。
	C又は㉗	69点～60点	当該事項の到達目標のうち、最低限の部分は理解し、説明できるものと認められる。
不合格	D	59点以下	当該事項の到達目標に及ばない。
失格	失	授業を3分の1以上欠席している場合	
		授業又は試験において不正行為があった場合	
欠席	欠	試験の受験資格を有するが、受験しなかった場合	
認定	N又は㉘	全学共通科目「人間論」における単位認定	
		他大学で修得した単位及び資格の取得等により本学の成績基準で読み替えができない場合の単位認定科目	

(注) 丸つき評語は、外国の大学において修得した授業科目の評価を本学の授業科目を単位修得したものとみなして単位認定する場合に使用する。

9. 成績評価に関する調査

試験の成績評価又は不合格に対して疑問がある場合は、指定期間内に教務課（係）に疑問調査を願い出ることができます。

追試験・再試験手続

追試験

再試験

定期試験実施

正当な事由で欠席

- 履修登録科目でかつ受験資格のある科目に限ります。

追試験願の提出

- 試験期間終了後5日以内に教務課(係)にて『追試験願』に記入し、診断書又は欠席事由の証明できる書類を提出。
- 電話での受付は行いません。
- 学生証持参のこと。

追試験願(学生控兼受験票)の受領

- 追試験願(学生控兼受験票)が受験票になりますので紛失しないように、各自で大切に保管してください。再発行は行いません。
- 試験当日追試験願(学生控兼受験票)を提示すること。

合否発表・試験時間割発表

- 成績が「欠」になっているか、教室・日程・課題の配付等ないか確認してください。

追・再試験受験

追・再試験合否発表

合否発表

- S*mapにて確認。電話での問合せには応じません。

不合格(D評価)がある

再試験日程の発表

- 再試験時周割に記載されている科目のみ再試験が行われます。定期試験合否発表日にお知らせします。

再試験願の提出

- 『再試験願』を教務課(係)窓口で受け取り必要事項を記入し、再試験料を納入のうえ提出。学生証持参のこと。
- 申込みは合否発表開始日及びその翌日とする(休日は除く)。
- 希望者は筆記試験・レポート(課題提出)とともに手続を行うこと。

再試験願(学生控兼受験票)の受領

- 再試験願(学生控兼受験票)は紛失しないように、各自で大切に保管してください。再発行は行いません。
- 試験当日再試験願(学生控兼受験票)を提示すること。

- ・追・再試験の合否発表は別途お知らせします。
- ・受験に関しては、定期試験の受験注意に従ってください。

1. GPA制度とは

学修成果については、本学の定める成績評価基準に基づいて厳正な評価が行われています。科目の履修にあたっては、単位の修得のみならず、優れた成績を達成するよう努めなければなりません。皆さんが主体的に学修し、自らの学業成績を的確に把握して、適切な履修計画と学修への取り組みに役立つように、GPA制度を導入しています。

GPAとは、Grade Point Average（グレード・ポイント・アベレージ）の略で、履修登録科目の成績平均値を意味します。GPAは学修の質を評価する国際標準となっており、合格した科目だけでなく、不合格科目や履修放棄した科目もGPAの算出対象となります。

本学ではGPA制度を主に次の目的に利用するために導入しています。

- 1) 学生自身による成績の認識、ならびに勉学に奮起するための動機付け
- 2) 履修科目の安易な届出と、途中放棄の防止
- 3) 奨学金授与等における判定
- 4) 進学及び就職活動等における推薦者の選抜基準

2. GPA導入の
意義

成績評価（S・A・B・C・D・失・欠）を成績値（グレード・ポイント＝GP）に換算してGPA（成績平均値）を出すことで、分かりやすく、対外的にも通用する成績評価となります。学生はGPAを知ること、学業成績の状況を的確に判断し、自らの学修に対して主体的に自己評価することができ、その後の履修計画を適切に立てられます。

< GPAによる学修支援 >

次のとおりGPAを基にした履修指導・進路指導等を行います。

- ① GPAによる履修指導の目安として、通算GPAが1.5以下又は当該半期のGPAが1.0以下の学生に対して、指導・助言等を行います。
- ② 上記①の履修指導を行ったにもかかわらず、修得単位数が著しく少ないことに加え、次期半期GPAが1.0以下の場合、退学勧告を含めた履修指導・進路指導等を行います。

（ただし、本人及び学修・生活指導教員の意見を聴いた上で、成業の可能性があると判断されれば、この限りではありません。）

3. 不合格科目等
の取扱い

- 1) 失格となった科目、正当な理由なく試験を欠席した科目、成績評価がDとなった科目のGPはすべて0.0としてGPAの算出対象となります。
- 2) 追試験・再試験を受験した科目はその評価をGPに換算します。追試験・再試験で合格した場合、その評価が当該期のGPAに反映されます。不合格となった場合、その科目のGPは0.0として、当該期のGPAに反映されます。

4. GPAの算定
基準

履修した科目の成績評価は、各科目で指定された成績評価の方法を基準に以下のよ
うに判定され、S・A・B・C（合格）の場合、所定の単位が与えられます。

成績評価の基準を5段階（S、A、B、C、不合格・失格・欠席）で表し、それぞれに4.0・
3.0・2.0・1.0・0.0のGPを付与し、平均値を算出します。

判 定	評 語	成績評価基準	G P
合 格	S	100点～90点	4.0
	A	89点～80点	3.0
	B	79点～70点	2.0
	C	69点～60点	1.0
不合格	D	59点以下	0.0
失 格	失	—	0.0
欠 席	欠	—	0.0

各科目の成績評価をG Pに換算し、これに科目の単位数を掛けて、その合計単位数
を当該期で履修登録した科目[※]の総単位数で割ったものがG P Aとなります。

5. GPAの
算出式

$$G P A = \frac{(4.0 \times S \text{の修得単位数}) + (3.0 \times A \text{の修得単位数}) + (2.0 \times B \text{の修得単位数}) + (1.0 \times C \text{の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

※『履修登録した科目』とは原則履修登録期間においてS*mapに登録された科目。

- G P Aの算定基準日は原則前期9 / 20・後期3 / 31 までに評価のあった成績を対
象とします。
- インターンシップ及び海外演習系の科目についてはG P Aの算出対象としません。
また、編入学、転学部・転学科、再入学、他大学との単位互換制度等による単位認
定科目、卒業要件に含まない資格に関連する科目、履修登録削除の手続きを認められ
た科目、その他当該学部で対象外と認められた科目についても除外します。
- G P Aの確認方法はS*mapの成績確認用メニューの『履修科目合否表』と『成績表』
から行います。『履修科目合否表』は前期・後期と通年の、『成績表』は当該年次ま
での通算G P Aを記載しています。（『成績(単位修得)証明書』には記載されません。）
- 期の途中、やむを得ない理由で履修登録を削除したい場合は所定の期間において書
面での手続が必要です。例) 長期にわたる入院・ケガ等により通学困難な場合

各期で算出されたG P A値はS*mapから履修科目合否表・成績表で確認できます。
活用方法については各学部の『履修ガイド』やガイダンス等でご確認ください。

1. 教養教育の目的

教養教育は、幅広い教養を身につけ、豊かな人間性を育成し、社会の要請に応える基礎的能力の育成を目的としています。

幅広い教養とは、様々な学問成果の基本を理解し、異文化・自文化を理解し、諸問題に対応しうる社会的、市民的教養のことであり、これらの教養を高めることで、豊かな人間性の育成を図ります。また、社会の要請に応える基礎的能力として、コミュニケーション能力、情報処理能力、メディア活用力・情報収集分析力、論理的思考力・課題発見力等を育成します。

2. 7つの領域

教養教育は7つの領域に分かれており、バランス良く修得することで、幅の広い教養を身につけ、豊かな人間性を養うことができます。7つの領域の目的は、次のとおりです。

領域1 思想と表現	人間の築き上げた思想、芸術、文化などとその受容の在り方を学び、人間の精神活動全般への理解を深めることによって、豊かな自己表現能力や判断力を育成します。
領域2 歴史と社会	現代に至るまでの人類の歩みや、社会のさまざまな仕組み・事象を総合的に理解することを通して、社会が直面する課題を具体的に把握し、問題を解決し、将来を展望することができる能力を育成します。
領域3 自然と科学技術	科学技術の進歩と発展により、豊かになった人間社会の中で、自然と科学技術への理解を深め、人間の生き方を選択・決定していく能力を育成します。
領域4 数理と情報	コンピュータの操作技術やマナー、情報処理システムの構造や原理、数理学の思考方法や解析方法の基礎を学び、現代社会において必要とされる情報処理の能力や技術、数理感覚を育成します。
領域5 言語とコミュニケーション	国際化の浸透する現代社会を生きるための基本的能力である、外国語コミュニケーション能力を育成します。
領域6 健康とスポーツ	充実した生活の基盤となる健康の保持増進を図るとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るための知識や技術を実践しながら体得します。
領域7 トータルライフデザイン	女性が社会で自立して生きていくための基礎的能力・スキルを育成するとともに、他者と共に生きる社会の中でさまざまな役割を果たし、ライフステージにおける課題を乗り越え、生涯というタイムスパンで自分の人生をデザインするための基礎的な力を育成します。

3. 全学共通

教養教育科目を全学部で共通化し、原則として全ての教養教育科目を履修することができます。

ただし、カリキュラム等の理由により、一部の科目は特定の学部生しか受講することができません。

4. 履修方法

教養教育科目時間割から、履修を希望する科目を、履修登録期間中に S*map で登録する必要があります。ただし、受講希望者が、授業の定員数を上回った場合、受講者を抽選することがあります。

5. 授業科目

*科目ナンバーのルールについては、第2部を確認してください。

領域	科目名	単位数	配当学年	科目ナンバー*
思想と表現 領域1	哲学	2	1	ZK01-TE-010
	文学	2	1	ZK01-TE-020
	芸術	2	1	ZK01-TE-030
	心理	2	1	ZK01-TE-040
	言語	2	1	ZK01-TE-050
	人類学	2	1	ZK01-TE-060
歴史と社会 領域2	歴史	2	1	ZK01-HS-010
	法	2	1	ZK01-HS-020
	日本国憲法	2	1	ZK01-HS-030
	経済	2	1	ZK01-HS-040
	社会	2	1	ZK01-HS-050
	地理	2	1	ZK01-HS-060
	教育	2	1	ZK01-HS-070
自然と科学技術 領域3	物理の世界	2	1	ZK01-NS-010
	化学の世界	2	1	ZK01-NS-020
	環境の科学	2	1	ZK01-NS-030
	地球の科学	2	1	ZK01-NS-040
	生命の科学	2	1	ZK01-NS-050
数理と情報 領域4	数理の世界	2	1	ZK01-MI-010
	統計の世界	2	1	ZK01-MI-020
	コンピュータと情報Ⅰ	2	1	ZK01-MI-031
	コンピュータと情報Ⅱ	2	1	ZK01-MI-032

領域	科目名	単位数	配当学年	科目ナンバー*
言語とコミュニケーション 領域5	外国語（英語A）	1	1	ZK01-LC-010a
	外国語（英語B）	1	1	ZK01-LC-010b
	外国語（英語C）	1	1	ZK01-LC-010c
	外国語（英語D）	1	1	ZK01-LC-010d
	外国語（ドイツ語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-021
	外国語（ドイツ語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-022
	外国語（フランス語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-031
	外国語（フランス語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-032
	外国語（中国語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-041
	外国語（中国語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-042
	外国語（ポルトガル語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-051
	外国語（ポルトガル語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-052
	外国語（スペイン語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-061
	外国語（スペイン語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-062
	外国語（ハングルⅠ）	1	1	ZK01-LC-071
	外国語（ハングルⅡ）	1	1	ZK01-LC-072
スポーツと健康 領域6	健康とスポーツの理論	2	1	ZK01-SP-010
	健康科学※	1	1	ZK01-SP-020
	スポーツ実習 A	1	1	ZK01-SP-030a
	スポーツ実習 B	1	1	ZK01-SP-030b
トータルライフデザイン 領域7	ファーストイヤーゼミ	1	1	ZK01-CL-010
	ジェンダー論入門	2	1	ZK01-CL-020
	生活と防災	2	1	ZK01-CL-030
	思考のスキル入門	2	1	ZK01-CL-040
	AI・データと社会	2	1	ZK01-CL-050-M
	ワークキャリアデザイン	2	1	ZK01-CL-060
	ビジネススキル入門	2	2	ZK01-CL-070
	キャリア形成実習Ⅰ	1	2	ZK01-CL-081
キャリア形成実習Ⅱ	1	2	ZK01-CL-082	

※「健康科学」は教育学部生のみ受講可能です。

※必修科目や領域ごとに必要な単位数等は、学部・学科で異なります。

※配当学年は、学部によって異なることがありますので、詳しくは第2部の教養教育科目のページを参照してください。

6. その他

詳しくは、新入生オリエンテーション又は在学生ガイダンスで説明します。

1. 他学部・他学科開放科目の履修とは
- 他学部・他学科開放科目の履修（以下「他学部履修」という。）とは、自分の所属する学部（あるいは学科）以外の授業科目が履修できる制度です。他学部履修にあたっては、次のことに注意してください。
- ・ 学業と学外活動とのバランス
 - ・ これまでの単位修得状況
 - ・ 卒業要件との関連
 - ・ 将来の進路に必要と考えられる知識やスキル
 - ・ 研究対象への新たな視点・刺激
 - ・ 他学部履修に関するルール等
- 各学部の『履修の手引』及び『他学部・他学科開放科目時間割』（は教務課及び日進キャンパス事務課、S*map のキャビネットで確認することができます。
2. 履修上の注意
- 1) 履修登録にあたり、自身の所属する学部で規定された履修規制単位数を超えて履修することはできません。
 - 2) 履修できる科目は、他学部・他学科開放科目時間割に記載されている科目に限ります。
3. 修得した単位の取扱い
- 修得した単位は、卒業に必要な単位数に含まれます。修得単位は「(自由選択)」として認定されますが、認定方法は所属する学部によって異なります。
- 卒業に必要な「(自由選択)」の最低修得単位数に含むことのできる上限は次のとおりです。

学科	含むことのできる単位数
管理栄養学科	(自由選択) 0 単位のうち 0 単位
生活環境デザイン学科	(自由選択) 14単位のうち 8 単位
英語英米学科	(自由選択) 18単位のうち12単位
国際教養学科	(自由選択) 18単位のうち12単位
人間共生学科	(自由選択) 20単位のうち 8 単位
心理学科	(自由選択) 20単位のうち 8 単位
情報デザイン学科	(自由選択) 10単位のうち10単位
現代社会学科	(自由選択) 20単位のうち12単位
現代マネジメント学科	(自由選択) 10単位のうち10単位
子ども発達学科	(自由選択) 10単位のうち10単位
看護学科	(自由選択) 0 単位のうち 0 単位

※この上限単位数は、学則第 20 条の 2 から第 20 条の 5 までに規定する他の大学等において修得した単位数の合計

4. 履修登録・方法
- 履修登録は通常の科目と同様 S*map より行います。ピンク色の受講票を教務課(係)で受け取り第 1 回目の授業で担当教員へ提出してください。
- ※必ず第 1 回目の授業から出席し、ガイダンスや諸注意を受けてください。受講希望者数によっては、他学部履修者は受講制限されることがありますので予めご了承ください。

1. 愛知学長懇話会
単位互換事業

愛知学長懇話会単位互換事業は、愛知県内すべての4年制大学が加盟する「愛知学長懇話会」において締結された「単位互換に関する包括協定」により、加盟大学に所属する学生が他の大学で開講される科目を履修し、所属する大学の単位として認められる制度です。

愛知県の大学に在学するメリットの一つとして、ぜひ活用してください。

受講料は、包括協定に基づき「無料」です。

（ただし、科目によっては、実験・実習等に必要な実費が必要な場合があります。）

2. 出願資格

本協定加盟大学の学生は、愛知学長懇話会ホームページ（<https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp>）に記載された科目の受講が可能ですが、それぞれが定める「出願資格」「履修条件」を満たしていることが必要です。所属する大学においても、履修できる科目や単位認定の可能な科目について独自の設定をする場合があるので、これらの条件等についても、あらかじめ確認する必要があります。

本学においては、管理栄養学科及び看護学科を除く2年生以上が出願可能です（休学中の履修は不可）。

3. 出願手続

S*map のジャーナルでお知らせします。教務課窓口で確認、手続をしてください。

【出願方法】

- 出願手続は、前年度の3月下旬に行います。（後期開講科目は8月にも追加手続可能です。）詳細はS*map ジャーナルでお知らせします。
- 愛知学長懇話会ホームページ（<https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp>）を参照して、所定の「単位互換履修生（特別聴講生）」出願票を、1科目につき1枚記入して、所属する大学の窓口へ申し込みます。
- 出願票は、本学教務課から科目開設大学にまとめて送ります。
- 出願票を受理した科目開設大学は、募集定員や出願票に記入された「志望動機」に基づいて受講者の選考を行います。
- 受講の可否は、4月末ごろに所属大学を通じて通知されます。

4. 履修手続

科目開設大学によっては、独自の手続が必要な場合もありますので、その場合は、それぞれの大学の指示に従ってください。実験・実習費等の納入が必要な場合は、受講が決定してから科目開設大学の指示に従ってください。

なお、当該授業科目は、履修登録制限単位数及びGPAには算入されません。

5. 仮受講票

出願した科目の受講可否が通知される前に、その授業が開始される場合、その期間は「仮受講」が可能です。仮受講期間中は、出願票のコピーを携帯し、仮の受講票とすることができます。

6. 履修期間中
- 1) 履修手を完了した学生は、科目開設大学における「単位互換履修生」又は「特別聴講生」となり、それぞれの大学において定められた範囲内でのサービス等を受けることができます。
 - 2) 科目開設大学によっては、単位互換履修生(特別聴講生)の身分証明書を発行します。
 - 3) 休講等にかかる連絡は、原則として科目開設大学において掲示等で案内されるほか、学生所属大学への通知によって行われます。
 - 4) 受講科目を履修し、科目に定められた方法による試験等に合格すれば、単位の認定を受けることができます。
7. その他の注意事項
- 1) それぞれの科目に「履修条件」や「募集定員」等があり、出願にあたっては科目ごとの諸条件をよく理解してから申し込んでください。
 - 2) 科目開設大学へのアクセスについても考慮し、所属大学での時間割とあわせて無理のない履修計画をたててください。履修登録したにもかかわらず、通学条件等の理由で途中から受講を放棄しなければならないケースも予想されます。
 - 3) 卒業年次の学生は、自分の卒業所要単位修得状況や見込みにも注意してください。単位互換科目の受講可否や単位修得の可否が卒業に影響する場合は申請できません。
 - 4) 科目開設大学の学年暦にもよく目を通し、履修・試験・単位認定に関わる諸条件(日程を含む。)を十分理解するよう心がけてください。
 - 5) 履修許可された後(授業期間の途中も含む。)の科目の受講の取り止めは原則としてできません。

「研究倫理」：レポート・口頭発表資料・卒業論文・修士論文等の作成に当たっての注意

研究倫理教育の必要性

昨今、研究論文のデータ捏造などの研究活動上の不正行為が大きな社会問題となっています。大学生・大学院生の皆さんは、「コピペ」という言葉を耳にしたことがあると思いますが、これも研究活動上の他人の文章の盗用にあたり、社会問題の一つとして厳しい処分を受けることになります。

私たちの社会は、研究活動を通じて身の回りにある事象を正しく見て、正しく考え、正しく対処することの繰り返しによって成り立ち、今日の科学技術の発展に繋がっています。もし、不正行為がまかり通ってしまえば、間違った情報による結果を利用することになり、私たち自身が大きな被害を受けることにもなります。

こうした社会的信頼を失わないためにも、基本となる研究活動の取り組み方を考える必要があります。

椋山女学園大学では、研究倫理教育という考えのもと、正しい研究活動への取り組みが行われるよう支援を行っています。

<研究活動における不正行為とは何か？>

「研究活動による不正行為」とは、研究成果の内容に、データや調査結果等の捏造（ねつぞう）、改ざん及び盗用を行うことです。以下の不正行為は、授業等で課題として提出するレポートにも該当し、適用されます。

①捏造

存在しないデータ、研究結果等を作成することです。実際に行っていない実験の結果や原資料収集処理の結果等をでっち上げることを言います。

②改ざん

研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。研究活動成果のつじつま合わせをすることを言います。

③盗用

他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究者の了解又は適切な表示なく流用すること。他の研究者の文章や図版を引用する際に、引用元（出典元）を明記せず、自分の考えとして作成（発表）することを言います。「コピペ」もこれに当たります。

④二重投稿

他の学術誌等に既発表（学会の口頭発表は含まれません。）又は投稿中の論文と本質的に同じ論文を投稿すること。

⑤不適切なオーサーシップ

論文著作者が適正に公表されないこと。論文の作成に関わった著作者、共著者、実験やデータの分析に関わった人は、すべて掲載することが求められています。これらの人々が掲載されないことを指しています。

<研究活動の基本事項>

レポート・口頭発表資料・卒業論文・修士論文等の作成に当たり、調査や研究に取り組むこととなりますが、その中に、意図的でないにしろ、不正行為となってしまう例が多々ありますので、以下のことを踏まえて、研究活動を進めていきましょう。

①研究を行うに当たっての責任

研究を行うに当たっては、関係法令や本学の諸規程を遵守するとともに、社会からの信頼と負託の上に成り立っていることを自覚し、良心と信念に従い誠実に行わなければなりません。

②情報・データの収集及び管理

研究に関する情報やデータは、科学的かつ一般的に妥当と考えられる方法、手段により、収集、保管を行わなければなりません。

③インフォームド・コンセント

人の行動、思想信条、環境、心身等に関する個人情報、データ等の提供を受けて研究を行う場合は、提供者（被験者）に対し、事前に研究の目的、収集方法等について分かりやすく説明し、書面等により提供者の同意を得る必要があります。

④個人情報の保護

個人情報の取扱いについては、関係法令や本学の諸規程を遵守し、利用目的の明確化、内容の正確性の確保等の適正な取扱いに努めるとともに、資料、情報、データ等の管理に万全を期し、他に漏らしてはなりません。

⑤研究機器、薬品等の安全管理

研究実験で研究装置・機器、薬品及び材料等を使用する場合は、関係法令や本学の諸規程を遵守し、その安全管理に努めるとともに、責任をもって処理しなければなりません。

⑥研究成果の公表等

研究の遂行及び成果の発表では、他者の知的財産の侵害、捏造、改ざん、盗用、不適切なオーサリング等の不正な行為を行ってはなりません。

⑦差別、ハラスメントの排除

研究活動のすべてにおいては、個人の人格及び自由を尊重し、属性、思想、信条等による差別、ハラスメント行為を行ってはなりません。

生成 AI 活用に当たっての注意

生成 AI とは

生成 AI は、私たちの生活における、様々な場面で活用が進んでいます。今後はさらに社会活動の中で、重要なツールとなるとともに、大学での学びをより効果的なものとする可能性を有しています。

しかしながら、その一方で、現時点で課題も多く存在し、活用に当たっては様々な問題点に留意する必要があります。

< 椋山女学園大学における生成 AI の基本的な取扱いについて >

講義や演習の内容により、生成 AI をツールとして活用することで学習効果を高めることができると担当教員が判断する場合は、その指示の範囲内で使用することを可能とします。

< 使用に当たっての注意事項 >

生成 AI を使用して得た結果をそのままレポート等に用いることは、他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに流用する剽窃行為とみなされる場合があります。また、検索ツールとして使用する場合であっても、使用して得た内容には誤りが混ざっていることも少なくないため、自身でしっかり確認する必要があります。

また、生成 AI は、利用者が入力した情報を記録及び学習する特性を有しているため、次のような情報は入力してはいけません。

- ・ 自分もしくは他者の個人情報やプライバシー情報等
- ・ 研究活動で得た未公開データ等の機密事項
- ・ 他者の名誉を傷つける言葉、信用を失墜させるおそれのある言葉
- ・ 虚偽の情報

以上

第2部

履修ガイド

外国語学部

<教育理念「人間になろう」>

古人の歌に／人となれ人 人となせ人／というのがある。
人間完成、これこそ学園創設の精神であり、
学校教育終局の目標である。諸君よ、人間になろう。

初代学園長・理事長 まさかず 梶山正式 / 1879～1964 (1962年「人間橋由来記」人間橋畔の碑文より)

<「人づくり」への礎石>

「私は道を拓き、敷地を拡げ、校舎を建てることに専念してこと足れるかに見えるならばそれは私の心ではない、それ等はあくまで手段であり、その目的はいうまでもなく育英事業である。そして教育とは知識技能の啓発ばかりでなく、それもやがては人間完成を終局の目標としたものでなければならぬ、そのための環境整備であり、他面また人を導くためには先ずもって自らを磨かなければならぬ。」

初代学園長梶山正式は、学園経営の形の上では、その場づくり、環境の整備も必要であると考えていましたが、それは常に育英事業、つまり「人づくり」を念頭に置いたものでした。また、大学が星が丘キャンパスに移転した際、南北の丘に橋を架け、「多くの学校に銀杏並木や桜のトンネル、橋がある。そこを渡ったり、くぐったりしている間に学生は自然と識らず識らずに人間ができあがるのだと思う」と語り、その橋を「人間橋」と名付け、人づくりへの熱い思いを込めました。

<教育理念「人間になろう」とは>

梶山女学園は、「人間になろう」を教育理念とし、「ひとを大切にできる人間」「ひとと支えあえる人間」「自らががんばれる人間」の3つを「人間になる」ことであると考へ、一貫した人間教育を進めてきました。

私たちは教育を通じて、世界中の人々が人間性を回復し豊かさを享受できるよう、人間性を尊重しヒューマニズムの精神を創造できる人間を育成し、また、人と人との「絆」を重視し、互いのつながり、つまり人類の協調・連帯を大事にする人間になることを目指しています。そして、こうした「人間」になるために、自ら考え学ぶことにより、“なろう”とする決意を表明し実践できる自主性・主体性を育てています。

橋のもとに書かれた初代学園長直筆の「人間橋」の文字は、教育理念の原点を示しているとともに、今日の私たちが未来に向かって歩むべき「人づくり」の象徴でもあります。

<大学の教育目的>

本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、本学園の教育理念「人間になろう」にのっとり、深く専門の学術を教授研究し、もって高い知性と豊かな情操を兼ね備えた人間を育成することを目的とする。

椋山女学園大学学則（第1章 目的）

<学部・学科の目的>

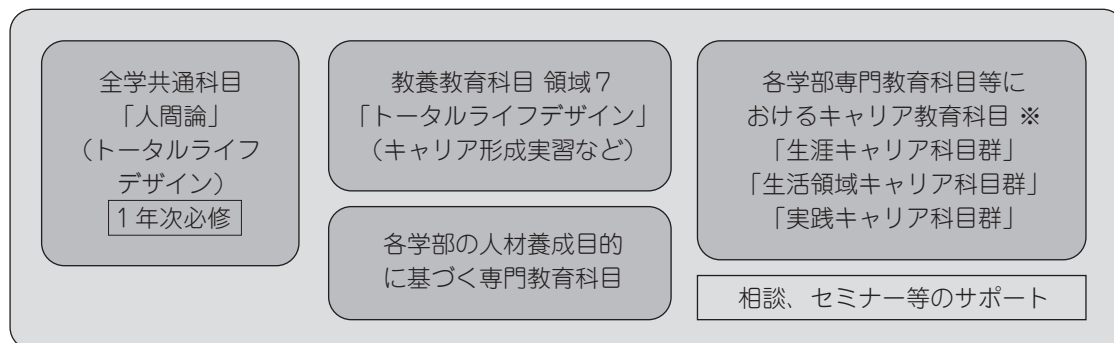
外国語学部	外国語学部は、外国語と人文学に関する専門の学術を教授研究し、複数の外国語習得による複眼的視点を身につけ、専門とする言語圏並びにグローバル社会について深く多面的に理解し、地球規模の課題に取り組む能力を備えた人材を養成する。
英語英米学科	英語英米学科は、学部の目的に基づき、グローバル社会における英語圏の社会と文化に関する専門の学術を教授研究し、国際共通語としての英語及び他の外国語の実践的運用力を身に付け、英語圏の文化や社会について深い知識を有し、英語を用いて仕事ができる人材、英語を活かした文化の交流や創造に寄与し、地球規模の課題に取り組むことのできる人材を養成する。
国際教養学科	国際教養学科は、学部の目的に基づき、英語圏に加え、ヨーロッパ及び日本を含むアジアの各地域の文化と社会に関する専門の学術を教授研究し、英語に加え、フランス語、ドイツ語、中国語等の外国語の実践的運用力を身に付け、各地域と文化を多面的、重層的に理解し、グローバルな課題に取り組む能力を備え、文化の交流や創造に寄与する人材を養成する。

<トータルライフデザイン教育>

本学では、女性のライフステージを意識し、「トータルライフデザイン」を主導コンセプトとする教育を展開しています。

「トータルライフデザイン教育」とは、女性が社会で自立して生きていくための知識・能力を身に付ける教育です。人生の転機を乗り越え、仕事やささまざまな活動を調和させ、他者と協働し、社会へ参画する力を養います。

キャリア教育を軸としたトータルライフデザイン



※各学部のキャリア教育科目一覧は、毎年S * m a pのキャビネットにおいて公開しています。

椋山女学園大学は、本学園の教育理念「人間になろう」の下、専門の学術を教授研究し、高い知性と豊かな情操を兼ね備えた人材育成を目指します。

こうした人材を育成するため、本学では学部学科ごとにディプロマ・ポリシーを定め、所定の教育課程を修め、以下の知識、能力を持つ人材として認められた学生に対し、学士の学位を授与します。

1. 専門分野における知識と技能を備え、科学的・学問的な視点から事象を捉えることができる。
2. 「人を大切にし、人と支えあい、自らががんばれる」社会人として必要な教養と知性を身に付けている。
3. 大学で学んだ知識や技能に基づき、答えのない課題や目標に対して創造的に考え、多様な人々と取り組むことができる。

学部・学科名	卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
外国語学部	<p>外国語学部は、外国語と人文学の教育研究を基礎に、人類社会の豊かな多元性と深い歴史性を洞察し、優れた対話力と高い倫理観によって国際社会と地域社会に貢献できる地球市民を育成することを目的とします。本学部は次のような能力を身に付けた人に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の外国語を用いて、各地域とグローバル社会の多元性と歴史性を理解できる力 2. 知的な創造力をもって地球規模の課題を発見し、解決のために思考・判断できる力 3. 異なる文化や価値観を尊重しながら他者と協働し、問題解決と価値創造に取り組むことができる力 4. 外国語の実践的運用能力により、他者と対話する優れた発信力
英語英米学科	<p>英語英米学科は、国際共通語としての英語及び他の外国語の実践的運用力を身につけ、英語圏の社会と文化並びにグローバル社会の理念や現状について広範な知識を有し、グローバルな課題に取り組むとともに、新しい価値創造に寄与できる人間を育成することを目標とします。英語英米学科は次のような能力を身につけた人に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語及び他の外国語を用いて英語圏とグローバル社会の多元性と歴史性を理解できる力 2. 知的な創造力をもって地球規模の課題を発見し、解決のために思考・判断できる力 3. 異なる文化や価値観を尊重しながら他者と協働し、問題解決と価値創造に取り組むことができる力 4. 英語及び他の外国語の実践的運用能力により、他者と対話する優れた発信力
国際教養学科	<p>国際教養学科は、英語に加えてフランス語、ドイツ語又は中国語の各外国語の実践的運用力を身につけ、ヨーロッパ、あるいは日本を含むアジアの各地域及びグローバル社会の理念や現状について広範な知識を有し、グローバルな課題に取り組むとともに、新しい価値創造に寄与できる人間を育成することを目標とします。国際教養学科は次のような能力を身につけた人に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の外国語を用いてヨーロッパとアジアの各地域およびグローバル社会の多元性と歴史性を理解する力 2. 知的な創造力をもって地球規模の課題を発見し、解決のために思考・判断できる力 3. 異なる文化や価値観を尊重しながら他者と協働し、問題解決と価値創造に取り組むことができる力 4. 英語に加え、フランス語、ドイツ語又は中国語の実践的運用能力により、他者と対話する優れた発信力

椋山女学園大学の学士課程では、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程を編成し、実施します。

1. 本学の授業科目は、全学共通科目、教養教育科目、学部関連科目、専門教育科目、各種課程及び資格取得に関する科目等で編成します。
2. 全学共通科目及び教養教育科目は、総合大学としての強みを活かし、学部学科を超え、多様な学生が相互に学び合います。
3. 初年次教育として、「人間論」を通じて本学の教育理念「人間になろう」を学び、自主性・主体性の基礎を育みます。また、「ファーストイヤーゼミ」では大学での学修を進める上での基礎的スキルを学びます。
4. 教養教育科目は、7つの領域で構成し、生涯にわたっての知的基盤となる幅広いものの見方や考え方を身に付けます。
5. 専門教育は学部ごとに行い、専門分野における知識と技能を習得するために基礎から応用、発展へと段階的に高い専門性を身に付けることができる配置とします。そして、その集大成として卒業研究、卒業論文等をまとめます。
6. 1年次からキャリア教育科目を開講し、4年間を通じてキャリア教育を実施します。
7. 主体的な学修を進めるために、授業科目ごとに身に付く能力を明確にし、学修の段階や順序、レベルを確認できる体系的な科目配置を行います。

学部・学科名	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
外国語学部	<p>外国語学部は、優れた対話力と高い倫理観によって国際社会と地域社会へ貢献できる地球市民の育成を学位授与の方針とし、この目的を学修の中で実質化するカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部共通基礎として、日本という枠組を相対化する地球規模での考え方を学び課題を発見する「学部基幹科目」、他者と対話し国際社会の問題を理解するための基礎を学び複言語的視座を獲得する「言語リテラシー科目」、対話と実践を重視する演習科目として「言語アカデミック実践演習科目」を設置します。 2. 学部共通専門として、グローバルな理念（倫理）・歴史・課題を学び各地域と地球社会の多元性を洞察する3つの専門科目群、言語リテラシー科目で身につけた言語運用能力を実践し多元的な国際社会において思考力や判断力を育成する「海外文化研修プログラム」を設置します。 3. 学部共通専門の「国際キャリア科目」として、将来の進路を見据えて外国語の学びと仕事に必要な実務遂行能力とを関連づける「国際キャリアデザイン」、他者と協働し、自発的な課題発見と課題解決の方法を実践的に学ぶ「社会関与プロジェクト」を設置します。

英語英米学科	<p>英語英米学科は、英語英米学科の学位授与方針を実現するために、次のような方針の下にカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語英米学科は2コース制を採用しており、1年次後期から「英語コミュニケーションコース」又は「英米文化コース」のいずれかのコースを選択します。「英語コミュニケーションコース」ではコミュニケーション学、言語学、外国語教育といった学問領域に焦点を当てる一方、「英米文化コース」では歴史学、文学、芸術、文化論といった学問領域に焦点を当て教育を行います。 2. 英語英米学科の学科共通基礎として、学科内の2つのコースの専門性や、地域に応じた研究方法を学ぶ「学科基幹科目」、他者との対話を通して尊重関係を構築し、国際社会の問題を解決するために必要な情報発信能力の基礎となる外国語運用能力を育成する「外国語科目」を設置します。 3. 英語英米学科の学科共通専門として、英語圏の歴史とグローバル社会における英語圏の位置付けを学ぶ「英米エリアスタディーズ科目」、各コース内で地球社会という枠組みにおける英語圏の社会と文化の理解を深め、新しい文化や価値の創造に寄与する能力を育成する「英語コミュニケーション専門科目」と「英米文化専門科目」を設置します。 4. 対話と実践を重視する「英語英米演習科目」として、3年次に少人数で研究と教育を一体にして学ぶ「英語英米研究」、4年次に学びの集大成として卒業論文を作成する「卒業研究」を設置します。
国際教養学科	<p>国際教養学科は、国際教養学科の学位授与方針を実現するために、次のような方針の下にカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際教養学科は3コース制を採用しており、1年次後期から「ヨーロッパコース」「アジアコース」又は「国際日本コース」のいずれかのコースを選択します。「ヨーロッパコース」ではドイツ及びフランス、「アジアコース」では中国、「国際日本」では世界という視点からの日本について、その歴史、社会、言語、文学、思想といった領域において教育を行います。 2. 国際教養学科の学科共通基礎として、学科内の3つのコースの専門性や、地域に応じた研究方法を学ぶ「学科基幹科目」、異なる文化や価値観の担い手と対話し尊重関係を構築する上で必要な思考力の前提となる複言語的視座を習得するために、コースごとにフランス語、ドイツ語、中国語及び英語を学ぶ「外国語科目」を設置します。 3. 国際教養学科の学科共通専門として、西欧とアジア(日本を含む。)との関係を比較・交流・思想という点から学ぶ「国際教養専門科目」、専門とする言語に基づいた総合的判断力と思考力を活かし、他者と協働し国際社会に新しい価値を創出できる能力を育成する「ヨーロッパ専門科目」「アジア専門科目」「国際日本専門科目」を設置します。 4. 対話と実践を重視する「国際教養演習科目」として、3年次に少人数で研究と教育を一体にして学ぶ「国際教養研究」、4年次に学びの集大成として卒業論文を作成する「卒業研究」を設置します。

<「育成する4つの能力」とは>

椋山女学園大学では、各学部・学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）において、当該学士課程教育において培う学士力を定めています。そして、それらの学士力を各学部・学科ごとに下記のように「知識・理解」「思考・判断」「態度・志向性」及び「技能・表現」の4つの面からとらえ、具体的に育成する能力としています。また、各学科で開講される授業科目ごとに、それぞれの授業がどういう能力を主として育成するかを◎又は○（特に重点的に育成する能力は「◎」、重点的に育成する能力は「○」）で示しています。

英語英米学科

ディプロマ・ポリシーと「育成する4つの能力」の関係			ディプロマ・ポリシー (DP)			
			DP1	DP2	DP3	DP4
育成する4つの能力	知識・理解	英語圏の諸社会の在り方を再検討し、覇権国の世界秩序の形成と現状がどのような役割を果たした／果たしているのかを理解できる。	○			
	思考・判断	英語圏の多様性を理解し、知的な創造高い倫理観をもって思考し、判断できる。		○		
	態度・志向性	英語および他の外国語による対話に強い関心と意欲をもち、異なる文化や価値観、立場の違いを互いに尊重し、協働することができる。			○	
	技能・表現	英語および他の外国語の実践的運用能力により、異なる文化や価値観を尊重しながら、「ことば」を用いて他者と対話することができる。			○	○

国際教養学科

ディプロマ・ポリシーと「育成する4つの能力」の関係			ディプロマ・ポリシー (DP)			
			DP1	DP2	DP3	DP4
育成する4つの能力	知識・理解	複数の外国語を用いる経験的知識をもとに、グローバル社会の歴史と現状について知識を得る一方、世界／ヨーロッパあるいはアジア／日本、それぞれの相互関係について洞察しつつグローバルな課題を理解することができる。	○			
	思考・判断	ヨーロッパと日本を含むアジアの多様性を理解し、知的な創造力と高い倫理観をもって思考し、判断できる。		○		
	態度・志向性	外国語による対話に強い関心と意欲をもち、異なる文化や価値観、立場の違いを互いに尊重し、協働することができる。			○	
	技能・表現	フランス語、ドイツ語、中国語、英語の実践的運用能力により、異なる文化や価値観を尊重しながら、「ことば」を用いて他者と対話することができる。			○	○

※ DP1～DP3は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」ページに記載している各学科のディプロマ・ポリシー1～3に対応しています。

<「カリキュラム・マップ」とは>

椋山女学園大学では、「教育目的」、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」と「育成する4つの能力（知識・理解）（思考・判断）（態度・志向性）（技能・表現）」が個々の授業科目において、どのように対応しているかを示したものをカリキュラム・マップとといいます。

<科目ナンバリングとは>

1. 科目ナンバリング

椋山女学園大学では、履修計画を立てる際の指針となるように、全ての科目に固有のナンバーを設定しています。この科目ナンバリングでは、学修の段階や順序、受講科目の分野やレベルを確認し体系的な履修が可能となるよう設定してありますので、履修計画を立てる際の指針として役立ててください。

2. 科目ナンバリングのルール

① 開講学部 学科	② カリキュラム上の 分類に基づく 番号	③ レベル		④ カリキュラム上の 分野	⑤ 学部学 科独自の 領域	⑥ 識別番号	⑦ 領域内 履修順序	⑦ 補助		⑧ 科目属性
L N	1	1	-	A A	—	0 1	0	a	-	Y

① 開講されている学部学科を表しています。

L N	管理栄養学科	I D	情報デザイン学科
L E	生活環境デザイン学科	I S	現代社会学科
L K	生活科学部共通	I K	情報社会学部共通
F E	英語英米学科	MM	現代マネジメント学科
F G	国際教養学科	E N	子ども発達学科 保育・初等教育専修
F K	外国語学部共通	E E	子ども発達学科 初等中等教育専修
H C	人間共生学科	E K	教育学部共通
H P	心理学科	N U	看護学科
H K	人間関係学部共通	Z K	全学共通科目・教養教育科目

② カリキュラム上の分類を表しています。

0	教養教育科目	4	学科の学びを応用・発展させる科目、 視野を広げる科目
1	学部の学びの基礎となる科目（学部共通）	5	大学院科目
2	学科の学びの基礎となる科目	9	資格専門科目
3	学科の学びの基幹となる科目		

③ 科目のレベルを表しています。

1	導入レベル科目（基礎となる科目）	4	上級レベル科目 （専門領域の上級レベル科目）
2	初級レベル科目（基礎から専門的レベル への橋渡しとなる科目）	5	大学院修士レベル科目
3	中級レベル科目（専門領域の中核となる 科目）	6	大学院博士レベル科目

- ④ 各学科のカリキュラムでどの分野に位置づけられている科目かを表しています。(別表1)
- ⑤ 学部学科で、カリキュラム表には明示されていない領域がある場合に示しています。
- ⑥ ④⑤の分野・領域の中で科目の識別をするための番号です。関連性のある同種の科目については同じ番号が設定されています。
- ⑦ 関連性のある同種の科目については、履修の順序を表しています。0（ゼロ）は履修順序はありません。
- ⑧ 科目の特徴や資格との関係を表しています。

K	他学部他学科開放科目	G	学芸員に関する科目
E	英語のみで実施する科目	N	日本語教員に関する科目
S	【教職課程】 教育の基礎的理解に関する科目等、各教科の指導法	H	保健師に関する科目
Y	【教職課程】 教科に関する専門的事項、栄養に係る教育に関する科目、養護に関する科目	M	メディア授業科目
T	司書・司書教諭に関する科目		

3. 科目ナンバリング掲載箇所

教養教育科目：P 1－19 から P 1－21 の「教養教育科目の履修」のページに記載されています。

専門教育科目：P 2－7 から P 2－16 の「育成する4つの能力とカリキュラム・マップ／科目ナンバリング」についてのページに記載されています。

【別表1】

カリキュラム上の分野

学部共通科目	学部共通基礎	学部基幹科目	FB
		言語リテラシー科目 A	LA
		言語リテラシー科目 B	LB
		言語リテラシー科目 C	LC
		言語アカデミック実践演習科目	LS
	学部共通専門	グローバルスタディーズ科目	GL
		コミュニケーションスタディーズ科目	CL
		多元文化科目	MC
		海外文化研修プログラム	SA
		国際キャリア科目	IC
(英語英米学科) 学科共通科目	学科共通基礎	学科基幹科目	EB
		外国語科目	LE
	学科共通専門	英米エリアスタディーズ科目	EA
		英語コミュニケーション専門科目	EL
		英米文化専門科目	EC
		英語英米演習科目	ES
(国際教養学科) 学科共通科目	学科共通基礎	学科基幹科目	GB
		外国語科目	LG
	学科共通専門	国際教養専門科目	GE
		ヨーロッパ専門科目	EU
		アジア専門科目	AS
		国際日本専門科目	JA
		国際教養演習科目	GS

英語英米学科 カリキュラム・マップ

*特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

		授 業 科 目	科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現	
学部共通科目	学部基幹科目	地球市民論	FK11-FB-010	1		◎	○		
		言語リテラシー科目A	Communicative English I A	FK11-LA-011a-EY	1	○			◎
			Communicative English I B	FK11-LA-011b-EY	1	○			◎
			Communicative English I C	FK11-LA-011c-EY	1	○			◎
			Communicative English I D	FK11-LA-011d-EY	1	○			◎
			Communicative English I E	FK11-LA-011e-EY	1	○			◎
			Communicative English II A	FK11-LA-012a-EY	1	○			◎
			Communicative English II B	FK11-LA-012b-EY	1	○			◎
			Communicative English II C	FK11-LA-012c-EY	1	○			◎
			Communicative English II D	FK11-LA-012d-EY	1	○			◎
			Communicative English II E	FK11-LA-012e-EY	1	○			◎
	言語リテラシー科目B	ドイツ語 I A	FK11-LB-011a	1	○			◎	
		ドイツ語 I B	FK11-LB-011b	1	○			◎	
		ドイツ語 I C	FK11-LB-011c	1	○			◎	
		ドイツ語 II A	FK12-LB-012a	2	○			◎	
		ドイツ語 II B	FK12-LB-012b	2	○			◎	
		ドイツ語 II C	FK12-LB-012c	2	○			◎	
		フランス語 I A	FK11-LB-021a	1	○			◎	
		フランス語 I B	FK11-LB-021b	1	○			◎	
		フランス語 I C	FK11-LB-021c	1	○			◎	
		フランス語 II A	FK12-LB-022a	2	○			◎	
		フランス語 II B	FK12-LB-022b	2	○			◎	
		フランス語 II C	FK12-LB-022c	2	○			◎	
		中国語 I A	FK11-LB-031a	1	○			◎	
		中国語 I B	FK11-LB-031b	1	○			◎	
	中国語 I C	FK11-LB-031c	1	○			◎		
	中国語 II A	FK12-LB-032a	2	○			◎		
	中国語 II B	FK12-LB-032b	2	○			◎		
	中国語 II C	FK12-LB-032c	2	○			◎		
	言語リテラシー科目C	TOEIC 500 I	FK11-LC-011	1	○			◎	
		TOEIC 500 II	FK11-LC-012	1	○			◎	
		TOEIC 600 I	FK11-LC-021	1	○			◎	
		TOEIC 600 II	FK11-LC-022	1	○			◎	
		TOEIC 700 I	FK12-LC-031	1	○			◎	
		TOEIC 700 II	FK12-LC-032	1	○			◎	
		TOEIC 800+	FK13-LC-040	1	○			◎	
		IELTS I	FK12-LC-051	1	○			◎	
		IELTS II	FK12-LC-052	1	○			◎	
		TOEFL iBT I	FK12-LC-061	1	○			◎	
		TOEFL iBT II	FK12-LC-062	1	○			◎	
		資格ドイツ語 I	FK11-LC-071	2	○			◎	
		資格ドイツ語 II	FK12-LC-072	3	○			◎	
資格ドイツ語 III		FK13-LC-073	3	○			◎		
資格フランス語 I		FK11-LC-081	2	○			◎		
資格フランス語 II		FK12-LC-082	3	○			◎		
資格フランス語 III		FK13-LC-083	3	○			◎		
資格中国語 I		FK11-LC-091	2	○			◎		
資格中国語 II		FK12-LC-092	3	○			◎		
資格中国語 III		FK13-LC-093	3	○			◎		
日本手話 I		FK12-LC-101	2	○			◎		
日本手話 II	FK12-LC-102	2	○			◎			
言語リテラシー科目D	言語アカデミック実践演習A	FK14-LS-010a	3	○			◎		
	言語アカデミック実践演習B	FK14-LS-010b	3	○			◎		

履修ガイド

育成する4つの能力とカリキュラム・マップ/科目ナンバリング

		授業科目	科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現	
学部共通科目	グローバルスタディーズ科目	グローバル化論	FK12-GL-010-YN	1		◎	○		
		グローバル・エシックス	FK12-GL-020	1		◎	○		
		グローバル・ヒストリー	FK12-GL-030	1		◎	○		
	コミュニケーションスタディーズ科目	異文化コミュニケーション論	FK12-CL-010-YN	1		◎	○		
		言語の機能	FK12-CL-020-N	1		◎	○		
		記号とコミュニケーション	FK12-CL-030-N	1		◎	○		
	多元文化科目	多元文化論A	FK12-MC-010a	1		◎	○		
		多元文化論B	FK12-MC-010b	1		◎	○		
		多元文化論C	FK12-MC-010c	1		◎	○		
	海外文化研修プログラム	海外文化研修プログラムA	FK12-SA-010a	1			◎	○	
		海外文化研修プログラムB	FK11-SA-010b	1			◎	○	
		海外文化研修プログラムC	FK11-SA-010c	1			◎	○	
		Special Topics in English A	FK11-SA-020a	2			◎	○	
		Special Topics in English B	FK11-SA-020b	2			◎	○	
		Special Topics in German	FK11-SA-030	2			◎	○	
		Special Topics in French	FK11-SA-040	2			◎	○	
		Special Topics in Chinese	FK11-SA-050	2			◎	○	
	国際キャリア科目	国際キャリアデザインA	FK12-IC-010a	1		◎		○	
		国際キャリアデザインB	FK12-IC-010b	1		◎		○	
		国際キャリアデザインC	FK12-IC-010c	1		◎		○	
国際キャリアデザインD		FK12-IC-010d	1		◎		○		
国際キャリアデザインE		FK12-IC-010e	1		◎		○		
国際キャリアデザインF		FK12-IC-010f	1		◎		○		
国際キャリアデザインG		FK12-IC-010g	1		◎		○		
社会関与プロジェクトA		FK12-IC-020a	1		◎		○		
社会関与プロジェクトB		FK12-IC-020b	1		◎		○		
社会関与プロジェクトC		FK12-IC-020c	1		◎		○		
社会関与プロジェクトD		FK12-IC-020d	1		◎		○		
社会関与プロジェクトE		FK12-IC-020e	1		◎		○		
社会関与プロジェクトF		FK12-IC-020f	1		◎		○		
学科共通基礎		学科基幹科目	英語英米研究基礎	FE21-EB-010	1		◎	○	
	外国語科目		Academic English I A	FE22-LE-011a-EY	2			◎	○
		Academic English I B	FE22-LE-011b-EY	2			◎	○	
		Academic English I C	FE22-LE-011c-EY	2			◎	○	
		Academic English II A	FE22-LE-012a-EY	2			◎	○	
		Academic English II B	FE22-LE-012b-EY	2			◎	○	
		Academic English II C	FE22-LE-012c-EY	2			◎	○	
		Active English A	FE22-LE-020a-E	2			◎	○	
		Active English B	FE22-LE-020b-E	2			◎	○	
		English for Academic Purposes Project and Research	FE23-LE-030-E	3			◎	○	
		Advanced English A	FE23-LE-040a-E	3			◎	○	
		Advanced English B	FE23-LE-040b-E	3			◎	○	
		Advanced English C	FE23-LE-040c-E	3			◎	○	
		Advanced English D	FE23-LE-040d-E	3			◎	○	
		学科共通専門	英米エリアスタディーズ科目	英語圏近現代史	FE32-EA-010-Y	1		◎	○
	平和学			FE32-EA-020	1		◎	○	
	Global Studies			FE32-EA-030-E	1		◎	○	
	英語コミュニケーション専門科目		英語コミュニケーション研究入門	FE42-EL-010	1		◎	○	
			Introduction to Intercultural Communication Studies	FE43-EL-020-EN	2	◎	○		
			言語コミュニケーション論	FE43-EL-030-YN	2	◎	○		
非言語コミュニケーション論			FE43-EL-040-YN	2	◎	○			
異文化トレーニング			FE43-EL-050-YN	2	◎	○			

授 業 科 目		科目ナンバー	学年	知識・ 理解	思考・ 判断	態度・ 志向性	技能・ 表現	
英語コミュニケーション専門科目	異文化適応論	FE43-EL-060-YN	2	◎	○			
	異文化理解	FE43-EL-070-YN	2	◎	○			
	翻訳A	FE43-EL-080a-Y	2	◎	○			
	翻訳B	FE43-EL-080b-Y	2	◎	○			
	通訳A	FE43-EL-090a-Y	2	◎	○			
	通訳B	FE43-EL-090b-Y	2	◎	○			
	Introduction to Linguistics	FE43-EL-100-EYN	2	◎	○			
	社会言語学	FE43-EL-110-N	2	◎	○			
	応用言語学	FE43-EL-120-YN	2	◎	○			
	第二言語習得論	FE43-EL-130-YN	2	◎	○			
	認知言語学	FE43-EL-140-N	2	◎	○			
	English for Tourism	FE43-EL-150-E	2	◎	○			
	Communication in Business	FE43-EL-160-EY	2	◎	○			
	Gender Dimension in Media and Communication Studies	FE43-EL-170-E	2	◎	○			
	ジェンダーとメディアコミュニケーションA	FE43-EL-180a	2	◎	○			
	ジェンダーとメディアコミュニケーションB	FE43-EL-180b	2	◎	○			
	グローバルコミュニケーション論	FE43-EL-190	2	◎	○			
	東西交流史	FE43-EL-200	2		◎	○		
	世界の中の中国	FE43-EL-210	2	◎	○			
	レトリカル・コミュニケーション論	FE44-EL-220-N	3	◎	○			
	理論言語学	FE44-EL-230-N	3	◎	○			
	研究調査法	FE44-EL-240	3	◎	○			
	Linguistics	FE44-EL-250-EN	3	◎	○			
	Intercultural Communication Studies	FE44-EL-260-EN	3	◎	○			
	Translation Studies	FE44-EL-270-EY	3	◎	○			
	英米文化専門科目	英米文化研究入門	FE42-EC-010	1		◎	○	
		世界の英語文学	FE43-EC-020-Y	2	◎	○		
		Introduction to English Literature	FE43-EC-030-EY	2	◎	○		
		北米文学	FE43-EC-040-Y	2	◎	○		
		イギリス文学	FE43-EC-050-Y	2	◎	○		
英語女性文学		FE43-EC-060-Y	2	◎	○			
英語マイノリティ文学		FE44-EC-070-Y	3	◎	○			
English Literature		FE44-EC-080-EY	3	◎	○			
Gender and Literature		FE44-EC-090-EY	3	◎	○			
ポストコロニアル文化論		FE43-EC-100	2	◎	○			
イギリス文化論		FE43-EC-110-Y	2	◎	○			
スポーツ文化論		FE43-EC-120	2	◎	○			
アメリカ映画論		FE43-EC-130-Y	2	◎	○			
イギリスの歴史		FE43-EC-140-Y	2	◎	○			
北米社会論		FE43-EC-150-Y	2	◎	○			
英語圏の社会論		FE44-EC-160	3	◎	○			
植民帝国論		FE43-EC-170	2	◎	○			
国際関係論A		FE43-EC-180a	2	◎	○			
国際関係論B		FE43-EC-180b	2	◎	○			
国際関係論C		FE44-EC-180c	3	◎	○			
Introduction to Social and Cultural Studies		FE43-EC-190-EYN	2	◎	○			
Minority Studies		FE44-EC-200-E	3	◎	○			
多元文化論(ヨーロッパ)A		FE44-EC-210a	3	◎	○			
多元文化論(ヨーロッパ)B		FE44-EC-210b	3	◎	○			
Ecocriticism		FE44-EC-220-E	3	◎	○			
英語英米 演習科目		英語英米研究A	FE44-ES-010a	3		◎		○
		英語英米研究B	FE44-ES-010b	3		◎		○
	卒業研究A	FE44-ES-020a	4		◎		○	
	卒業研究B	FE44-ES-020b	4		◎		○	

学科共通科目
学科共通専門

英米文化専門科目

英語英米
演習科目

履修ガイド

育成する4つの能力とカリキュラム・マップ／科目ナンバリング

国際教養学科 カリキュラム・マップ

*特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

授業科目		科目ナンバー	学年	知識理解	思考判断	態度・志向性	技能表現	
学部基幹科目	地球市民論	FK11-FB-010	1		◎	○		
	言語リテラシー科目 A	Communicative English I A	FK11-LA-011a-EY	1	○			◎
		Communicative English I B	FK11-LA-011b-EY	1	○			◎
		Communicative English I C	FK11-LA-011c-EY	1	○			◎
		Communicative English I D	FK11-LA-011d-EY	1	○			◎
		Communicative English I E	FK11-LA-011e-EY	1	○			◎
		Communicative English II A	FK11-LA-012a-EY	1	○			◎
		Communicative English II B	FK11-LA-012b-EY	1	○			◎
		Communicative English II C	FK11-LA-012c-EY	1	○			◎
		Communicative English II D	FK11-LA-012d-EY	1	○			◎
		Communicative English II E	FK11-LA-012e-EY	1	○			◎
	言語リテラシー科目 B	ドイツ語 I A	FK11-LB-011a	1	○			◎
		ドイツ語 I B	FK11-LB-011b	1	○			◎
		ドイツ語 I C	FK11-LB-011c	1	○			◎
		ドイツ語 II A	FK12-LB-012a	2	○			◎
		ドイツ語 II B	FK12-LB-012b	2	○			◎
		ドイツ語 II C	FK12-LB-012c	2	○			◎
		フランス語 I A	FK11-LB-021a	1	○			◎
		フランス語 I B	FK11-LB-021b	1	○			◎
		フランス語 I C	FK11-LB-021c	1	○			◎
		フランス語 II A	FK12-LB-022a	2	○			◎
		フランス語 II B	FK12-LB-022b	2	○			◎
		フランス語 II C	FK12-LB-022c	2	○			◎
		中国語 I A	FK11-LB-031a	1	○			◎
		中国語 I B	FK11-LB-031b	1	○			◎
		中国語 I C	FK11-LB-031c	1	○			◎
	中国語 II A	FK12-LB-032a	2	○			◎	
	中国語 II B	FK12-LB-032b	2	○			◎	
	中国語 II C	FK12-LB-032c	2	○			◎	
	言語リテラシー科目 C	TOEIC 500 I	FK11-LC-011	1	○			◎
		TOEIC 500 II	FK11-LC-012	1	○			◎
		TOEIC 600 I	FK11-LC-021	1	○			◎
		TOEIC 600 II	FK11-LC-022	1	○			◎
		TOEIC 700 I	FK12-LC-031	1	○			◎
		TOEIC 700 II	FK12-LC-032	1	○			◎
		TOEIC 800+	FK13-LC-040	1	○			◎
		IELTS I	FK12-LC-051	1	○			◎
		IELTS II	FK12-LC-052	1	○			◎
		TOEFL iBT I	FK12-LC-061	1	○			◎
		TOEFL iBT II	FK12-LC-062	1	○			◎
資格ドイツ語 I		FK11-LC-071	2	○			◎	
資格ドイツ語 II		FK12-LC-072	3	○			◎	
資格ドイツ語 III		FK13-LC-073	3	○			◎	
資格フランス語 I		FK11-LC-081	2	○			◎	
資格フランス語 II		FK12-LC-082	3	○			◎	
資格フランス語 III		FK13-LC-083	3	○			◎	
資格中国語 I		FK11-LC-091	2	○			◎	
資格中国語 II		FK12-LC-092	3	○			◎	
資格中国語 III		FK13-LC-093	3	○			◎	
日本手話 I	FK12-LC-101	2	○			◎		
日本手話 II	FK12-LC-102	2	○			◎		
言語アカデミック演習	言語アカデミック実践演習 A	FK14-LS-010a	3	○			◎	
	言語アカデミック実践演習 B	FK14-LS-010b	3	○			◎	

履修ガイド

育成する4つの能力とカリキュラム・マップ/科目ナンバリング

学部共通基礎
学部共通科目

		授 業 科 目	科目ナンバー	学年	知識・ 理解	思考・ 判断	態度・ 志向性	技能・ 表現	
学部共通科目	学部共通専門	グローバル スタディ 科目	グローバリゼーション論	FK12-GL-010-YN	1	◎	○		
			グローバル・エシックス	FK12-GL-020	1	◎	○		
			グローバル・ヒストリー	FK12-GL-030	1	◎	○		
		ダイア リクス 科目	コミュニ ケーション スタ ディ	異文化コミュニケーション論	FK12-CL-010-YN	1	◎	○	
				言語の機能	FK12-CL-020-N	1	◎	○	
				記号とコミュニケーション	FK12-CL-030-N	1	◎	○	
		化科 目	多元文 化	多元文化論A	FK12-MC-010a	1	◎	○	
				多元文化論B	FK12-MC-010b	1	◎	○	
				多元文化論C	FK12-MC-010c	1	◎	○	
		海外文化 研修 プログラム	海外文化 研修 プログラム	海外文化研修プログラムA	FK12-SA-010a	1		◎	○
				海外文化研修プログラムB	FK11-SA-010b	1		◎	○
				海外文化研修プログラムC	FK11-SA-010c	1		◎	○
	Special Topics in English A			FK11-SA-020a	2		◎	○	
	Special Topics in English B			FK11-SA-020b	2		◎	○	
	Special Topics in German			FK11-SA-030	2		◎	○	
	Special Topics in French			FK11-SA-040	2		◎	○	
	Special Topics in Chinese			FK11-SA-050	2		◎	○	
	国際 キャリア 科目	国際 キャリア 科目	国際キャリアデザインA	FK12-IC-010a	1	◎		○	
			国際キャリアデザインB	FK12-IC-010b	1	◎		○	
			国際キャリアデザインC	FK12-IC-010c	1	◎		○	
			国際キャリアデザインD	FK12-IC-010d	1	◎		○	
			国際キャリアデザインE	FK12-IC-010e	1	◎		○	
			国際キャリアデザインF	FK12-IC-010f	1	◎		○	
			国際キャリアデザインG	FK12-IC-010g	1	◎		○	
			社会関与プロジェクトA	FK12-IC-020a	1	◎		○	
			社会関与プロジェクトB	FK12-IC-020b	1	◎		○	
			社会関与プロジェクトC	FK12-IC-020c	1	◎		○	
社会関与プロジェクトD			FK12-IC-020d	1	◎		○		
社会関与プロジェクトE			FK12-IC-020e	1	◎		○		
社会関与プロジェクトF	FK12-IC-020f	1	◎		○				
学部共通科目	学部共通基礎	学科基幹科目	国際教養研究基礎	FG21-GB-010	1	◎	○		
		外国語 科目	ドイツ語コミュニケーションⅠ	FG22-LG-011	2		◎	○	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ	FG22-LG-012	2		◎	○	
			ドイツ語ⅢA	FG22-LG-021a	2		◎	○	
			ドイツ語ⅢB	FG22-LG-021b	2		◎	○	
			ドイツ語ⅢC	FG22-LG-021c	2		◎	○	
			ドイツ語ⅣA	FG23-LG-022a	3		◎	○	
			ドイツ語ⅣB	FG23-LG-022b	3		◎	○	
			フランス語コミュニケーションⅠ	FG22-LG-031	2		◎	○	
			フランス語コミュニケーションⅡ	FG22-LG-032	2		◎	○	
			フランス語ⅢA	FG22-LG-041a	2		◎	○	
			フランス語ⅢB	FG22-LG-041b	2		◎	○	
			フランス語ⅢC	FG22-LG-041c	2		◎	○	
			フランス語ⅣA	FG23-LG-042a	3		◎	○	
			フランス語ⅣB	FG23-LG-042b	3		◎	○	
			中国語コミュニケーションⅠ	FG22-LG-051	2		◎	○	
			中国語コミュニケーションⅡ	FG22-LG-052	2		◎	○	
			中国語ⅢA	FG22-LG-061a	2		◎	○	
			中国語ⅢB	FG22-LG-061b	2		◎	○	
			中国語ⅢC	FG22-LG-061c	2		◎	○	
			中国語ⅣA	FG23-LG-062a	3		◎	○	
			中国語ⅣB	FG23-LG-062b	3		◎	○	
			英語文献読解（日本論）A	FG22-LG-070a	2		◎	○	
			英語文献読解（日本論）B	FG22-LG-070b	2		◎	○	
			Active English A	FG22-LG-080a-E	2		◎	○	
		Active English B	FG22-LG-080b-E	2		◎	○		
		English for Academic Purposes Project and Research	FG23-LG-090-E	3		◎	○		

		授 業 科 目	科目ナンバー	学年	知識・ 理解	思考・ 判断	態度・ 志向性	技能・ 表現
学科共通基礎	外国語 科目	Advanced English A	FG23-LG-100a-E	3			◎	○
		Advanced English B	FG23-LG-100b-E	3			◎	○
		Advanced English C	FG23-LG-100c-E	3			◎	○
		Advanced English D	FG23-LG-100d-E	3			◎	○
学科共通専門	国際教養 専門科目	比較文学概論	FG32-GE-010	1		◎	○	
		漢字文化圏概論	FG32-GE-020	1		◎	○	
		世界哲学史	FG32-GE-030	1		◎	○	
		東西交流史	FG32-GE-040	1		◎	○	
	ヨーロッパ専門科目	ヨーロッパ研究入門	FG42-EU-010	1		◎	○	
		世界の中のヨーロッパ	FG43-EU-020	2	◎	○		
		多元文化論（ヨーロッパ）A	FG43-EU-030a	2	◎	○		
		多元文化論（ヨーロッパ）B	FG44-EU-030b	3	◎	○		
		現代ヨーロッパ社会論	FG43-EU-040	2	◎	○		
		西洋芸術論	FG43-EU-050	2	◎	○		
		イギリスの歴史	FG43-EU-060	2	◎	○		
		イギリス文学	FG43-EU-070	2	◎	○		
		イギリス文化論	FG43-EU-080	2	◎	○		
		現代思想論	FG44-EU-090	3	◎	○		
		ドイツの思想と文学	FG44-EU-100	3	◎	○		
		フランスの思想と文学	FG44-EU-110	3	◎	○		
	翻訳論	FG44-EU-120	3	◎	○			
	アジア専門科目	アジア研究入門	FG42-AS-010	1		◎	○	
		アジア交流論	FG43-AS-020	2	◎	○		
		中国の歴史	FG43-AS-030	2	◎	○		
世界の中の中国		FG43-AS-040	2	◎	○			
東洋思想		FG43-AS-050	2	◎	○			
現代中国論		FG43-AS-060	2	◎	○			
植民帝国論		FG43-AS-070	2	◎	○			
多元文化論（アジア）A		FG44-AS-080a	3	◎	○			
多元文化論（アジア）B		FG44-AS-080b	3	◎	○			
多言文化論（アジア）C		FG44-AS-080c	3	◎	○			
国際日本専門科目	東洋文化論	FG44-AS-090	3	◎	○			
	中国文学	FG44-AS-100	3	◎	○			
	国際日本研究入門	FG42-JA-010	1		◎	○		
	アジアの中の日本	FG43-JA-020	2	◎	○			
	世界の中の日本	FG43-JA-030	2	◎	○			
	日本の歴史	FG43-JA-040	2	◎	○			
	現代日本論	FG43-JA-050	2	◎	○			
	比較日本文学	FG43-JA-060	2	◎	○			
	Japanese Literature	FG43-JA-070-E	2	◎	○			
	比較芸術論	FG43-JA-080	2	◎	○			
	Minority Studies	FG44-JA-090-E	3	◎	○			
	クロスカルチュラルスタディーズ	FG44-JA-100	3	◎	○			
	多元文化論（日本）A	FG44-JA-110a	3	◎	○			
	多元文化論（日本）B	FG44-JA-110b	3	◎	○			
	多元文化論（日本）C	FG44-JA-110c	3	◎	○			
	多元文化論（日本）D	FG44-JA-110d	3	◎	○			
	Japanese Traditional Culture	FG44-JA-120-E	3	◎	○			
	Japanese Contemporary Culture	FG44-JA-130-E	3	◎	○			
Translation Studies	FG44-JA-140-E	3	◎	○				
国際教養 演習科目	日本語実践演習A	FG43-JA-150a	2	○			◎	
	日本語実践演習B	FG44-JA-150b	3	○			◎	
	国際教養研究A	FG44-GS-010a	3		◎		○	
	国際教養研究B	FG44-GS-010b	3		◎		○	
	卒業研究A	FG44-GS-020a	4		◎		○	
	卒業研究B	FG44-GS-020b	4		◎		○	

本学部では、英語英米学科、国際教養学科に共通する学修を、学部共通基礎と学部共通専門の2段階によって構成します。また、学部共通の上に、それぞれの学科の学科共通基礎と学科共通専門の2段階を積み上げる形で構成し、両学科ともに、基礎から応用へと4段階で学びを進展させ、体系的に教育課程を編成しています（第6章の「カリキュラムフロー」も参照）。この学部の学問の基礎となる教養科目として、「全学共通科目」および「教養教育科目」があり、幅広い教養教育の上に4段階の学部専門科目が積み上げられる構成となっています。

卒業要件126単位中自由選択科目を18単位認めています。必修科目や選択必修科目でも、必要な単位数を満たして余った分は自由選択に数えられます。以下にそれぞれの科目群の趣旨と概要を説明します。

1. 全学共通科目
「人間論」

「人間論」は、梶山女学園の教育理念「人間になろう」を授業科目の形で追究するために設置された科目で、「自校教育」「トータルライフデザイン」「現代と人間」の3つの柱から構成されています。「自校教育」では梶山女学園の歴史や教育理念を学び、「トータルライフデザイン」では自分自身の人生をデザインすることについて考え、「現代と人間」では社会における現代的課題を理解します。

2. 教養教育科目

教養教育科目は、「領域1」～「領域7」から成ります。詳細は、第1部履修要項の6教養教育科目の履修を確認して下さい。

3. 専門教育科目

専門教育科目は、「学部共通科目」「学科共通科目」から成ります。前者の「学部共通科目」は「学部共通基礎」と「学部共通専門」から成り、後者の「学科共通科目」は「学科共通基礎」「学科共通専門」から成ります。

○学部共通基礎

学部共通基礎には、学部基幹科目「地球市民論」と外国語関連科目が配置され、世界の多元性と歴史性を洞察し地球規模の課題を発見するための外国語学部の教育課程全体の基底となっています。ここでは1、2年次を通して、複数の外国語を徹底して習得し複眼的視座獲得するための言語リテラシー科目が設定され、3年次には、こうした能力をさらに高め、対話と実践を重視する少人数の演習科目として「言語アカデミック実践演習科目」が用意されています。

○学部共通専門

学部共通専門では、英語英米学科、国際教養学科、それぞれの専門性へつながる基礎的な学びとして、グローバルな理念（倫理）・歴史・現況の課題を学び各地域と地球社会の多元性を洞察する3つの専門科目群を1、2年次に置いています。また、4年間を通してインプットとアウトプットの循環の中で実践力を高めるために「海外文化研修プログラム」を設置し、言語リテラシー科目で身につけた言語運用能力を実践し、多元的な国際社会において思考力や判断力を高めます。さらに、将来の進路を見据えて外国語の学びと実務遂行能力とを関連づける科目として「国際キャリアデザインA

～G)、他者と協働し、自発的に課題を発見、課題を解決する方法を学ぶ科目として「社会関与プロジェクトA～F」を用意しています。

【英語英米学科】

学科共通基礎

英語英米学科の学科共通基礎は、本学科の全学生が学修すべき根幹であり、ディプロマ・ポリシーにおける4つの能力を育むための科目です。この共通科目は、学科基幹科目と外国語科目の2種類により構成されています。学科基幹科目は英語英米研究基礎の1科目で、「英語コミュニケーションコース」「英米文化コース」に共通する英語圏の地域と文化ならびにグローバル社会の理念や現状について広範な知識について学びます。外国語科目では学部共通基礎の英語関連科目の学修を発展させる内容で、国際共通語としての英語の運用能力を育成します。

学科共通専門

学科共通専門は、1年次の英米エリアスタディーズ科目、2・3年次の英語コミュニケーション専門科目及び英米文化専門科目、3・4年次における卒業論文制作の準備としての英語英米演習科目の4科目群が積み上げ式で構成されています。学科共通科目は、基礎と専門を合わせて、専門教育科目の全体の約半数を卒業に必要な単位数（45単位）とし、各専門分野における発展的な学修内容を拡充しています。

【国際教養学科】

学科共通基礎

国際教養学科の学科共通基礎は、本学科の全学生が学修すべき根幹であり、ディプロマ・ポリシーにおける4つの能力を育むための科目です。この共通科目は、学科基幹科目と外国語科目の2種類によって構成されています。学科共通専門は学科の基幹科目である国際教養専門科目において、「ヨーロッパコース」「アジアコース」「国際日本コース」に共通する国際的な教養の基礎を学びます。

学科共通専門

学科共通専門はより専門的な科目であり、コース制により、ヨーロッパ専門科目、アジア専門科目、国際日本専門科目から成り、歴史・文化・思想に関する専門的な知識を修得します。具体的には、1年次の国際教養専門科目、2・3年次の各コース専門科目、3・4年次における卒業論文制作の準備としての国際教養演習科目が積み上げ式で構成されています。学科共通科目は、基礎と専門を合わせて、専門教育科目の全体の約半数を卒業に必要な単位数（45単位）とし、各専門分野における発展的な学習内容を拡充しています。

外国語学部の2つの学科の専門教育科目は、知識の修得や学修対象の大局的な理解を目的とする講義形式で、知識を実践する演習形式を採用しています。「国際キャリアデザイン」及び「社会関与プロジェクト」には、ワークショップ形式のものやフィールドワークなど、体験型の内容が含まれており、「海外文化研修プログラム」では海外のさまざまな提携校における外国語の実践的な学修を行います。

本学部の授業方法は、講義科目に加えて、個々の能力を最大限引き出すことができるように、さまざまな形式の少人数の演習科目（外国語科目を含む）を1・2年次に設定しており、講義で習得した知識を体験的に理解し、課題発見と解決、価値創造へ向けた試行錯誤の場を用意しています。また、講義、演習の両形式において日本語で行われる授業に加え、外国語で行われる授業を履修できることが特色となっています。

1. 英語英米学科の学びの指針

英語英米学科では、全学生は1年次前期に学部基幹科目である「地球市民論」を学部ディプロマ・ポリシーの概要を理解する科目として、また、教養教育科目である「ファーストイヤーゼミ」を大学での学修方法や高大の学修の接続を担う科目として履修します。また、学部共通専門の講義を受講するとともに、外国語科目として必修の英語を週5日履修します。

同じく1年次前期には英語英米学科に特化した初年次教育の機会として「英語英米研究基礎」を履修し、1年次前期終了時に行うコース選択の判断に活かします。これらの科目に加え、1年次前期及び後期を通して英米エリアスタディーズ科目を受講することにより、学科のディプロマ・ポリシーの体系を概観します。

1年次後期には、英語英米学科の学生は英語コミュニケーションコースあるいは英米文化コースのいずれかに所属し、各コースの概要を理解するべく、「英語コミュニケーション研究入門」あるいは「英米文化研究入門」を履修します。これらの科目を通して学生は地球社会における各専門地域の課題を思考し、2年次以降のより専門的な講義の選択の判断を行います。この1年次後期より、外国語科目としては、英語に加え第二外国語を選択し、「複数の外国語習得」を目指して週3日履修します。

専門教育科目は、上記の1年次開講科目に加え、2年次開講科目、3年次開講科目と積み上げ式になっており、学年が上がると共に、専門性が深まるだけでなく、より高度な外国語運用能力が求められます。外国語については、より実践的な「言語リテラシー科目C」内の各種資格試験対策と合わせて、各自の学修成果を確認することになります。

3年次には通常の「ゼミ」に加え、「言語アカデミック実践演習科目」という4名～15名程度の少人数科目を必修科目として履修します。この「言語アカデミック実践演習科目」は、2年次までに学んだ外国語を実践的に用いた演習タイプの授業であり、外国語を用いた他者との協働の中での学修を実現します。当該科目はアカデミックな

2. 国際教養学科の学びの指針

環境での外国語の実践の機会として最上位に位置する科目となります。

4年次には英語英米学科の学びの集大成として卒業論文を最重要と位置付け、学生は「卒業研究」科目において専任教員より指導を受け卒業論文の制作に取り組みます。

また、4年間を通じて、外国語を用いた実践的な教育の場が充実しており、専門知と言語運用能力を融合して取り組む「国際キャリアデザイン」「海外文化研修プログラム」及び「社会関与プロジェクト」を受講できます。

国際教養学科では、全学生は1年前期に、学部基幹科目である「地球市民論」を学部ディプロマ・ポリシーの概要を理解する科目として、教養教育科目である「ファーストイヤーゼミ」を高大接続への配慮を行う科目として履修します。また、学部共通専門を受講するとともに、外国語科目として必修の英語を週5日履修します。

同じく1年前期には国際教養学科に特化した初年次教育の機会として「国際教養研究基礎」を履修し、1年前期終了時に行うコース選択の判断に活かします。これらの科目に加え、1年前期及び後期を通して国際教養専門を受講することにより、学科のディプロマ・ポリシーの体系を概観します。

1年後期には、国際教養学科の学生は「ヨーロッパコース」「アジアコース」「国際日本コース」のいずれかに所属し、各コースの概要を理解するべく、「ヨーロッパ研究入門」「アジア研究入門」「国際日本研究入門」を履修します。学生はこれらの科目を通して地球社会における各専門地域の課題を思考し、2年次以降のより専門的な講義の選択の判断を行います。この1年次後期より、外国語科目としては、ヨーロッパ・アジア地域の言語を選択し、ディプロマ・ポリシーにもある「複数の外国語習得」を目指して週3日履修します。

専門教育科目は、上記の1年次開講科目に加え、2年次開講科目、3年次開講科目と積み上げ式になっており、学年が上がると共に、専門性が深まるだけでなく、より高度な外国語運用能力が求められます。外国語については、より実践的な「言語リテラシー科目C」内の各種資格試験対策と合わせて、各自の学修成果を確認することになります。

3年次には通常の「ゼミ」に加え、「言語アカデミック実践演習科目」という4名～15名程度の少人数科目を必修科目として履修します。この「言語アカデミック実践演習科目」は、2年次までに学んだ外国語を実践的に用いた演習タイプの授業であり、外国語を用いた他者との協働の中での学修を実現する。当該科目はアカデミックな環境での外国語の実践の機会として最上位に位置する科目となります。

4年次には国際教養学科の学びの集大成として卒業論文を最重要と位置付け、学生は「卒業研究」科目において専任教員より指導を受け卒業論文の制作に取り組みます。

また、4年間を通じて、外国語を用いた実践的な教育の場が充実しており、専門知と言語運用能力を融合して取り組む「国際キャリアデザイン」「海外文化研修プログラム」及び「社会関与プロジェクト」を受講できます。

英語英米学科カリキュラムフロー

ディプロマ・ポリシー

英語英米学科は、国際共通語としての英語及び他の外国語の実践的運用力を身につけ、英語圏の社会と文化並びにグローバル社会の理念や現状について広範な知識を有し、グローバルな課題に取り組むとともに、新しい価値創造に寄与できる人間を育成することを目標とします。英語英米学科は次のような能力を身につけた人に学位を授与します。

1. 英語及び他の外国語を用いて英語圏とグローバル社会の多元性と歴史性を理解できる力
2. 知的な創造力をもって地球規模の課題を発見し、解決のために思考・判断できる力
3. 異なる文化や価値観を尊重しながら他者と協働し、問題解決と価値創造に取り組むことができる力
4. 英語及び他の外国語の実践的運用能力により、他者と対話する優れた発信力

履修のためのガイドライン

4年次

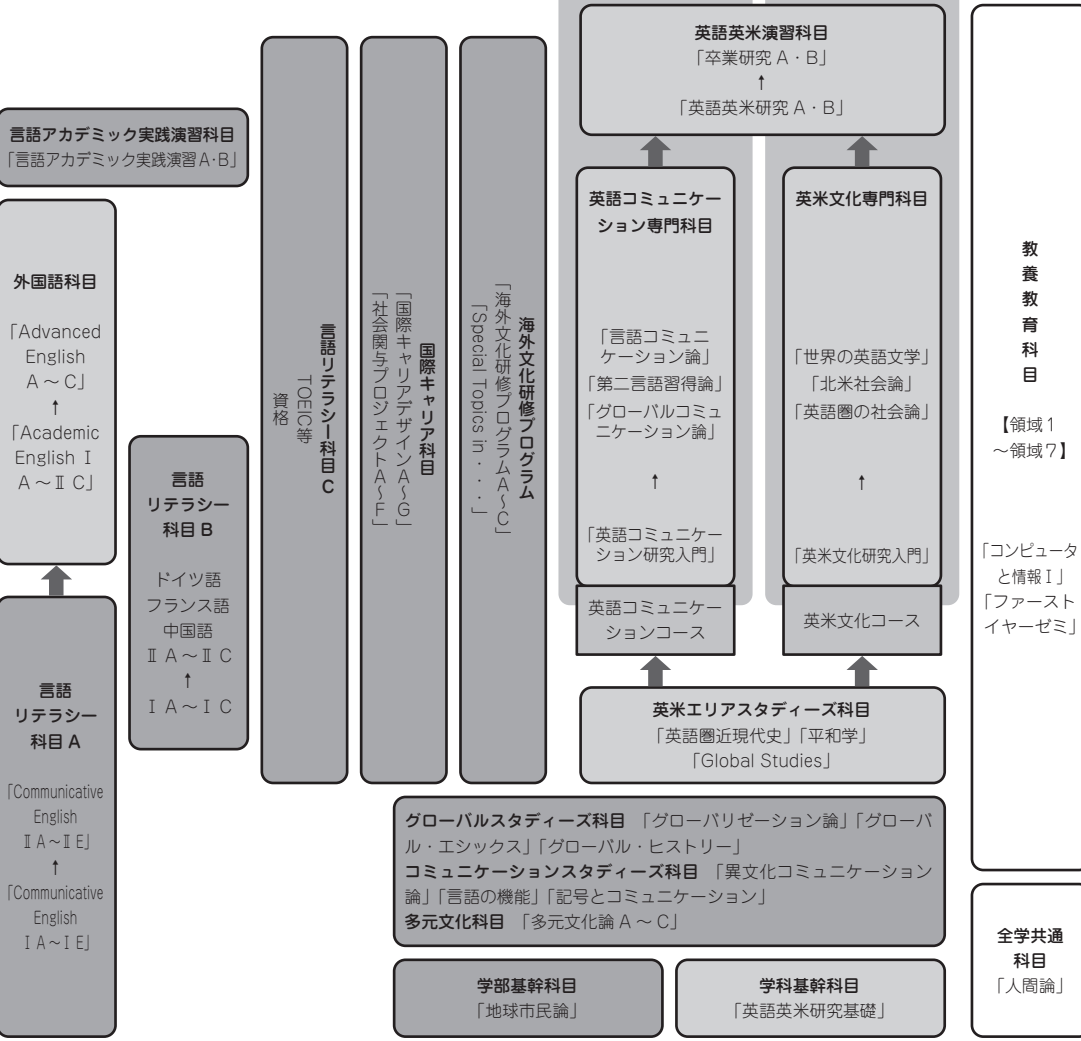
3年次

2年次

1年次後期

1年次前期

アドミッション・ポリシー



履修ガイド

教養教育科目

【領域1～領域7】

「コンピュータと情報I」
「ファーストイヤーゼミ」

全学共通科目
「人間論」

英語英米学科は、国際共通語としての英語及び他の外国語の実践的運用力を基に、英語圏の地域と文化並びにグローバル社会の理念や現状について広範な知識を有し、英語を用いた総合的判断力と思考力を活かしてグローバルな課題に取り組むとともに、新しい文化や価値の創造に寄与する能力を育成することを教育目標としています。英語英米学科では、授業科目を履修する上で必要な基礎的な能力及び学習意欲を持ち、さらに次の能力関心を持った人を受け入れます。

<知識・技能> ・国際社会、国際情勢の諸問題について、基本的な知識を基に理解している人
 ・英語及び外国語に深い意欲と関心を持ち、高校卒業程度の英語の知識と運用能力を持つ人
 ・英語圏と世界の歴史・文化・社会について、高校卒業程度の知識を持つ人

<思考力・判断力・表現力> ・ことば一般と異文化に対する高い関心を持ち、異なる背景を持った人々と対話するための論理的思考力を持つ人
 <主体性・協働性> ・他者と協働し、自発的・主体的に問題を発見し、課題解決へ導き、新しい価値を創造することに関心がある人

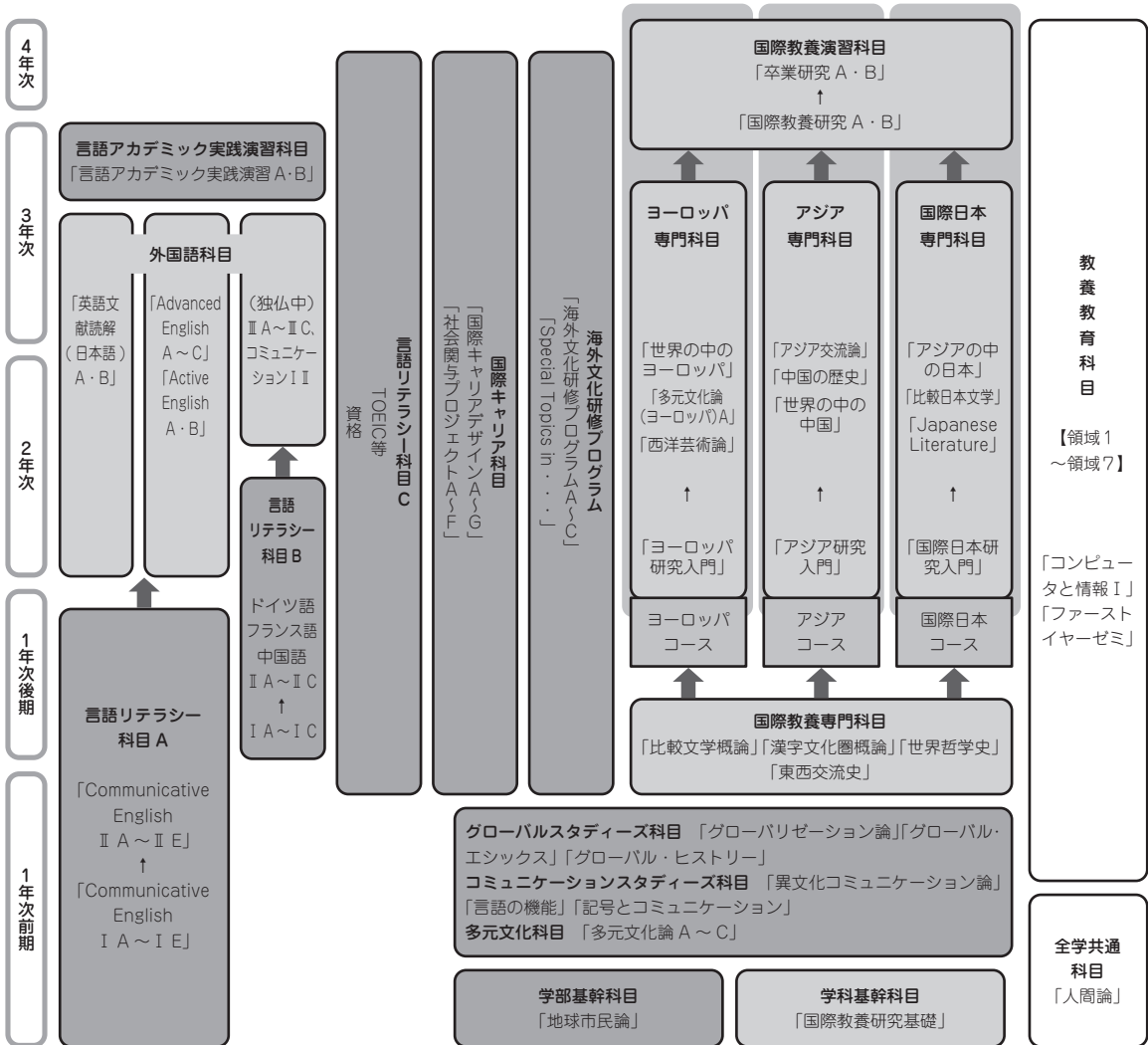
国際教養学科カリキュラムフロー

ディプロマ・ポリシー

国際教養学科は、英語に加えてフランス語、ドイツ語又は中国語の各外国語の実践的運用力を身につけ、ヨーロッパ、あるいは日本を含むアジアの各地域及びグローバル社会の理念や現状について広範な知識を有し、グローバルな課題に取り組むとともに、新しい価値創造に寄与できる人間を育成することを目標とします。国際教養学科は次のような能力を身につけた人に学位を授与します。

1. 複数の外国語を用いてヨーロッパとアジアの各地域およびグローバル社会の多元性と歴史性を理解する力
2. 知的な創造力をもって地球規模の課題を発見し、解決のために思考・判断できる力
3. 異なる文化や価値観を尊重しながら他者と協働し、問題解決と価値創造に取り組むことができる力
4. 英語に加え、フランス語、ドイツ語又は中国語の実践的運用能力により、他者と対話する優れた発信力

履修ガイド



アドミッション・ポリシー

国際教養学科は、英語に加えてフランス語、ドイツ語又は中国語の各外国語の実践的運用力を身につけ、ヨーロッパ、あるいは日本を含むアジアの各地域及びグローバル社会の理念や現状について広範な知識を有し、専門とする言語に基づいた総合的判断力と思考力を活かしてグローバルな課題に取り組むとともに新しい価値の創造に寄与する能力を育成することを教育目標としています。国際教養学科では、授業科目を履修する上で必要な基礎的な能力及び学習意欲を持ち、さらに次の能力関心を持った人を受け入れます。

<知識・技能> ・国際社会、国際情勢の諸問題について、基本的な知識を基に理解している人
・外国語に深い意欲と関心を持ち、高校卒業程度の英語（あるいはフランス語、ドイツ語又は中国語）の知識と運用能力を持つ人
・ヨーロッパ、日本を含むアジアと世界の歴史・文化・社会について、高校卒業程度の知識を持つ人

<思考力・判断力・表現力> ・ことば一般と異文化に対する高い関心を有し、異なる背景を持った人々と対話するための論理的思考力を持つ人

<主体性・協働性> ・他者と協働し、自発的・主体的に問題を発見し、課題解決へ導き、新しい価値を創造することに関心がある人

英語英米学科 英語コミュニケーションコース 履修モデル

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
教養教育科目	全学共通科目	◎人間論 (前)				
	領域 1 思想と表現		文学 (後)	言語 (後)		
	領域 2 歴史と社会		法 (後)			
	領域 3 自然と科学技術	地球の科学 (後)				
	領域 4 数理と情報	◎コンピュータと情報Ⅰ(前) コンピュータと情報Ⅱ(後)				
	領域 5 言語とコミュニケーション					
	領域 6 健康とスポーツ		健康とスポーツの理論 (前)			
	領域 7 トータルライフデザイン	◎ファーストイヤーゼミ(前)	ジェンダー論入門 (後)			
専門教育科目	学部共通基礎	学部基幹科目	◎地球市民論 (前)			
		言語リテラシー科目 A	◎ Communicative English I A(前) ◎ Communicative English I B(前) ◎ Communicative English I C(前) ◎ Communicative English I D(前) ◎ Communicative English I E(前) ◎ Communicative English II A(後) ◎ Communicative English II B(後) ◎ Communicative English II C(後) ◎ Communicative English II D(後) ◎ Communicative English II E(後)			
		言語リテラシー科目 B	■中国語Ⅰ A (後) ■中国語Ⅰ B (後) ■中国語Ⅰ C (後)	■中国語Ⅱ A (前) ■中国語Ⅱ B (前) ■中国語Ⅱ C (前)		
		言語リテラシー科目 C		■ TOEIC500Ⅰ (前) ■ TOEIC500Ⅱ (後)	■ TOEIC600Ⅰ (前) ■ TOEIC600Ⅱ (後)	
	学部共通専門	言語アカデミック実践科目			◎言語アカデミック実践演習A(前) ◎言語アカデミック実践演習B(後)	
		グローバルスタディーズ科目	■グローバル・エシックス (前) ■グローバルイゼーション論(後)			
		コミュニケーションスタディーズ科目	■言語の機能 (前) ■記号とコミュニケーション(後)			
		多元文化科目	■多元文化論 B (前) ■多元文化論 A (後)			
	学科共通基礎	海外文化研修プログラム		■海外文化研修プログラムC(後)		
		国際キャリア科目		■社会関与プロジェクトA(前)	国際キャリアデザインA(前)	
		学科基幹科目	◎英語英米研究基礎(前)			
		外国語科目		○ Academic English I A(前) ○ Academic English I B(前) ○ Academic English I C(前) ○ Academic English II A(後) ○ Academic English II B(後) ○ Academic English II C(後)	Advanced English A (前) Advanced English C (後)	
	学科共通専門	英米エリアスタディーズ科目	■英語圏近現代史(前)	■平和学(後)	Global Studies(後)	
		英語コミュニケーション専門科目	○英語コミュニケーション研究入門(後)	○言語コミュニケーション論(前) ○第二言語習得論(前) ○グローバルコミュニケーション論(前) ■社会言語学(前) ■English For Tourism(前) ■異文化理解(後) ■ Introduction to Linguistics(後)	異文化トレーニング(前) レトリカルコミュニケーション論(前) 研究調査法(前) Intercultural Communication Studies(前) 非言語コミュニケーション論(後) Linguistics(後) Translation Studies(後)	
		英米文化専門科目		スポーツ文化論(後)	アメリカ映画論(前) イギリスの歴史(後) 植民帝国論(後)	
		英語英米演習科目			◎英語英米研究 A(前) ◎英語英米研究 B(後)	◎卒業研究 A(前) ◎卒業研究 B(後)

◎：必修、■：選択必修、○：コース必修

履修ガイド

英語英米学科 英米文化コース 履修モデル

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
教養教育科目	全学共通科目	◎人間論 (前)				
	領域 1 思想と表現	言語 (前)	文学 (後)			
	領域 2 歴史と社会		法 (後)			
	領域 3 自然と科学技術			地球の科学 (後)		
	領域 4 数理と情報	◎コンピュータと情報Ⅰ(前) コンピュータと情報Ⅱ(後)				
	領域 5 言語とコミュニケーション					
	領域 6 健康とスポーツ		健康とスポーツの理論 (前)			
	領域 7 トータルライフデザイン	◎ファーストイヤーゼミ(前)	ジェンダー論入門 (後)			
専門教育科目	学部共通基礎	学部基幹科目	◎地球市民論 (前)			
		言語リテラシー科目 A	◎ Communicative English I A(前) ◎ Communicative English I B(前) ◎ Communicative English I C(前) ◎ Communicative English I D(前) ◎ Communicative English I E(前) ◎ Communicative English II A(後) ◎ Communicative English II B(後) ◎ Communicative English II C(後) ◎ Communicative English II D(後) ◎ Communicative English II E(後)			
		言語リテラシー科目 B	■中国語Ⅰ A (後) ■中国語Ⅰ B (後) ■中国語Ⅰ C (後)	■中国語Ⅱ A (前) ■中国語Ⅱ B (前) ■中国語Ⅱ C (前)		
		言語リテラシー科目 C		■ TOEIC500Ⅰ (前) ■ TOEIC500Ⅱ (後)	■ TOEIC600Ⅰ (前) ■ TOEIC600Ⅱ (後)	
	学部共通専門	言語アカデミック実践科目			◎言語アカデミック実践演習 A(前) ◎言語アカデミック実践演習 B(後)	
		グローバルスタディーズ科目	■グローバル・エシックス (前) ■グローバルイゼーション論(後)			
		コミュニケーションスタディーズ科目	■言語の機能 (前) ■記号とコミュニケーション(後)			
		多元文化科目	■多元文化論 B (前) ■多元文化論 A (後)			
	学科共通基礎	海外文化研修プログラム		■海外文化研修プログラム C(後)		
		国際キャリア科目		■社会関与プロジェクト A(前)	国際キャリアデザイン A(前)	
		学科基幹科目	◎英語英米研究基礎 (前)			
		外国語科目		○ Academic English I A(前) ○ Academic English I B(前) ○ Academic English I C(前) ○ Academic English II A(後) ○ Academic English II B(後) ○ Academic English II C(後)	Advanced English A (前) Advanced English C (後)	
	学科共通専門	英米エリアスタディーズ科目	■ Global Studies(後)	■英語圏近現代史 (前) 平和学 (後)		
		英語コミュニケーション専門科目		異文化トレーニング(前)	言語コミュニケーション論(前) 非言語コミュニケーション論(後) 翻訳 B (後)	
		英米文化専門科目	○英米文化研究入門(後)	○世界の英語文学 (前) ○北米社会論 (前) ■北米文学 (後) ■英語女性文学 (後) ■ポストコロニアル文化論(後) ■国際関係論 B (後)	○英語圏の社会論 (前) 英語マイノリティ文学(前) アメリカ映画論 (前) 国際関係論 C (前) English Literature(後) Gender and Literature(後) 植民帝国論 (後) 多元文化論(ヨーロッパ) B(後)	
		英語英米演習科目			◎英語英米研究 A (前) ◎英語英米研究 B (後)	◎卒業研究 A (前) ◎卒業研究 B (後)

◎：必修、■：選択必修、○：コース必修

履修ガイド

国際教養学科 ヨーロッパコース 履修モデル

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
教養教育科目	全学共通科目	◎人間論 (前)				
	領域 1 思想と表現		芸術 (前)	言語 (前)		
	領域 2 歴史と社会	社会 (前)				
	領域 3 自然と科学技術	地球の科学 (後)				
	領域 4 数理と情報	◎コンピュータと情報Ⅰ(前) コンピュータと情報Ⅱ(後)				
	領域 5 言語とコミュニケーション					
	領域 6 健康とスポーツ		健康とスポーツの理論(前)			
	領域 7 トータルライフデザイン	◎ファーストイヤーゼミ(前)	ジェンダー論入門(後)			
専門教育科目	学部共通基礎	学部基幹科目	◎地球市民論 (前)			
		言語リテラシー科目 A	◎ Communicative English I A(前) ◎ Communicative English I B(前) ◎ Communicative English I C(前) ◎ Communicative English I D(前) ◎ Communicative English I E(前) ◎ Communicative English II A(後) ◎ Communicative English II B(後) ◎ Communicative English II C(後) ◎ Communicative English II D(後) ◎ Communicative English II E(後)			
		言語リテラシー科目 B	■ドイツ語Ⅰ A (後) ■ドイツ語Ⅰ B (後) ■ドイツ語Ⅰ C (後)	■ドイツ語Ⅱ A (前) ■ドイツ語Ⅱ B (前) ■ドイツ語Ⅱ C (前)		
		言語リテラシー科目 C		■資格ドイツ語Ⅰ (前) ■日本手話Ⅰ (後)	■資格ドイツ語Ⅱ (前) ■資格ドイツ語Ⅲ (後)	
	学部共通専門	グローバルスタディーズ科目	■グローバル・エシックス (前) ■グローバルゼーション論(後)			
		コミュニケーションスタディーズ科目	■言語の機能 (前) ■記号とコミュニケーション(後)			
		多元文化科目	■多元文化論 B (前) ■多元文化論 A (後)			
		海外文化研修プログラム		■海外文化研修プログラム C(後)		
	学科共通基礎	国際キャリア科目		■社会関与プロジェクト A(前)		
		学科基幹科目	◎国際教養研究基礎 (前)			
		外国語科目		○ドイツ語Ⅲ A (後) ○ドイツ語Ⅲ B (後) ○ドイツ語Ⅲ C (後) ○ドイツ語コミュニケーションⅠ(前) ○ドイツ語コミュニケーションⅡ(後)	ドイツ語Ⅳ A (前) ドイツ語Ⅳ B (後)	
		国際教養専門科目		■比較文学概論 (前) ■世界哲学史 (後)		
		ヨーロッパ専門科目	○ヨーロッパ研究入門(後)	○世界の中のヨーロッパ(前) ○多元文化論(ヨーロッパ)A(前) ○西洋芸術論 (前) ■現代ヨーロッパ社会論(後) ■イギリスの歴史 (後)	■多元文化論(ヨーロッパ)B(前) ■イギリス文学 (前) 現代思想論 (前) フランスの思想と文学(前) ドイツの思想と文学(後) 翻訳論 (後)	
		アジア専門科目		東洋思想 (後) 世界の中の日本 (後) 現代日本論 (後)	東洋文化論 (前) Japanese Traditional Culture(前) 比較芸術論 (後) 多元文化論(日本)A(後) Japanese Contemporary Culture(後) Translation Studies(後)	
		国際日本専門科目				
		国際教養演習科目			◎国際教養研究 A (前) ◎国際教養研究 B (後)	◎卒業研究 A (前) ◎卒業研究 B (後)

◎：必修、■：選択必修、○：コース必修

国際教養学科 アジアコース 履修モデル

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
教養教育科目	全学共通科目	◎人間論 (前)			
	領域 1 思想と表現	言語 (前)	人類学 (前)		
	領域 2 歴史と社会			歴史 (前)	
	領域 3 自然と科学技術			地球の科学 (後)	
	領域 4 数理と情報	◎コンピュータと情報Ⅰ (前) コンピュータと情報Ⅱ (後)			
	領域 5 言語とコミュニケーション				
	領域 6 健康とスポーツ		健康とスポーツの理論 (前)		
	領域 7 トータルライフデザイン	◎ファーストイヤーゼミ (前)	ジェンダー論入門 (後)		
学部共通基礎	学部基幹科目	◎地球市民論 (前)			
	言語リテラシー科目 A	◎ Communicative English I A (前) ◎ Communicative English I B (前) ◎ Communicative English I C (前) ◎ Communicative English I D (前) ◎ Communicative English I E (前) ◎ Communicative English II A (後) ◎ Communicative English II B (後) ◎ Communicative English II C (後) ◎ Communicative English II D (後) ◎ Communicative English II E (後)			
	言語リテラシー科目 B	■中国語Ⅰ A (後) ■中国語Ⅰ B (後) ■中国語Ⅰ C (後)	■中国語Ⅱ A (前) ■中国語Ⅱ B (前) ■中国語Ⅱ C (前)		
	言語リテラシー科目 C		■資格中国語Ⅰ (前) ■日本手話Ⅰ (前) 日本手話Ⅱ (後)	■資格中国語Ⅱ (前) ■資格中国語Ⅲ (後)	
	言語アカデミック実践科目			◎言語アカデミック実践演習 A (前) ◎言語アカデミック実践演習 B (後)	
	グローバルスタディーズ科目	■グローバル・エシックス (前) ■グローバルイノベーション論 (後)			
	コミュニケーションスタディーズ科目	■言語の機能 (前) ■記号とコミュニケーション (後)			
	多元文化科目	■多元文化論 B (前) ■多元文化論 A (後)			
	海外文化研修プログラム			■海外文化研修プログラム C (後)	
	国際キャリア科目			■社会関与プロジェクト A (前)	
専門教育科目	学科基幹科目	◎国際教養研究基礎 (前)			
	外国語科目		○中国語Ⅲ A (後) ○中国語Ⅲ B (後) ○中国語Ⅲ C (後) ○中国語コミュニケーションⅠ (前) ○中国語コミュニケーションⅡ (後)	中国語Ⅳ A (前) 中国語Ⅳ B (後)	
	国際教養専門科目		■漢字文化圏概論 (前) ■東西交流史 (後)		
	ヨーロッパ専門科目			世界中のヨーロッパ (前) 翻訳論 (後)	
	アジア専門科目	○アジア研究入門 (後)	○アジア交流論 (前) ○中国の歴史 (前) ○世界の中の中国 (前) ■東洋思想 (後) ■植民帝国論 (後)	■現代中国論 (前) ■多元文化論 (アジア) C (前) 東洋文化論 (前) 多元文化論 (アジア) A (後) 多元文化論 (アジア) B (後) 中国文学 (後)	
	国際日本専門科目	国際日本研究入門 (後)	アジアの中の日本 (前) 世界の中の日本 (後)	比較日本文学 (前) 現代日本論 (後) 多元文化論 (日本) B (後)	
	国際教養演習科目			◎国際教養研究 A (前) ◎国際教養研究 B (後)	◎卒業研究 A (前) ◎卒業研究 B (後)

◎：必修、■：選択必修、○：コース必修

履修ガイド

国際教養学科 国際日本コース 履修モデル

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
教養教育科目	全学共通科目	◎人間論 (前)					
	領域 1 思想と表現	言語 (前)					
	領域 2 歴史と社会		日本国憲法 (前)	法 (後)			
	領域 3 自然と科学技術	地球の科学 (後)					
	領域 4 数理と情報	◎コンピュータと情報Ⅰ (前) コンピュータと情報Ⅱ (後)					
	領域 5 言語とコミュニケーション						
	領域 6 健康とスポーツ		健康とスポーツの理論 (前)				
	領域 7 トータルライフデザイン	◎ファーストイヤーゼミ (前)	ジェンダー論入門 (後)				
専門教育科目	学部共通基礎	学部基幹科目	◎地球市民論 (前)				
		言語リテラシー科目 A	◎ Communicative English I A (前) ◎ Communicative English I B (前) ◎ Communicative English I C (前) ◎ Communicative English I D (前) ◎ Communicative English I E (前) ◎ Communicative English II A (後) ◎ Communicative English II B (後) ◎ Communicative English II C (後) ◎ Communicative English II D (後) ◎ Communicative English II E (後)				
		言語リテラシー科目 B	■中国語Ⅰ A (後) ■中国語Ⅰ B (後) ■中国語Ⅰ C (後)	■中国語Ⅱ A (前) ■中国語Ⅱ B (前) ■中国語Ⅱ C (前)			
		言語リテラシー科目 C		■資格中国語Ⅰ (前) ■日本手話Ⅰ (前)	■資格中国語Ⅱ (前) ■日本手話Ⅱ (後)		
		言語アカデミック実践科目			◎言語アカデミック実践演習 A (前) ◎言語アカデミック実践演習 B (後)		
		学部共通専門	グローバルスタディーズ科目	■グローバル・エシックス (前) ■グローバルイノベーション論 (後)			
			コミュニケーションスタディーズ科目	■言語の機能 (前) ■記号とコミュニケーション (後)			
			多元文化科目	■多元文化論 B (前) ■多元文化論 A (後)			
	海外文化研修プログラム			■海外文化研修プログラム C (後)			
	国際キャリア科目		■社会関与プロジェクト A (前)				
	学科共通基礎	学科基幹科目	◎国際教養研究基礎 (前)				
		外国語科目		○英語文献読解 (日本語) A (後) ○英語文献読解 (日本語) B (後) ○中国語コミュニケーションⅠ (前)	Active English A Active English B		
		国際教養専門科目		■漢字文化圏概論 (前) ■世界哲学史 (後)			
		ヨーロッパ専門科目		多元文化論 (ヨーロッパ) A (前) イギリスの歴史 (後)	現代思想論 (前) 翻訳論 (後)		
		アジア専門科目			東洋文化論 (前) 東洋思想 (後)		
		学科共通専門	国際日本専門科目	○国際日本研究入門 (後)	○比較日本文学 (前) ■日本の歴史 (前) ■世界の中の日本 (後) ■現代日本論 (後) ■比較芸術論 (後) 日本語実践演習 A (後)	○アジアの中の日本 (前) ○ Japanese Literature (前) Minority Studies (前) 多元文化論 (日本) C (前) Japanese Traditional Culture (前) 多元文化論 (日本) A (後) 多元文化論 (日本) B (後) 多元文化論 (日本) D (後)	
国際教養演習科目					◎国際教養研究 A (前) ◎国際教養研究 B (後)	◎卒業研究 A (前) ◎卒業研究 B (後)	

◎：必修、■：選択必修、○：コース必修

履修ガイド

英語英米学科、国際教養学科とも4年以上在学し、卒業に必要な単位として126単位以上修得することを卒業要件とします。授業科目の履修にあたっては、学科ごとに次の各科目区分から所定の単位数、及び必修科目と選択必修の科目を修得します。本学では教育理念を基にした「人間論」を全学共通科目として設置します。また教養教育科目として両学科とも17単位以上の取得を必須としており、大学教育のための基礎的スキルを習得するための「コンピュータと情報Ⅰ」「ファーストイヤーゼミ」を必修、領域7「トータルライフデザイン」の科目を選択必修とします。専門教育科目は89単位以上、自由選択科目として18単位以上を必須とします。

授業科目区分		学 科	
		英語英米学科	国際教養学科
全学共通科目「人間論」		2 単位	
教養教育科目	領域1 思想と表現	5 つ以上の領域から 14 単位	
	領域2 歴史と社会		
	領域3 自然と科学技術		
	領域4 数理と情報		
	領域5 言語とコミュニケーション		
	領域6 健康とスポーツ		
	領域7 トータルライフデザイン		
上記（領域1～領域7）から		3 単位	
		17 単位	
専門教育科目	学部共通科目	44 単位	
	学科共通科目	45 単位	
(自由選択) *		18 単位	
卒業に必要な単位数の合計		126 単位	

*印は、教養教育科目、専門教育科目及び第20条の2から第20条の5までに規定するいずれの科目から修得してもよい。ただし、第20条の2から第20条の5までに規定する他の大学等において修得した単位は、12単位を上限として自由選択の単位とする。

【(自由選択) の単位に含まれるもの】

英語英米学科	国際教養学科
1. 教養教育科目	1. 教養教育科目
2. 英語英米学科で開設している専門教育科目	2. 国際教養学科で開設している専門教育科目
3. 留学に伴う単位認定制度において修得した単位 (「9. 留学に伴う単位認定制度」を参照)	3. 留学に伴う単位認定制度において修得した単位 (「9. 留学に伴う単位認定制度」を参照)
4. 学則第20条の2から第20条の5までに規定する科目(上限12単位まで) ①外国語検定試験によって得た、級または得点(「10. 外国語検定試験による単位認定制度」を参照) ②本学での他学部・他学科の開放科目 ③愛知学長懇話会が主催する他大学での開放科目	4. 学則第20条の2から第20条の5までに規定する科目(上限12単位まで) ①外国語検定試験によって得た、級または得点(「10. 外国語検定試験による単位認定制度」を参照) ②本学での他学部・他学科の開放科目 ③愛知学長懇話会が主催する他大学での開放科目

英語英米学科

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
英語英米学科	思想と表現 領域1	哲学		2	○			必修を含め領域1から領域6までのうち5つ以上の領域から14単位以上選択履修
		文学		2	○			
		芸術		2	○			
		心理		2	○			
		言語		2	○			
		人類学		2	○			
	歴史と社会 領域2	歴史		2	○			
		法		2	○			
		日本国憲法		2	○			
		経済		2	○			
		社会		2	○			
		地理		2	○			
	自然と科学技術 領域3	物理の世界		2	○			
		化学の世界		2	○			
		環境の科学		2	○			
		地球の科学		2	○			
		生命の科学		2	○			
	数理と情報 領域4	数理の世界		2	○			
		統計の世界		2	○			
		コンピュータと情報Ⅰ	必修	2	○			
		コンピュータと情報Ⅱ		2	○			
	言語とコミュニケーション 領域5	外国語（英語A）		1	○			
		外国語（英語B）		1	○			
		外国語（英語C）		1		○		
		外国語（英語D）		1		○		
		外国語（ドイツ語Ⅰ）		1	○			
		外国語（ドイツ語Ⅱ）		1	○			
		外国語（フランス語Ⅰ）		1	○			
		外国語（フランス語Ⅱ）		1	○			
		外国語（中国語Ⅰ）		1	○			
		外国語（中国語Ⅱ）		1	○			
		外国語（ポルトガル語Ⅰ）		1	○			
		外国語（ポルトガル語Ⅱ）		1	○			
		外国語（スペイン語Ⅰ）		1	○			
		外国語（スペイン語Ⅱ）		1	○			
外国語（ハンガールⅠ）		1	○					
外国語（ハンガールⅡ）		1	○					
スポーツと健康 領域6	健康とスポーツの理論		2	○				
	健康科学		1	○				
	スポーツ実習A		1	○				
	スポーツ実習B		1	○				
	ファーストイヤーゼミ	必修	1	○				
トータルライフデザイン 領域7	ジェンダー論入門		2	○				
	生活と防災		2	○				
	思考のスキル入門		2	○				
	AI・データと社会		2	○				
	ワークキャリアデザイン		2	○				
	ビジネススキル入門		2		○			
	キャリア形成実習Ⅰ		1		○			
	キャリア形成実習Ⅱ		1		○			

(2024年度以降入学生)

専門教育科目

		授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考			
学部共通基礎	学部基礎科目	地球市民論	必修	2	○				必修を含め 28単位以上 選択履修			
		言語リテラシー科目A	Communicative English I A	必修	1	○						
			Communicative English I B	必修	1	○						
			Communicative English I C	必修	1	○						
			Communicative English I D	必修	1	○						
			Communicative English I E	必修	1	○						
			Communicative English II A	必修	1	○						
			Communicative English II B	必修	1	○						
			Communicative English II C	必修	1	○						
			Communicative English II D	必修	1	○						
	Communicative English II E		必修	1	○							
	言語リテラシー科目B	ドイツ語 I A	※	1	○					※いずれか 1言語 6単位必修		
		ドイツ語 I B		1	○							
		ドイツ語 I C		1	○							
		ドイツ語 II A	1		○							
		ドイツ語 II B	1		○							
		ドイツ語 II C	1		○							
		フランス語 I A	※	1	○			必修を含め 28単位以上 選択履修				
		フランス語 I B		1	○							
		フランス語 I C		1	○							
		フランス語 II A	1		○							
		フランス語 II B	1		○							
		フランス語 II C	1		○							
		中国語 I A	※	1	○						必修を含め 28単位以上 選択履修	
		中国語 I B		1	○							
	中国語 I C	1		○								
	中国語 II A	1		○								
	中国語 II B	1		○								
	中国語 II C	1		○								
	言語リテラシー科目C	TOEIC 500 I		2	○							8単位以上 選択履修
		TOEIC 500 II		2	○							
		TOEIC 600 I		2	○							
		TOEIC 600 II		2	○							
		TOEIC 700 I		2	○							
		TOEIC 700 II		2	○							
		TOEIC 800+		2	○							
IELTS I			2	○								
IELTS II			2	○								
TOEFL iBT I			2	○								
TOEFL iBT II			2	○								
資格ドイツ語 I			2		○							
資格ドイツ語 II			2			○						
資格ドイツ語 III			2			○						
資格フランス語 I			2		○							
資格フランス語 II			2			○						
資格フランス語 III			2			○						
資格中国語 I			2		○							
資格中国語 II		2			○							
資格中国語 III		2			○							
日本手話 I		2		○								
日本手話 II		2		○								
講義	言語アカデミック実践演習A	必修	1			○						
	言語アカデミック実践演習B	必修	1			○						
学部共通専門	グローバルスタディ	グローバルゼーション論		2	○			4単位以上 選択履修				
		グローバル・エシックス		2	○							
		グローバル・ヒストリー		2	○							
		グローバル・コミュニケーション		2	○							
	ディスタンス	異文化コミュニケーション		2	○			4単位以上 選択履修				
言語の機能		2	○									
	記号とコミュニケーション		2	○								

(2024年度以降入学生)

履修ガイド

授業科目学年配当表

専門教育科目

		授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考	
学部共通科目	学部共通専門	多元文化 化科目	多元文化論A		2	○			4単位以上 選択履修	16単位以上 選択履修	
			多元文化論B		2	○					
			多元文化論C		2	○					
		海外文化研修 プログラム	海外文化研修プログラムA		16	○					2単位以上 選択履修
			海外文化研修プログラムB ◇		4	○					
			海外文化研修プログラムC ◇		2	○					
			Special Topics in English A		2		○				
			Special Topics in English B		2		○				
			Special Topics in German		2		○				
			Special Topics in French		2		○				
		国際キャリア科目	国際キャリアデザインA		2	○					2単位以上 選択履修
			国際キャリアデザインB		2	○					
	国際キャリアデザインC			2	○						
	国際キャリアデザインD			2	○						
	国際キャリアデザインE			2	○						
	国際キャリアデザインF			2	○						
	国際キャリアデザインG			2	○						
	社会関与プロジェクトA			2	○						
	社会関与プロジェクトB			2	○						
	社会関与プロジェクトC			2	○						
	社会関与プロジェクトD			2	○						
	社会関与プロジェクトE			2	○						
	社会関与プロジェクトF			2	○						
	学科共通基礎		学科基礎科目	英語英米研究基礎	必修	2	○				
		外国語科目	Academic English I A	必修	1		○				
			Academic English I B	必修	1		○				
			Academic English I C	必修	1		○				
			Academic English II A	必修	1		○				
			Academic English II B	必修	1		○				
			Academic English II C	必修	1		○				
			Active English A		1		○				
			Active English B		1		○				
			English for Academic Purposes Project and Research		2			○			
Advanced English A				1		○					
Advanced English B				1		○					
Advanced English C				1		○					
Advanced English D				1		○					
学科共通専門			英米エリア スタディ ス科目	英語圏近現代史		2	○			4単位以上 選択履修	
	平和学			2	○						
	Global Studies			2	○						
	英語コミュニケーション 専門科目	英語コミュニケーション研究入門	※	2	○			英語コミュニ ケーションコ ースは※印8 単位必修を含 んで16単位 以上選択履修			
		Introduction to Intercultural Communication Studies		2		○					
		言語コミュニケーション論	※	2		○					
		非言語コミュニケーション論		2		○					
		異文化トレーニング		2		○					
		異文化適応論		2		○					
		異文化理解		2		○					
		翻訳A		2		○					
		翻訳B		2		○					
		通訳A		2		○					
		通訳B		2		○					
		Introduction to Linguistics		2		○					
		社会言語学		2		○					
		応用言語学		2		○					
		第二言語習得論	※	2		○					
		認知言語学		2		○					
		English for Tourism		2		○					
		Communication in Business		2		○					
Gender Dimension in Media and Communication Studies		2		○							

◇：履修規制単位数に含まない科目

(2024年度以降入学生)

履修ガイド

授業科目学年配当表

専門教育科目

		授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考
学科共通科目	英語コミュニケーション専門科目	ジェンダーとメディアコミュニケーションA		2		○			英語コミュニケーションコースは※印8単位必修を含んで16単位以上選択履修	
		ジェンダーとメディアコミュニケーションB		2		○				
		グローバルコミュニケーション論	※	2		○				
		東西交流史		2		○				
		世界の中の中国		2		○				
		レトリカル・コミュニケーション論		2			○			
		理論言語学		2			○			
		研究調査法		2			○			
		Linguistics		2			○			
		Intercultural Communication Studies		2			○			
		Translation Studies		2			○			
	英米文化専門科目	英米文化研究入門	※	2	○				英米文化コースは※印8単位必修を含んで16単位以上選択履修	
		世界の英語文学	※	2		○				
		Introduction to English Literature		2		○				
		北米文学		2		○				
		イギリス文学		2		○				
		英語女性文学		2		○				
		英語マイノリティ文学		2			○			
		English Literature		2			○			
		Gender and Literature		2			○			
		ポストコロナル文化論		2		○				
		イギリス文化論		2		○				
		スポーツ文化論		2		○				
		アメリカ映画論		2		○				
		イギリスの歴史		2		○				
		北米社会論	※	2		○				
		英語圏の社会論	※	2			○			
		植民帝国論		2		○				
		国際関係論A		2		○				
		国際関係論B		2		○				
		国際関係論C		2			○			
	Introduction to Social and Cultural Studies		2		○					
	Minority Studies		2			○				
	多元文化論(ヨーロッパ)A		2			○				
多元文化論(ヨーロッパ)B		2			○					
Ecocriticism		2			○					
演習科目	英語英米	英語英米研究A	必修	2			○			
	英語英米研究B	必修	2			○				
	卒業研究A	必修	2				○			
	卒業研究B	必修	2				○			

(2024年度以降入学生)

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
国際教養学科	思想と表現 領域1	哲学		2	○			必修を含め領域1から領域6までのうち5つ以上の領域から14単位以上選択履修
		文学		2	○			
		芸術		2	○			
		心理		2	○			
		言語		2	○			
		人類学		2	○			
	歴史と社会 領域2	歴史		2	○			
		法		2	○			
		日本国憲法		2	○			
		経済		2	○			
		社会		2	○			
		地理		2	○			
	自然と科学技術 領域3	物理の世界		2	○			
		化学の世界		2	○			
		環境の科学		2	○			
		地球の科学		2	○			
		生命の科学		2	○			
	数理と情報 領域4	数理の世界		2	○			
		統計の世界		2	○			
		コンピュータと情報Ⅰ	必修	2	○			
		コンピュータと情報Ⅱ		2	○			
	言語とコミュニケーション 領域5	外国語（英語A）		1	○			
		外国語（英語B）		1	○			
		外国語（英語C）		1		○		
		外国語（英語D）		1		○		
		外国語（ドイツ語Ⅰ）		1	○			
		外国語（ドイツ語Ⅱ）		1	○			
		外国語（フランス語Ⅰ）		1	○			
		外国語（フランス語Ⅱ）		1	○			
		外国語（中国語Ⅰ）		1	○			
		外国語（中国語Ⅱ）		1	○			
		外国語（ポルトガル語Ⅰ）		1	○			
		外国語（ポルトガル語Ⅱ）		1	○			
		外国語（スペイン語Ⅰ）		1	○			
		外国語（スペイン語Ⅱ）		1	○			
	外国語（ハングルⅠ）		1	○				
	外国語（ハングルⅡ）		1	○				
	スポーツと健康 領域6	健康とスポーツの理論		2	○			
		健康科学		1	○			
		スポーツ実習A		1	○			
		スポーツ実習B		1	○			
		ファーストイヤーゼミ	必修	1	○			
トータルライフデザイン 領域7	ジェンダー論入門		2	○				
	生活と防災		2	○				
	思考のスキル入門		2	○				
	AI・データと社会		2	○				
	ワークキャリアデザイン		2	○				
	ビジネススキル入門		2		○			
	キャリア形成実習Ⅰ		1		○			
	キャリア形成実習Ⅱ		1		○			

(2024年度以降入学生)

履修ガイド

授業科目学年配当表

専門教育科目

		授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考	
学部共通基礎	言語リテラシー科目A	地球市民論	必修	2	○						
		Communicative English I A	必修	1	○						
		Communicative English I B	必修	1	○						
		Communicative English I C	必修	1	○						
		Communicative English I D	必修	1	○						
		Communicative English I E	必修	1	○						
		Communicative English II A	必修	1	○						
		Communicative English II B	必修	1	○						
		Communicative English II C	必修	1	○						
		Communicative English II D	必修	1	○						
		Communicative English II E	必修	1	○						
学部共通基礎	言語リテラシー科目B	ドイツ語 I A	※	1	○				※ヨーロッパコースはドイツ語又はフランス語から1言語6単位必修		
		ドイツ語 I B		1	○						
		ドイツ語 I C		1	○						
		ドイツ語 II A		1		○					
		ドイツ語 II B	1		○						
		ドイツ語 II C	1		○						
		フランス語 I A	※	1	○					※アジアコースは中国語6単位必修	
		フランス語 I B		1	○						
		フランス語 I C		1	○						
		フランス語 II A		1		○					
		フランス語 II B	1		○						
		フランス語 II C	1		○						
		中国語 I A	※	1	○						※国際日本コースはいずれか1言語6単位必修
		中国語 I B		1	○						
中国語 I C	1	○									
中国語 II A	1			○							
中国語 II B	1		○								
中国語 II C	1		○								
学部共通専門	言語リテラシー科目C	TOEIC 500 I		2	○				8単位以上選択履修		
		TOEIC 500 II		2	○						
		TOEIC 600 I		2	○						
		TOEIC 600 II		2	○						
		TOEIC 700 I		2	○						
		TOEIC 700 II		2	○						
		TOEIC 800+		2	○						
		IELTS I		2	○						
		IELTS II		2	○						
		TOEFL iBT I		2	○						
		TOEFL iBT II		2	○						
		資格ドイツ語 I		2		○					
		資格ドイツ語 II		2			○				
		資格ドイツ語 III		2			○				
		資格フランス語 I		2		○					
		資格フランス語 II		2			○				
		資格フランス語 III		2			○				
		資格中国語 I		2		○					
資格中国語 II		2			○						
資格中国語 III		2			○						
日本語話 I		2		○							
日本語話 II		2		○							
履修科目	講義	言語アカデミック実践演習A	必修	1			○				
		言語アカデミック実践演習B	必修	1			○				
学部共通専門	スタディスキル	グローバルゼーション論		2	○				4単位以上選択履修		
		グローバル・エシックス		2	○						
		グローバル・ヒストリー		2	○						
		グローバル・コミュニケーション		2	○						
学部共通専門	ディベース	異文化コミュニケーション論		2	○				4単位以上選択履修		
		言語の機能		2	○						
		記号とコミュニケーション		2	○						

必修を含め28単位以上選択履修

(2024年度以降入学生)

履修ガイド

授業科目学年配当表

専門教育科目

		授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考		
学部共通科目	化科目 多元文	多元文化論A		2	○				4単位以上 選択履修	16単位以上 選択履修	
		多元文化論B		2	○						
		多元文化論C		2	○						
	プログラム 海外文化研修	海外文化研修プログラムA		16	○				2単位以上 選択履修		
		海外文化研修プログラムB ◇		4	○						
		海外文化研修プログラムC ◇		2	○						
		Special Topics in English A		2		○					
		Special Topics in English B		2		○					
		Special Topics in German		2		○					
		Special Topics in French		2		○					
	国際キャリア科目	国際キャリアデザインA		2	○				2単位以上 選択履修		
		国際キャリアデザインB		2	○						
		国際キャリアデザインC		2	○						
		国際キャリアデザインD		2	○						
		国際キャリアデザインE		2	○						
		国際キャリアデザインF		2	○						
		国際キャリアデザインG		2	○						
		社会関与プロジェクトA		2	○						
		社会関与プロジェクトB		2	○						
社会関与プロジェクトC			2	○							
社会関与プロジェクトD			2	○							
社会関与プロジェクトE			2	○							
社会関与プロジェクトF		2	○								
学部共通科目	学科基幹科目	国際教養研究基礎	必修	2	○				必修を含め 7単位以上 選択履修		
	外国語科目	ドイツ語	ドイツ語コミュニケーションⅠ		1		○			※ヨーロッパ コースはいず れか1言語5 単位必修	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ		1		○				
			ドイツ語ⅢA	※	1		○				
			ドイツ語ⅢB		1		○				
			ドイツ語ⅢC		1		○				
			ドイツ語ⅣA		1			○			
		フランス語	フランス語コミュニケーションⅠ		1		○				
			フランス語コミュニケーションⅡ		1		○				
			フランス語ⅢA	※	1		○				
			フランス語ⅢB		1		○				
			フランス語ⅢC		1		○				
			フランス語ⅣA		1			○			
		中国語	中国語コミュニケーションⅠ		1		○				※アジアコー スは5単位必 修
			中国語コミュニケーションⅡ		1		○				
			中国語ⅢA	※	1		○				
			中国語ⅢB		1		○				
			中国語ⅢC		1		○				
			中国語ⅣA		1			○			
		英語	英語文献読解(日本論)A	※	2		○				※国際日本コースは 4単位必修、かつ、 「ドイツ語コミュニ ケーションⅠ」「フ ランス語コミュニケ ーションⅠ」又は「 中国語コミュニケ ーションⅠ」からい ずれか1単位必修
			英語文献読解(日本論)B	※	2		○				
			Active English A		1		○				
	Active English B			1		○					
	English for Academic Purposes Project and Research			2			○				
	Advanced English A			1		○					
	Advanced English B			1		○					
	Advanced English C			1		○					
Advanced English D			1		○						
国際教養 専門科目	比較文学概論			2	○			4単位以上 選択履修			
	漢字文化圏概論		2	○							
	世界哲学史		2	○							
	東西交流史		2	○							

◇：履修規制単位数に含まない科目

(2024年度以降入学生)

履修ガイド

授業科目学年配当表

専門教育科目

		授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考
学科共通科目	ヨーロッパ専門科目	ヨーロッパ研究入門	※	2	○				ヨーロッパコースは※印8単位必修を含んで16単位以上選択履修	必修を含め38単位以上選択履修
		世界の中のヨーロッパ	※	2		○				
		多元文化論（ヨーロッパ）A	※	2		○				
		多元文化論（ヨーロッパ）B		2			○			
		現代ヨーロッパ社会論		2		○				
		西洋芸術論	※	2		○				
		イギリスの歴史		2		○				
		イギリス文学		2		○				
		イギリス文化論		2		○				
		現代思想論		2			○			
		ドイツの思想と文学		2			○			
		フランスの思想と文学		2			○			
		翻訳論		2			○			
	アジア専門科目	アジア研究入門	※	2	○				アジアコースは※印8単位必修を含んで16単位以上選択履修	
		アジア交流論	※	2		○				
		中国の歴史	※	2		○				
		世界の中の中国	※	2		○				
		東洋思想		2		○				
		現代中国論		2		○				
		植民帝国論		2		○				
		多元文化論（アジア）A		2			○			
		多元文化論（アジア）B		2			○			
		多言文化論（アジア）C		2			○			
		東洋文化論		2			○			
	中国文学		2			○				
	国際日本専門科目	国際日本研究入門	※	2	○				国際日本コースは※印8単位必修を含んで16単位以上選択履修	
		アジアの中の日本	※	2		○				
		世界の中の日本		2		○				
		日本の歴史		2		○				
		現代日本論		2		○				
		比較日本文学	※	2		○				
		Japanese Literature	※	2		○				
		比較芸術論		2		○				
		Minority Studies		2			○			
		クロスカルチュラルスタディーズ		2			○			
		多元文化論（日本）A		2			○			
		多元文化論（日本）B		2			○			
		多元文化論（日本）C		2			○			
		多元文化論（日本）D		2			○			
		Japanese Traditional Culture		2			○			
Japanese Contemporary Culture			2			○				
Translation Studies		2			○					
日本語実践演習A		2		○						
日本語実践演習B		2			○					
国際教養演習科目	国際教養研究A	必修	2			○				
	国際教養研究B	必修	2			○				
	卒業研究A	必修	2				○			
	卒業研究B	必修	2				○			

(2024年度以降入学生)

履修ガイド

授業科目学年配当表

1. 概要

条件を満たすことで、留学先で修得した単位を本学部の卒業単位として認定することができます。単位認定を伴う留学制度には、交換留学、派遣留学、認定留学、海外文化研修プログラムがあります。

2. 全学共通の留学プログラム

全学共通の留学プログラムには、交換留学、派遣留学、認定留学があります。各留学プログラムの詳細については、国際交流センター事務室までお問い合わせください。留学中の学修期間あるいは留学制度に応じて単位認定の上限を以下のとおりとします。「学修期間」とは、原則として留学先機関在籍期間(入学時からコース修了時まで)を指します。

交換留学、派遣留学、認定留学

12週以上24週未満：最大16単位まで

24週以上52週未満：最大30単位まで

単位認定の申請・認定方法

- ・履修時間及び履修内容が確認できる根拠資料と成績の根拠資料を指導教員まで提出すること
- ・教務課にて配付している認定願に必要な事項を記入し、教務課まで提出すること
- ・交換留学、派遣留学、認定留学で単位を修得した科目については、下記4の表に基づき単位認定を行う

3. 外国語学部の留学プログラム

学部留学には、海外文化研修プログラム A、B、C の3科目があります。

科目名	学年	単位
海外文化研修プログラム A	1年	16単位
海外文化研修プログラム B	1年	4単位
海外文化研修プログラム C	1年	2単位

海外文化研修プログラム A のみ受講した次学期に引き続き留学を行うことが可能です。引き続き留学を行う場合、留学先で単位を修得した科目については、海外文化研修プログラム A の単位数に加え、認定留学として下記4の表に基づき単位認定を行います(上限を14単位とする)。

4. 認定単位計算基準

留学制度	単位計算基準	単位認定方法
交換留学 派遣留学 認定留学	語学： 各語学科目の総時間数に対し、22.5時間につき、1単位を単位認定する。	語学学校にて修得した単位については、単位計算基準に基づき、全て自由選択として単位認定(○N)をする。学部留学にて修得した単位については、単位計算基準に基づき、講義科目は外国語学部カリキュラムから科目読替をし、語学科目は自由選択として単位認定をする。(○S、○A、○B、○C)。 科目読替をする際に、留学先で履修した科目が、外国語学部カリキュラムの複数科目分の時間数及び授業内容を満たす場合、複数科目への読替を可能とする。ただし、読替に相当する科目がない場合については自由選択として単位認定(○N)をする。
	講義： 各講義科目の総時間数に対し、11.25時間につき、1単位を科目読替により単位認定する。	「英語英米研究 A 及び B」、「国際教養研究 A 及び B」との科目読替にあたっては、学修生活指導員の許可を必要とする。 また、原則「卒業研究 A 及び B」の読替は不可とする。

1. 概要

この制度は、外国語学部の学生が入学前または入学後に受験した各種語学検定試験において、所定の級や点数を取得した学生に対し、その級または点数に基づき、外国語学部の単位として認定するものです。

2. 対象となる

語学検定試験

単位認定の対象となる語学検定試験は次のとおりです。

- ① 英語（「英検」「TOEIC L&R(IP)」「TOEFL」「IELTS」）
- ② ドイツ語（「独検」「ÖSD」「ゲーテ・ドイツ語検定試験」）
- ③ フランス語（「仏検」「DELTA/DALF」「TCF」）
- ④ 中国語（「HSK」「中検」）

3. 認定される
単位

語学検定試験の結果に基づき、下表に従って単位が認定されます。自由選択単位として認定された単位は「自由選択」に、最大12単位まで算入し、卒業要件の単位に含めることができます。なお、この制度による認定単位は履修規制単位数の44単位に含めません。

※この単位認定制度により認められる単位数は各言語あたり最大6単位までです。したがって、上表に基づきある言語で4単位認定後に同言語で6単位を申請した場合には、追加として2単位のみが付与されることになります。

この単位認定制度の2回目以降の利用に際しては、前回より上位の認定基準を満たした場合のみ追加で単位を認定します。

①英語

語学検定試験の種類	対象となる 級・点数	認定 単位数	対応授業科目
実用英語技能検定試験（英検） 〔（公財）日本英語検定協会〕	2級	2	自由選択単位
	準1級	4	
	1級	6	
Test of English for International Communication （TOEIC L&R および TOEIC L&R IP） 〔（一財）国際ビジネスコミュニケーション協会〕	550点以上	2	自由選択単位 TOEIC 500 I・II
	785点以上	4	自由選択単位 TOEIC 500 I・II TOEIC 600 I・II TOEIC 700 I・II
	945点以上	6	自由選択単位 TOEIC 500 I・II TOEIC 600 I・II TOEIC 700 I・II TOEIC 800+
Test of English as a Foreign Language(TOEFL) [Educational Testing Service]	42点以上	2	自由選択
	72点以上	4	自由選択
	95点以上	6	TOEFL iBT I・II
International English Language Testing System(IELTS) 〔（公財）日本英語検定協会〕	4.0以上	2	自由選択
	5.5以上	4	自由選択
	7.0以上	6	IELTS I・II

②ドイツ語

語学検定試験の種類	対象となる級・点数	認定単位数	対応授業科目
ドイツ語技能検定試験（独検） 〔（公財）ドイツ語学文学振興会〕	2級	4	自由選択 資格ドイツ語Ⅰ・Ⅱ
	準1級	6	自由選択 資格ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験 〔ÖSD(Österreichische Sprachdiplom Deutsch)〕	A2	2	自由選択 資格ドイツ語Ⅰ
	B1	4	自由選択 資格ドイツ語Ⅰ・Ⅱ
	B2	6	自由選択 資格ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
ゲーテ・ドイツ語検定試験 〔ゲーテ・インスティトゥート〕	A2	2	自由選択 資格ドイツ語Ⅰ
	B1	4	自由選択 資格ドイツ語Ⅰ・Ⅱ
	B2	6	自由選択 資格ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

③フランス語

語学検定試験の種類	対象となる級・点数	認定単位数	対応授業科目
実用フランス語技能検定試験（仏検） 〔（公財）フランス語教育振興協会〕	準2級	2	自由選択 資格フランス語Ⅰ
	2級	4	自由選択 資格フランス語Ⅰ・Ⅱ
	準1級	6	自由選択 資格フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
フランス語資格試験（DELFDALF） 〔フランス国民教育省〕	DELF A2	2	自由選択 資格フランス語Ⅰ
	DELF B1	4	自由選択 資格フランス語Ⅰ・Ⅱ
	DELF B2	6	自由選択 資格フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
フランス語学カテスト（TCF） 〔フランス国民教育省〕	200-299点	2	自由選択 資格フランス語Ⅰ
	300-399点	4	自由選択 資格フランス語Ⅰ・Ⅱ
	400-499点	6	自由選択 資格フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

④中国語

語学検定試験の種類	対象となる級・点数	認定単位数	対応授業科目
漢語水平考試 (HSK) [中華人民共和国 教育部]	4 級	2	自由選択 資格中国語 I
	5 級	4	自由選択 資格中国語 I ・ II
	6 級	6	自由選択 資格中国語 I ・ II ・ III
中国語検定試験 [(一財) 日本中国語検定協会]	3 級	2	自由選択 資格中国語 I
	2 級	4	自由選択 資格中国語 I ・ II
	準 1 級、 1 級	6	自由選択 資格中国語 I ・ II ・ III

1. 履修プログラムとは

外国語学部では、キャリアを意識した学びの修得を可視化するために4つの履修プログラムコースを設定しています。

各プログラムに制約はありませんので、希望をすれば4つのプログラムを履修することも可能です。各プログラムの到達目標については、次の表をご覧ください。

履修プログラム	各プログラムの到達目標
(1) 国際ビジネス履修プログラム	ビジネスの基礎を身に付けると同時に、グローバル社会への理解を深め、将来グローバル・ビジネスの場での活躍を目指す能力を育成する。
(2) デジタル・コンテンツ履修プログラム	国際社会のスタンダードとなりつつあるAI、データの知識を獲得し、情報ビジネスのキャリア・パスに役立てる。
(3) All English履修プログラム	英語による一連の専門科目を修得し、グローバル・ビジネスの場でリーダーシップを取ることができる高度な英語運用能力の獲得を目指す。
(4) エアライン履修プログラム	様々な言語と文化が交差する航空業界で働くための知識と技能を身に付け、キャリアに結びつける。

「国際ビジネス履修プログラム」「デジタル・コンテンツ履修プログラム」は、外国語学部の科目と、他学部の科目で構成しており、それぞれ独自の領域の学びを習得することができます。一方、「All English履修プログラム」「エアライン履修プログラム」は外国語学部内のプログラムです。「All English履修プログラム」は、海外で働くことも可能になるレベルの英語による一連の専門科目の履修、「エアライン履修プログラム」は航空業界で働くための実践的な科目の履修を目的とします。在学中に下記修了要件を満たした学生には、学位記と合わせて、履修プログラム名が記載された「修了証明書」が授与されます。

※他学部の科目については、必修科目との重複や他学部の履修状況により、下表に記載された学年のとおり履修できない場合があります。(時間割の配慮はしません)

2. ガイダンス

1年次4月(日程は掲示で通知)に実施します。

3. 履修プログラムカリキュラム表

(1) 国際ビジネス履修プログラム

科目開講学部	科目名	学年	単位	修了要件	
外国語学部	グローバルイゼーション論	2	2	2科目 4単位 選択必修	5科目 10単位以上 選択履修
	異文化コミュニケーション論	2	2		
	国際関係論A	2	2		
	国際関係論B	2	2		
現代マネジメント学部	財政入門	2	2		
	国際機構論	3	2		
	経営組織論A	2	2		

(2) デジタル・コンテンツ履修プログラム

科目開講学部	科目名	学年	単位	修了要件	
外国語学部	ジェンダーとメディアコミュニケーション A	2	2	3 科目 6 単位 選択必修	5 科目 10 単位以上 選択履修
	英米メディア文化論	2	2		
情報社会学部	デジタルメディア基礎 (4)	2	2		
	動画制作	2	2		
	グラフィックデザイン応用	2	2		
	メディアリテラシー	2	2		
	メディア・コンテンツ分析	2	2		

(3) All English 履修プログラム

科目開講学部	科目名	学年	単位	修了要件	
外国語学部	Special Topics in English A	2	2	10 科目 20 単位以上 選択履修	
	Special Topics in English B	2	2		
	Global Studies	2	2		
	Introduction to Intercultural Communication Studies	2	2		
	Introduction to Linguistics	2	2		
	English for Tourism	2	2		
	Communication in Business	2	2		
	Gender Dimension in Media and Communication Studies	2	2		
	Introduction to English Literature	2	2		
	Introduction to Social and Cultural Studies	2	2		
	Japanese Literature	2	2		
	Minority Studies	2	2		
	Translation Studies	3	2		
	Japanese Traditional Culture	3	2		
	Japanese Contemporary Culture	3	2		
	Intercultural Communication Studies	3	2		
Linguistics	3	2			
English Literature	3	2			

(4) エアライン履修プログラム

科目開講学部	科目名	学年	単位	修了要件	
外国語学部	国際キャリアデザイン A	1	2	5 科目 10 単位以上 選択履修	
	国際キャリアデザイン B	1	2		
	国際キャリアデザイン E	1	2		
	国際キャリアデザイン F	1	2		
	社会関与プロジェクト A	1	2		
	社会関与プロジェクト B	1	2		
	異文化コミュニケーション論	1	2		
	English for Tourism	2	2		
	Communication in Business	2	2		

1. 教職課程とは

大学、高専を除くすべての国公私立の学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）の教員になるためには、常勤、非常勤を問わず教育職員免許状の取得が必要です。

教育職員免許状を取得するには、「教育職員免許法」「教育職員免許法施行規則」等の法令に基づき、文部科学大臣の認定を受けた大学等の課程において所定の単位を修得しなければなりません。

本学では各学部・学科において、以下の免許・教科の教職課程を開設しています。

学部	学科	認定を受けている免許種・教科		
生活科学部	管理栄養学科	中一種(家庭)	高一種(家庭)	栄教一種
	生活環境デザイン学科	中一種(家庭)	高一種(家庭)	
外国語学部	英語英米学科	中一種(英語)	高一種(英語)	
人間関係学部	人間共生学科	中一種(社会)	高一種(公民)	
	心理学科	高一種(公民)		
情報社会学部	情報デザイン学科	高一種(情報)		
	現代社会学科	中一種(社会)	高一種(地歴)	
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	中一種(社会)	高一種(公民)	高一種(商業)
教育学部	子ども発達学科	幼一種	小一種	中一種(国語)
		中一種(数学)	中一種(音楽)	高一種(国語)
		高一種(数学)	高一種(音楽)	特支一種 ※
看護学部	看護学科	養教一種		

(2024年度以降入学生適用)

※取得可能な領域：知的障害者、肢体不自由者、病弱者（身体虚弱者を含む。）

2. 教員養成の方針

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（2021年1月26日／中央教育審議会答申）において、「令和の日本型学校教育」を担う教師及び教職員集団の姿が次のとおり示されました。

- ・変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続ける
- ・子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たす
- ・子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている
- ・多様な人材の教育界内外からの確保や、教師の資質・能力の向上により、質の高い教職員集団を実現する
- ・多様な外部人材や専門スタッフ等とがチームとして力を発揮する
- ・教師が創造的で魅力ある仕事であることが再認識され、教師自身も志気を高め、誇りを持って働くことができる

このような教師像は、換言すれば、教師としての専門的能力を有することに加え、自身を高め続けられる向上心、他者と協働するコミュニケーション能力、変化の激しい時代に適応する問題発見・課題解決能力を有する教師と言えます。

本学では、教育理念「人間になろう」を踏まえ、これらの能力をあわせもった教員——つまり、高い専門性と豊かな人間性、優れた人格を兼ね備えた教員の養成を目指します。

3. 教職課程履修上の諸注意

〈心構え〉

教職課程を履修する上で最も大切なことは、将来教師になるという明確な目標と自覚を持ち、常日頃から教師としてふさわしい態度や行動を心がけることです。教師の資質や能力は教職課程に関わる科目の履修のみならず、様々な経験や体験、日頃の行動などによっても養われます。授業で学んだことを児童・生徒にどのように指導するのか、また、自らの経験や体験を教師としてどう活かしていくのかといった視点を常に持ちながら学生生活を送るよう心がけてください。

〈履修計画〉

本学の教職課程は、1年次から4年次までの4年間を基本としたカリキュラム構成となっています。したがって、原則として1年次から履修を開始し、必要な科目を学年配当に沿って4年間をかけて段階的・計画的に履修していく必要があります。例えば2年次以降から履修を開始した場合や、留学や休学などで履修を一時中断した場合は、4年次で卒業するまでの間に履修を終えることが困難になる場合がありますので注意が必要です。

〈各種手続等について〉

教職課程履修者は教職課程に関するガイダンス等の諸行事には必ず出席するとともに、大学が定めた所定の手続（教育実習・介護等体験の申し込みなど）を行わなければなりません。諸行事への遅刻・無断欠席や所定期日内の手続未了の場合は、その参加を辞退していただく場合がありますので注意してください。

4. 教職課程登録手続

1年次4月に実施される教職課程登録ガイダンスに参加し、所定の期間内に教職課程履修費の納入等、所定の手続を行ってください。

また、1年次前期の履修登録期間にS*mapの履修登録画面から、取得を希望する免許の仮申請を行ってください。

5. 教職課程で必要となる費用

教職課程の履修にあたっては主に以下の費用が必要となります。

〈教職課程履修費〉

課程の種類	金額	納入時期
中学校、高等学校の課程	14,000円	1年次4月

〈実習費等〉

実習等の種類	金額	納入時期
介護等体験	8,500円	3年次4月
教育実習	実習先指定額	実習時

〈教育職員免許状発行手数料〉

費用の種類	金額	納入時期
教育職員免許状発行手数料（1免許につき）	3,400円	4年次11月

※上記の発行手数料は愛知県教育委員会への支払いとなります。

6. 教育職員免許状取得に必要な基礎資格と単位数

教育職員免許状を取得するためには、以下の基礎資格を有し、各科目の最低修得単位数を満たす必要があります。ただし、以下の表に記載されている単位数は法令上の最低修得単位数です。実際のカリキュラムでは最低修得単位数以上の単位数修得が必要な場合がありますので注意してください。

免許状の種類		中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状			
基礎資格		学士の学位を有すること				
法令上の最低修得単位数	① 「教科及び教科の指導法に関する科目」	28	24			
	② 「教育の基礎的理解に関する科目」 「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 「教育実践に関する科目」	27	23			
				③ 「大学が独自に設定する科目」	4	12
				④ その他の必修科目	8	8

7. 介護等体験

《概要と趣旨》

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等による法律」（介護等体験特例法）により、小学校教諭、中学校教諭の免許状を取得するためには、原則として3年次に社会福祉施設および特別支援学校等において7日間以上の「介護等体験」が必要となります。

介護等体験特例法制定の趣旨は次のとおりです。

「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる措置を講ずるため、小学校及び中学校の教諭の普通免許状の授与について教育職員免許法の特例等を定めるものであること。」

介護等体験は、教員を目指すものが、高齢者や障害者に対する介護等の体験を自らの体験として持つとともに、この体験を今後の教育活動に生かしていくことによって、人の心の痛みが分かる人づくり、個人の価値観の相違を認められる心を持った人づくりを実現することを願って行われるものです。

《体験内容》

障害者、高齢者に対する介護、介助（作業補助や食事介助、排泄介助など）のほか、障害者、高齢者との話し相手、散歩の付き添い等の交流体験、あるいは掃除や洗濯などの施設職員の業務補助など幅広い内容が想定されますが、体験先の施設種別は様々であるため、体験内容も施設等により大きく異なります。

《介護等体験の参加資格》

- ① 将来教員を志望する者
- ② 健康で教員としての適格性を有する者
- ③ 特別支援教育に対する理解があり、障害者に対する配慮のできる者

《体験施設・期間等》

介護等体験は3年次8月～1月の期間に、社会福祉施設（児童養護施設、障害者支援施設、老人ホーム、老人デイサービスセンター等）で5日間、特別支援学校（盲・聾・養護学校）で2日間の体験を行います。

なお、体験先施設、体験期間については社会福祉協議会等からの割り当てとなりますので、特定の施設・学校を体験先として指定することや、体験期間を指定することはできません。

《介護等体験に参加する上での心構え》

まずは小学校・中学校教諭の免許状取得のために介護等体験が義務付けられている趣旨を十分理解することが重要です。体験期間は7日間と短いため、目的意識を持って体験に参加しないと何も得られないまま体験を終えることになってしまいます。自分なりの目標を立てて体験に臨んでください。

また、施設等の利用者には抵抗力の弱い方もいらっしゃいますので、体験中はもちろん、体験前においても体調管理には十分注意してください。

《履修登録》

本学では介護等体験を「大学が独自に設定する科目」の単位として認定しています。介護等体験に参加する学生は、体験実施年度の前期に授業科目「介護等体験」（1単位）を必ず履修登録してください。

8. 教育実習

「教育実習」は教育職員免許状取得のための必修科目です。教育実習は学内で行われる授業とは異なり、実際の学校現場において現場の教師と同様に勤務しながら教育活動の重要な領域を行動的に経験し、教職についての認識を深め、自己の教職への適性を把握する重要な機会となります。

教育実習の目的は、教育者としての基本的な態度・技能を身に付けることにあります。具体的には、観察・参加・実習等を通じて教育者としての実地修練を行うことにより、教育についての理解を深め、指導技術を体得するとともに、教育に携わる者としての自覚と熱意を高め、優秀な教育者として活動し得る素地を養うことにあります。

これらの目的は短期間の実習のみで達成できるものではありません。日頃から、将来教師になる者としての自覚を持ち、教育実習に耐え得る健康を保持するなど、教師としての資質向上に努めてください。

《教育実習の履修要件》

- ① 将来教職に就く意思を有し、都道府県及び政令指定都市教育委員会が実施する教員採用試験を必ず受験すること。
- ② 3年次終了までに以下の単位を履修済みであることを原則とする。
 - ・「教養教育科目」の必要最低単位数をすべて履修済みであること。
 - ・「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」を履修し、かつその成績が良好であること。

・「教科の指導法Ⅰ・Ⅱ」が履修済みであること。

※中学校の免許を希望する場合は「教科の指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」が履修済みであること。

③「事前及び事後指導」を履修すること。

④教職課程履修上の各種手続を遅滞なく済ませていること。

＜必要実習期間と履修登録科目＞

教育実習の履修登録は、取得する免許・実習期間に応じ、4年次前期に以下のとおり登録してください。

ただし、教育実習の事前指導は3年次から始まりますので、「事前及び事後指導（1単位）」は3年次前期にも履修登録をしてください。（単位認定は事後指導後、4年次後期に行われます。）

取得予定免許	必要実習期間	履修登録科目
中一種免のみ	中学校で3週間以上	事前及び事後指導（1単位） 教育実習（4単位）
中一種免・高一種免	中学校または高等学校で3週間以上	
	高等学校で2週間＋ 相小・中・高のいずれかで1週間	
高一種免のみ	高等学校で2週間以上	事前及び事後指導（1単位） 教育実習A（2単位）

（2011年度以降入学生適用）

※上記の実習パターンに該当しない場合は、パターンによって履修登録科目が変わりますので、必ず教務課の窓口で履修指導を受けてから履修登録してください。

＜履修カルテとは＞

教育職員免許法施行規則の改正に伴い、2010年度入学生から「教職実践演習」が必修化されました。「教職実践演習」は、教職課程における授業科目の履修や教職課程内外での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が求める教員像や到達目標に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられるものです。

履修カルテは、教職課程を履修する学生が、授業や課外活動などの面において、どのように4年間を過ごしてきたのかを記録することで、学生それぞれの優れている点や不足している点などを把握し、4年次後期に開講される「教職実践演習」で活用するために導入されたものです。ただし、履修カルテは、大学側が学生それぞれの状況を把握し授業に活用することのみを目的としたものではなく、学生自身が自らの学修等を振り返り、自分自身を成長させていくためのツールとして積極的に活用することも必要です。履修カルテの作成や教職実践演習の履修を通じて、将来、教員になる上で何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されています。

9. 履修カルテ 教職実践演習

◀履修カルテ作成項目▶

履修カルテは以下の項目について作成します。

①	教員免許取得に係る以下の科目の“ふりかえり” ●教科及び教科の指導法に関する科目 ●教育の基礎的理解に関する科目 ●道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ●教育実践に関する科目 ●大学が独自に設定する科目 ●その他の必修科目
②	学外活動に関する“ふりかえり” 【対象となる主な学外活動】 ●教育実習 ●介護等体験（参加者は入力必須） ●ボランティア活動 ●その他教員としてプラスになる活動
③	資質能力についての自己評価

◀履修カルテ作成時期▶

	前 期	後 期
学生による履修カルテWeb入力期間	前期合否発表開始日～指定日	後期合否発表開始日～指定日
Web入力対象項目	●前期開講科目 ●前期中に行った学外活動	●後期・通年開講科目 ●後期中に行った学外活動 ●資質能力についての自己評価

◀教職実践演習の履修要件▶

4年次後期に開講される教職実践演習は、教育実習と同じく履修要件を定めています。次の要件を満たさない学生は教職実践演習を受けることができませんので注意してください。

履修要件

主たる教員免許状の取得に必要な教育実習を修了し、「教育実習」と「事前及び事後指導」の単位取得見込みであること。

10. 教職課程における主なスケジュール

学年	時期	ガイダンス・手続等		
		全般	介護等体験関係	教育実習関係
1年次	4月上旬	教職課程登録ガイダンス		
	4月上旬	教職課程履修費納入 履修登録届の提出		
	7月中旬	履修カルテ作成ガイダンス		
2年次	10月中旬		第1回介護等体験ガイダンス (介護等体験登録)	
3年次	4月上旬		第2回介護等体験ガイダンス (介護等体験費用納入)	
	4月中旬			教育実習内諾依頼ガイダンス
	4月中旬～			教育実習依頼手続開始
	6月下旬		第3回介護等体験ガイダンス	
	7月上旬		介護等体験講習会 (土曜日午後を実施)	
	7月下旬		第4回介護等体験ガイダンス	
	8月～		介護等体験開始 (日程は施設により異なる)	
	体験終了後		介護等体験レポート提出	
	12月中旬			教育実習承認申請ガイダンス
	1月中旬			教育実習連絡ガイダンス (愛公小中・名市小中実習生のみ)
4年次	4月中旬			教育実習事前ガイダンス
	4～5月			教育実習事前打合せ会 (実習校において実施)
	5～6月			教育実習 (日程は実習先により異なる)
	実習終了後			教育実習記録提出
	6～7月	教員採用試験 (日程は受験地により異なる)		
	11月下旬	教育職員免許状一括 申請ガイダンス		
	3月卒業式	教育職員免許状の交付		

※スケジュールは現在の予定です。詳細はS*mapのジャーナル、掲示、ガイダンス等で随時案内します。

11. 教職課程カリキュラム表

① 教科及び教科の指導法に関する科目

「教科及び教科の指導法に関する科目」は、その教科の専門的知識、指導法等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により教科ごとに修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学部の科目が配置されています。網掛けの授業科目は、その科目区分における「一般的包括的な内容を含む科目」（各科目区分において修得すべき内容を網羅的に取り扱う科目）であり、免許取得要件上、必修又は選択必修として設定されています。

履修にあたっては、必修及び選択必修の要件を満たした上で、法定最低修得単位（中一種 28 単位以上、高一種 24 単位以上）を修得する必要があります。

英語英米学科

中学校教諭一種免許状（英語）・高等学校教諭一種免許状（英語）

免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位数 ※1			本学の開設授業科目	単位数 ※2		備考
科目区分	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目（中一種 28 単位以上、高一種 24 単位以上）	英語学	1	Introduction to Linguistics		2	1 科目以上 選択必修
			Linguistics		2	
			翻訳A		2	
			翻訳B		2	
			応用言語学		2	
	英語文学	1	世界の英語文学		2	1 科目以上 選択必修
			Introduction to English Literature		2	
			北米文学		2	
			イギリス文学		2	
			英語女性文学		2	
			英語マイノリティ文学		2	
			English Literature		2	
	Gender and Literature		2			
	英語コミュニケーション	1	Communicative English IA		1	※から 1 科目以上 選択必修
			Communicative English IB		1	
			Communicative English IC		1	
			Communicative English ID		1	
			Communicative English IE		1	
			Communicative English IIA		1	
			Communicative English IIB		1	
			Communicative English IIC		1	
			Communicative English IID		1	
			Communicative English IIE		1	
			異文化コミュニケーション論		2	
			Academic English IA		1	
			Academic English IB		1	
			Academic English IC		1	

教科に関する専門的事項

20 単位以上修得

資格関係

教職課程

免許法施行規則に定める科目 区分及び最低修得単位数 ※1			本学の開設授業科目	単位数 ※2		備考	
科目 区分	各科目に含める 必要事項	単位数		必修	選択		
教科及び教科の指導法に関する科目（中一種28単位以上、高一種24単位以上）	教科に関する専門的事項 英語コミュニケーション	1	Academic English II A		1		
			Academic English II B		1		
			Academic English II C		1		
			言語コミュニケーション論		2		
			非言語コミュニケーション論		2		
			通訳A		2		
			通訳B		2		
			Communication in Business		2		
			Translation Studies		2		
	異文化理解	1	異文化理解		2		1科目以上 選択必修
			Introduction to Social and Cultural Studies		2		
			グローバリゼーション論		2		
			英語圏近現代史		2		
			異文化トレーニング		2		
			異文化適応論		2		
イギリス文化論				2			
アメリカ映画論		2					
イギリスの歴史		2					
北米社会論		2					
各教科の指導法 (情報通信技術の 活用を含む。)	中8 高4	英語科の指導法Ⅰ		(2)	中一種はⅠ～Ⅳの 8単位必修 高一種はⅠ～Ⅱの 4単位必修 ※3		
		英語科の指導法Ⅱ		(2)			
		英語科の指導法Ⅲ		(2)			
		英語科の指導法Ⅳ		(2)			

(2024年度以降入学生適用)

科目名 …一般的包括的な内容を含む科目

- ※1 「教科及び教科の指導法に関する科目」の法定最低修得単位数は、中一種28単位、高一種24単位である。
法定最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」中一種4単位、高一種12単位に算入することができる。
- ※2 単位数に（ ）のついている科目は、資格専門科目であるため、卒業単位には算入できない。
- ※3 「英語科の指導法Ⅰ・Ⅱ」の配当年次は2年次、「英語科の指導法Ⅲ・Ⅳ」の配当年次は3年次である。

②教育の基礎的
理解に関する
科目等

「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」は、教師として求められる要素や知識等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学の科目が配置されています。

履修にあたっては、各免許における必修及び選択必修等の要件を満たした上で、法定最低修得単位(中一種 27 単位以上、高一種 23 単位以上)を修得する必要があります。

英語英米学科

中学校教諭一種免許状(英語)・高等学校教諭一種免許状(英語)

免許法施行規則に定める 科目区分及び最低修得単位数 ※		本学の開設授業科目 (◎印：必修、○印：選択必修)				備考		
科目 区分	各科目に含める必要事項	単 位 数	中	高	授 業 科 目		単 位 数	配 当 年 次
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	◎	◎	教育本質論	2	1	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		◎	◎	教職論	2	1	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		◎	◎	教育制度と社会	2	1	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		◎	◎	発達と学習	2	1	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		◎	◎	特別支援教育	2	1	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		◎	◎	カリキュラム論	2	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	◎	×	道徳の理論及び指導法	2	2	中一種のみ 適用(注)
	中：総合的な学習の時間の指導法 高：総合的な探究の時間の指導法		◎	◎	総合的な学習の時間の指導法	1	2	
	特別活動の指導法		◎	◎	特別活動の指導法	1	2	
	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		◎	◎	教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	2	2	
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		◎	◎	生徒指導と進路指導	2	3	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		◎	◎	教育相談	2	3	
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	◎	◎	事前及び事後指導	1	3・4	中一種4単位以上 高一種2単位以上 選択必修
	教職実践演習		◎	◎	教育実習	4	4	
			◎	◎	教育実習 A	2	4	
			◎	◎	教育実習 B	2	4	
			◎	◎	教職実践演習(中・高)	2	4	

(2024 年度以降入学生適用)

※ 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」の法定最低修得単位数は、中一種 27 単位、高一種 23 単位である。それに対し、上記の表より必修科目を含めた実際の最低修得単位数は、中一種 29 単位、高一種 25 単位となる。

法定最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」中一種 4 単位、高一種 12 単位に算入することができる。

(注) 「道徳の理論及び指導法」について

「道徳の理論及び指導法」の科目区分は、中学校教諭免許状にのみ必要とされる条件なので、授業科目「道徳の理論及び指導法」を修得した場合、中学校教諭免許状については「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に算入できるが、高等学校教諭免許状については算入できない。ただし、「大学が独自に設定する科目」に算入することができる。

「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の他学部・他学科履修について

「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の履修にあたっては、所属する学部・学科において同一時限に履修を希望する他の科目がある場合に限り、他学部・他学科(教育学部を除く。)で開講される同一名称の科目を履修することができる。

通常の履修登録方法とは異なるので、他学部・他学科での履修を希望する学生は教務課まで相談に来てください。

③大学が独自に
設定する科目

「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」のうち、最低修得単位数を超えて修得した単位数及び所定の「大学が独自に設定する科目」の単位数を合わせて、中一種4単位以上、高一種12単位以上修得しなければなりません。

英語英米学科

中学校教諭一種免許状(英語)・高等学校教諭一種免許状(英語)

免許法施行規則に定める 科目区分及び 最低修得単位数	本学の開設授業科目	単位数	備考
大学が独自に 設定する科目 中一種4単位以上 高一種12単位以上	介護等体験	1	中一種必修
	道徳の理論及び指導法	2	高一種のみ適用
	Special Topics in English A	2	中・高一種ともに 選択
	Special Topics in English B	2	
	English for Tourism	2	
	学校体験活動Ⅰ	1	
	学校体験活動Ⅱ	1	
最低修得単位数(中一種28単位、高一種24単位)を超えて修得した ①「教科及び教科の指導法に関する科目」			
最低修得単位数(中一種27単位、高一種23単位)を超えて修得した ②「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間 等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実 践に関する科目」			

(2024年度以降入学生適用)

④その他の必修
科目

教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目であり、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」の科目区分について、各 2 単位以上修得する必要があります。

英語英米学科

中学校教諭一種免許状（英語）・高等学校教諭一種免許状（英語）

免許法施行規則に定める 科目区分及び最低修得単位数		本学の開設授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		
体育	2	健康とスポーツの理論		2	} 1 科目以上 選択必修
		スポーツ文化論		2	
		スポーツ実習A		1	} 1 科目以上 選択必修
		スポーツ実習B		1	
外国語コミュニケー ション	2	外国語（英語A）		1	} 2 科目以上 選択必修
		外国語（英語B）		1	
		外国語（英語C）		1	
		外国語（英語D）		1	
		外国語（ドイツ語I）		1	
		外国語（ドイツ語II）		1	
		外国語（フランス語I）		1	
		外国語（フランス語II）		1	
		外国語（中国語I）		1	
		外国語（中国語II）		1	
		外国語（ポルトガル語I）		1	
		外国語（ポルトガル語II）		1	
		外国語（スペイン語I）		1	
		外国語（スペイン語II）		1	
		外国語（ハングルI）		1	
		外国語（ハングルII）		1	
		Communicative English IA		1	
		Communicative English IB		1	
		Communicative English IC		1	
		Communicative English ID		1	
Communicative English IE		1			
Communicative English IIA		1			
Communicative English IIB		1			
Communicative English IIC		1			
Communicative English IID		1			
Communicative English IIE		1			
数理、データ活用及び人工知能に 関する科目又は情報機器の操作	2	コンピュータと情報I	2		
		コンピュータと情報II		2	

(2024 年度以降入学生適用)

資格関係

教職課程

1. 学芸員とは

学芸員は、「博物館法」に定められた、博物館に置かれる専門職員です。その職務については、博物館資料の収集・整理、保管・保存、展示・活用および調査研究、その他教育普及活動等、博物館資料と関連する事業と定められています。

近年、各地に多種多様な博物館および博物館相当施設（国・公・私立）が設けられつつあり、有能な社会教育専門職員としての学芸員が求められています。
2. 学芸員資格取得について
 - ①博物館法第5条第1項第1号「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」に基づき、学則第24条の2により、学芸員資格修得に関する科目を設けています。
 - ②本学において学芸員資格を取得しようとする者は、学則別表第8に規定する科目を履修し、単位を修得しなければなりません。所定の単位を修得した者に対して、卒業時に「学芸員資格証明書」を交付します。
 - ③科目履修にあたっては、1年次後期に実施されるガイダンスを受け、履修費を2年次4月の指定期日までに納入し、履修登録をしなければなりません。
 - ④2年次後期以降の履修登録希望者は、至急教務課に相談してください。
3. 「博物館実習」
 - ①学芸員資格を得るために必要な科目の単位修得見込者で、博物館からの実習許可を得た者を対象に「博物館実習」を実施します。
 - ②「博物館実習」は、「博物館概論」「博物館資料論」「博物館経営論」の授業内容を基礎として体系的に行うので、以上の科目を3年次までに履修した学生を対象とします。
 - ③「博物館実習」では、学内実習（見学実習、実務実習、事前・事後指導）と館園実習を行います。実習先は県内の博物館のほか、他県でも行うことがあります（交通費・宿泊費などは個人負担となります）。実習を無断で欠席した場合は、原則として失格とします。
 - ④学内実習のうち、実務実習と事前・事後指導は、原則として、火曜日3・4時限に実施します。他の授業と重複しないように注意してください。また実務実習においては、毎回レポート課題があります。
4. ガイダンス

1年次後期（日程は別途通知）に実施します。履修希望者は必ずガイダンスに参加すること。
5. 履修費

25,000円（2年次前期履修登録時期に納入）
6. 編入学生の学芸員資格取得について

他大学または短期大学からの編入学生で、学芸員資格取得を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。

※4月にガイダンスを受け、履修費を指定期日までに納入する必要があります。

7. 学芸員資格 (学則別表第8)

取得に関する
科目

学芸員資格取得に関する科目	法令上の科目		本学開講授業科目				備考	
	系列	単位数	科目名	単位数		開講年次		
				必修	選択			
学芸員資格取得に関する科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論		2	2-4	資格専門 1科目以上 選択必修	
				生涯学習各論		2		2-4
				生涯学習論		2		2-4
	博物館概論	2	必修 9系列 19単位	博物館概論	2		2・3	資格専門
				博物館経営論	2		2・3	資格専門
				博物館資料論	2		2・3	資格専門
				博物館資料保存論	2		2-4	資格専門
				博物館展示論	2		2-4	資格専門
				博物館教育論	2		2-4	資格専門
				博物館情報・メディア論	2		2-4	資格専門
博物館実習	3			4	資格専門			

(2024年度以降入学生適用)

※備考欄に「資格専門」と記載がある科目については、履修規制単位数及びGPA算出には含みません。

1. 日本語教員課程とは

日本語教員とは、日本語を母語としない人（主として外国人）に、日本語を教える資格（能力）を有する者のことを言います。

この資格（能力）を有すると、日本国内の大学、民間の日本語学校等の日本語教育機関、特別の外国人に特定された教育機関・施設（技術研修生、外国人子弟等対象）等の日本語教員となったり、さらに国際交流基金による海外の日本語教育機関への日本語教育専門家としての派遣などの活躍が期待されます。

近年、日本語を学ぶ外国人が急増するに伴って有能な日本語教員の需要が増え、日本語教員養成の重要性が一層高まってきています。そこで、本学部では日本語教員課程を開設しています。

「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」（2023年6月2日公布／2024年4月1日施行）により、認定日本語教育機関の教員の資格（登録日本語教員）が新たに創設されました。登録日本語教員の資格を取得するためには、登録日本語教員養成機関の課程及び登録実践研修機関の実践研修を修了し、日本語教員試験に合格する必要があります。本学としては、今後、登録日本語教員養成機関及び登録実践研修機関としての申請を行う予定です。

2024年度以前入学生が登録日本教員の資格を取得するためには、修了した日本語教員課程によって異なる経過措置ルートに沿って、講習や試験を受ける必要があります（日本語教員としての勤務経験が必要になる場合もあります）。
2. 本学の日本語教員課程

学則第24条の3に定める本学の日本語教員課程（2024年度以降入学生適用）は、「日本語教育のための教員養成について」（平成12年3月30日／日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議）で示された5区分に対応した内容となっています。

本学の日本語教員課程を履修しようとする者は、1年次に履修費を指定期日までに納入し、履修登録をしなければなりません（ただし、2年次転学部生は2年次に登録、3年次転学部・編入学生は3年次に登録）。

学則第24条の3及び別表第8-2により所定の単位を修得した者に対して、日本語教員課程を修了したことを本学が証明する「日本語教員課程修了証明書」を交付します。
3. ガイダンス

1年次4月に実施します。ガイダンスに出席しない者は、原則履修できません。
4. 履修費

15,000円（1年次前期履修登録時期に納入）

5. 日本語教員資格取得に関する科目

(学則別表第8-2)

区分※1	授業科目	単位数	必修単位数	開講年次	開講学部・学科 ※2	科目の位置づけ		備考 (最低修得単位数)
						英語英米学科	国際教養学科	
社会・文化・地域	日本語の歴史A	2		3	教育学部	資格専門	資格専門	2科目 4単位以上 選択履修
	日本語の歴史B	2		3	教育学部	資格専門	資格専門	
	グローバル化論	2		1	外国語学部(両学科)	専門教育	専門教育	
	Introduction to Social and Cultural Studies	2		2	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	
言語と社会	方言論	2		3	教育学部	資格専門	資格専門	2科目 4単位以上 選択履修
	社会言語学	2		2	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	
	記号とコミュニケーション	2		1	外国語学部(両学科)	専門教育	専門教育	
	異文化コミュニケーション論	2		1	外国語学部(両学科)	専門教育	専門教育	
言語と心理	談話研究法	2		3	教育学部	資格専門	資格専門	2科目 4単位以上 選択履修
	心理	2		1	教養教育科目	教養	教養	
	応用言語学	2		2	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	
	言語コミュニケーション論	2		2	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	
	非言語コミュニケーション論	2		2	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	
	レトリカル・コミュニケーション論	2		3	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	
	第二言語習得論	2		2	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	
	異文化理解	2		2	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	
	異文化適応論	2		2	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	
異文化トレーニング	2		2	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門		
言語と教育	日本語教材・教具研究A	2	2	1	教育学部	資格専門	資格専門	7科目 12単位 必修
	日本語教材・教具研究B	2	2	1	教育学部	資格専門	資格専門	
	日本語教育方法論A	2	2	1	教育学部	資格専門	資格専門	
	日本語教育方法論B	2	2	1	教育学部	資格専門	資格専門	
	日本語教育実践論	2	2	2	教育学部	資格専門	資格専門	
	日本語教授法演習	1	1	2	教育学部	資格専門	資格専門	
	日本語教員教育実習	1	1	3	教育学部	資格専門	資格専門	
言語	日本語文法A	2	2	2	教育学部	資格専門	資格専門	必修を含め 5科目 10単位 以上 選択履修
	日本語文法B	2	2	2	教育学部	資格専門	資格専門	
	日本語学概論A	2		1	教育学部	資格専門	資格専門	
	日本語学概論B	2		1	教育学部	資格専門	資格専門	
	言語	2		1	教養教育科目	教養	教養	
	言語の機能	2		1	外国語学部(両学科)	専門教育	専門教育	
	認知言語学	2		2	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	
	理論言語学	2		3	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	
	Introduction to Linguistics	2		2	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	
	Linguistics	2		3	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	
	Introduction to Intercultural Communication Studies	2		2	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	
	Intercultural Communication Studies	2		3	外国語学部(英語英米学科)	専門教育	資格専門	

課程修了要件：必修単位数を含め、合計34単位以上履修すること。

(2024年度以降入学生適用)

※1 「日本語教育のための教員養成について」(平成12年3月30日/日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議)に示された5区分

※2 どの開講学部の科目も履修可能です。ただし、他学部・他学科で開講される科目は、資格専門となります。

資格関係

日本語教員

1. 司書資格とは

「司書」は、図書館の専門的職務に従事するために必要な資格として、図書館法によって規定されています。図書館法とは、地方公共団体によって設置された、いわゆる公立図書館の運営に関して必要な事項を定める法律です。図書館における専門的職務としては、図書館資料の収集、組織化、保持、そして貸出・閲覧サービスやレファレンス情報サービスなどがあげられます。図書館職員が、これらの図書館サービスを十分に展開するにあたって、司書の資格は重要な要件であると考えられています。

司書の資格が図書館法によって規定されているということは、基本的には司書の資格は公立図書館職員の専門資格であるということです。しかしながら、大学図書館、学校図書館、専門図書館や企業の情報資料室、さらに国立国会図書館の職員採用においても、司書資格を重視しているところが少なくありません。館種を問わず、図書館で働く専門職員の資格要件として、司書は、一定の社会的評価を得ていると言えます。
2. 司書資格を取得するには

図書館法第5条、第6条には、大学卒程度の教養および、図書館についての専門教育を修得することによって、司書の資格が得られることが規定されています。履修すべき科目、単位、その他必要な事項は、図書館法施行規則によって定められています。これらの規定に基づき、本学部では、卒業に必要な科目単位数のほかに、司書課程を履修して、学則別表第8-4に掲げられた所定の科目の単位を修得することによって、司書の資格が取得できます。
3. 司書になるには

図書館で司書として実際に働くためには、館種を問わず、目的とする図書館の職員採用試験を受ける必要があります。代表的な例としては、公立図書館に勤務するための都道府県、市町村の職員採用試験、国立大学図書館に勤務するための国立大学法人等職員採用試験および国立国会図書館職員採用試験などがあげられます。このほかにも、企業の情報資料室や私立大学図書館に勤務するための一般的な就職試験など、さまざまなルートがあります。

司書として図書館で働く以外にも、書店、出版社、取次店など、書物の出版流通に携わる職業への道が開かれています。
4. ガイダンス

1年次10月下旬(日程は掲示で通知)に実施します。ガイダンスに出席しない者は、履修できない場合があるので注意してください。
5. 履修費

20,000円(2年次前期履修登録時期に納入)
6. 編入学生の司書課程履修について

他大学または短期大学からの3年次編入学生で、司書課程の履修を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。

7. 司書資格取得に関する科目（学則別表第8-4）

司書資格取得に関する科目	図書館法施行規則 第1条に定める科目		本学開講授業科目				備考
	科目名	単位数	科目名	単位数		開講年次	
				必修	選択		
22 単位 必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2		2	資格専門
	図書館概論	2	図書館概論	2		2	資格専門
	図書館制度・経営論	2	生涯学習各論	2		2	資格専門
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2		2	資格専門
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2		2	資格専門
	情報サービス論	2	情報サービス論	2		2	資格専門
	児童サービス論	2	子どもの読書活動と図書館	2		2	資格専門
	情報サービス演習	2	情報サービス演習A	1		2	資格専門
			情報サービス演習B	1			
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2		2	資格専門
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	2		2	資格専門
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習A	1		2	資格専門
情報資源組織演習B			1				
2 科目 2 単位 以上 必修	図書館基礎特論	1	学校経営と学校図書館		2	3	資格専門
	図書館サービス特論	1	学習指導と学校図書館		2	3	資格専門
	図書館情報資源特論	1	デジタルアーカイブ論		2	2	資格専門
	図書・図書館史	1	図書・図書館史特論		2	2	資格専門
	図書館施設論	1	図書館施設演習		1	2	資格専門
	図書館総合演習	1	—	—	—	—	
	図書館実習	1	—	—	—	—	

(2024年度以降入学生適用)

※備考欄に「資格専門」と記載がある科目については、履修規制単位数及びGPA算出には含みません。

1. 司書教諭資格とは

「司書教諭」は、学校図書館法によって規定されている学校図書館の専門職員です。図書館法で定められた司書とは、資格要件も職務の内容も大きく異なっています。端的に言えば、司書教諭は教諭として教育の一端を担います。

学校図書館が学校に設置される目的は、学校図書館法によれば二つあります。一つめは「学校の教育課程の展開に寄与する」ことです。児童・生徒は総合的な学習で「世界の食糧問題」について研究したり、世界史で「ローマ帝国」について学んだりします。現代の学校では、探究型の様々な学習が展開されますが、その成否は学校図書館がどれだけ充実しているかにかかっています。司書教諭は学習センターとしての学校図書館を整備し、教育活動に参画します。

二つめは「児童または生徒の健全な教養を育成する」ことです。子どもの読書離れが深刻化する今日のマルチメディア社会では、読書の意義が再認識されていますが、日々の学校生活の中で、もっとも身近な読書環境である学校図書館の果たす役割は非常に大きいと言えます。強制的にではなく、児童・生徒がくつろぎ、楽しみながら読書ができるような充実した環境を整えることも司書教諭の重要な仕事です。

なお自治体によっては、教員採用試験の際に、司書教諭資格を有する人は加点されることがあります。

2. 司書教諭資格を取得するには

司書教諭の資格要件は、学校図書館法第5条に「司書教諭は教諭等をもつて充てること」「当該教諭等は司書教諭の講習を修了した者でなければならないこと」が定められています。すなわち、司書教諭資格には教員免許（小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校）の取得が前提になりますので、司書教諭資格を取得したい人は、必ず教職課程を履修し、さらに司書教諭に関する科目を履修することになります。

履修すべき科目、単位、その他必要な事項は、学校図書館法施行規則によって定められています。これらの規則に基づき、本学では、学則別表第8-6に掲げられた所定の科目を開講していますので、これらの単位をすべて修得してください。

3. 司書教諭資格の修了証書

司書教諭資格の修了証書は、卒業年の翌年3月に、文部科学省から交付されます。この交付を受けるためには、卒業後の6月に、各自が書類申請しなければなりません。申請方法については、4年次に説明会を実施します。

修了証書の交付が卒業後になるため、在学中に作成する履歴書等に資格を記載したいときは「学校図書館司書教諭資格単位修得見込み」と記載してください。

4. 司書教諭になるには

1997年に学校図書館法が改正され、2003年4月より、一定規模以上の学校には司書教諭を置くことが義務づけられました。卒業後に司書教諭として働くには、おもに自治体の教員採用試験を受け、合格する必要があります。合格後は教育委員会による教員配置計画のなかで、司書教諭になるかどうかが決まります。私立学校の場合は別のルートになります。

5. ガイダンス 1年次10月下旬（日程は別途通知）に実施します。ガイダンスに出席しない者は、履修できない場合がありますので注意してください。
6. 編入学生の司書教諭課程履修について 他大学または短期大学からの3年次編入学生で、司書教諭課程の履修を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。
7. 司書教諭資格取得に関する科目（学則別表第8-6）

司書教諭資格取得に関する科目	学校図書館司書教諭講習規程の科目		本学開講授業科目			備考
	科目名	単位数	科目名	単位数	開講年次	
	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	3	資格専門
	学校図書館メディアの構成	2	情報資源組織論	2	2	資格専門
			図書館情報資源概論	2	2	資格専門
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	3	資格専門
	読書と豊かな人間性	2	子どもの読書活動と図書館	2	2	資格専門
	情報メディアの活用	2	メディア・リテラシー	2	2	資格専門

(2024年度以降入学生適用)

※備考欄に「資格専門」と記載がある科目については、履修規制単位数及びGPA算出には含みません。

Sugiyama

星が丘キャンパス

〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町17番3号
TEL(052)781-1186(代) FAX(052)781-7030

- 生活科学部
- 外国語学部
- 情報社会学部
- 現代マネジメント学部
- 教育学部
- 看護学部

日進キャンパス

〒470-0136 愛知県日進市竹の山3丁目2005番地
TEL(0561)74-1186(代) FAX(0561)73-4443

- 人間関係学部
-